

通信教育実施計画

令和 7 年度版

学校法人 村上学園

村上学園高等学校

学校教育目標

社会で通用する有為な人材育成

教育目標

- 1 自ら学び、考え、判断し、行動できる人間の育成
- 2 個性を伸ばし、創造力豊かな人間の育成
- 3 互いの人格を尊重し、自己主張と他者受容ができる人間の育成
- 4 基礎的な知識技能を習得し、周囲の人々や社会に感謝の心を保てる人間の育成
- 5 常に目的意識を持ち、望ましい職業観・勤労観をもった人間の育成

学校概要

学校名

村上上学園高等学校

学校長

村上 太

設置者

学校法人 村上学園 理事長 村上 太

設置年月日

平成 24 年 4 月 1 日

設置位置

本校は、香川県丸亀市幸町 1 丁目 1 0 - 1 6

課程、学科、定員、修業年限、科目履修生

課 程	学 科	入学定員	収容定員	修業年限	男女別
狭域通信制・単位制	普通科	100人	300人	3年以上	共学

面接指導等実施施設

名称 村上学園高等学校高松

設置場所 香川県高松市観光町5-4-5-3

校舎単位の人数

校 舎	入学定員	収容定員
本 校	40人	120人
高 松	60人	180人

設置コース

コース名	登校日数	コース概要
進学コース	週5日	国公立大や難関私大を目指したコース
通学コース	週4日 or 週5日	通信制課程で卒業するための単位取得を目指すだけでなく、そのほかの時間を有効に利用した基礎学習や体験を用意し、多様な進路に対応したコース
通信コース	週1日	通信制課程で卒業するための単位取得を目指すコース
在宅コース	年間20日程度	通信制課程で卒業するための単位取得を目指すコース

職員現員数

令和7年5月1日現在

理事長	校長	参与	教頭	教諭	講師	養護	S C	事務	校医	歯科	耳鼻	薬剤師	合計
1	1	1	2	13	27	2	1	4	1	2	2	1	58

生徒納付金について

○入学検定料 11,000円

費目	進学・通学コース	通信・在宅コース
入学金	100,000円（専願の場合50,000円）	
授業料（単位認定料）	12,000円（1単位あたり）	
教育充実費（月額）	5,000円	2,000円
施設整備費（月額）	5,000円	2,000円
通学対応費（月額）	10,000円	

〈 科目履修生 〉

科目履修登録料 20,000円

科目履修料（1単位） 12,000円

ホームルーム編成

	コース	学年	生徒数			担任	副担任
			男子	女子	合計		
丸 亀 校	通学コース	1年	6	5	11	前田	渡辺
		2年	11	8	19	小林	横井
		3年	11	4	15	池添	大林・浅沼
	通信コース	1年	2	10	12	前田	渡辺
		2年	4	12	16	小林	横井
		3年	13	6	19	池添	浅沼
	在宅コース	2年	1	0	1	小林	横井
高 松 校	通学コース	1年1組	5	6	11	波多間	松山・金谷
		1年2組	7	8	15	三好	
		2年1組	6	6	12	中西	木村ゆ
		2年2組	7	8	15	後藤	
		3年1組	3	4	7	伊藤	塚原
		3年2組	7	2	9	西岡	
	進学コース	1年	1	4	5	波多間	松山・金谷
		2年	4	4	8	中西	木村ゆ
		3年	1	1	2	伊藤	塚原
	通信コース	1年	3	2	5	松山	金谷

		2 年	2	5	7	後藤	木村ゆ
		3 年	1 0	4	1 4	西岡	塚原
	在宅コース	2 年	1	2	3	後藤	木村ゆ
		3 年	1	0	1	西岡	塚原
	合 計			1 0 6	1 0	2 0	
				1	7		

年間行事計画

4 月	5 月	6 月
新入生オリエンテーション 始業式 入学式 健康診断 新入生歓迎行事 P T A 総会・授業参観	校外学習	体育祭 合気道尾崎師範来校
7 月	8 月	9 月
1 学期末考査 三者懇談会 終業式 専修学校体験学習 オープンスクール	全校登校日 オープンスクール 文化祭準備 全国高等学校合気道演武大会 花の甲子園（四国大会）	始業式 文化祭 避難訓練
10 月	11 月	12 月
校外学習 オープンスクール 修学旅行（2 年）	オータム体験 生徒会役員改選	2 学期末考査 三者懇談会 レクリエーション大会 終業式 オープンスクール 講演会
1 月	2 月	3 月
始業式 卒業考査（3 年）	3 年生を送る会 学年末考査 オープンスクール 卒業式	キャリアデザイン授業（1・2 年） 三者懇談会 終業式

教育課程（令和5年度入学生）

進学		理系		令和5年度入学生			
教科名	科目名	必須	令和5年	令和6年	令和7年		
国語	現代の国語	○	2				
	言語文化	○	2				
	文学国語			2	2		
	古典探究			2	2		
	*国語基礎Ⅰ		1				
地理歴史	地理総合	○		2			
	歴史総合	○	2				
公民	日本史探究			2			
	公共	○					
数学	数学Ⅰ	○	3				
	数学Ⅱ				4		
	数学A		2				
	数学B			1			
	*数学基礎Ⅰ		1				
理科	科学と人間生活	科学と人 間生活Ⅰ を含む2 科目	△2		△2		
	化学基礎				△2		
	化学				2		
	生物基礎		○	3			
	体育・保健	○	1		1		
芸術	音楽Ⅰ	○Ⅰの 科目どれ か	△2				
	書道Ⅰ	△1					
	英コミュⅠ	○	3	3			
外国語	英コミュⅡ					4	
	論理・表現Ⅰ				2		
	論理・表現Ⅱ						
	*英語基礎Ⅰ		1				
	家庭総合	○	2		2		
家庭	*フートデザイン		2				
	情報Ⅰ	○	2				
情報	情報Ⅰ学習						
	総合的な探究の時間						
合計			31	34			

88

文系					
学 科名	科目名	令和5年度入学生			
		必須	令和5年	令和6年	令和7年
国語	現代の国語	○	2		
	言語文化	○	2		
	文学国語			2	
	古典探究			2	2
	*国語基礎Ⅰ		1		
地理歴史	地理総合	○		2	
	歴史総合	○	2	2	
公民	日本史探究			2	
	公共	○		2	
数学	数学Ⅰ	○	3		
	数学Ⅱ				
	数学科A			4	
	数学科B			1	2
	*数学基礎Ⅰ		1		
理科	科学と人間生活		△2		
	生物基礎	「科学と人間の生活を、含む2科目から選択」 含む2科目		△1	△2
健康体育	体育基礎			△1	
	保健	○	3		2
	音楽Ⅰ	○	1		
芸術	O・I」の科目どれか1つを選択		△2		
	書道Ⅰ		△1		
外国語	英コミュⅠ	○	3		
	英コミュⅡ			3	
	論理・表現Ⅰ				2
	論理・表現Ⅱ			2	
	*英語基礎Ⅰ		1		
家庭	家族総合				
	*フードデザイン		2	2	
情報	情報Ⅰ	○	2		
	情報Ⅱ演習		2		
総合的な学習の時間		○	1	1	1
			31	32	25
合計					

*学校指定科目

通信教育コース		令和5年度入学生	
教科名	科目名	令和5年	令和7年
国語	現代の国語	2	
	言語文化	2	
外国語	英語表現Ⅰ		4
	英語表現Ⅱ		3
地理歴史	地理総合	2	2
	歴史総合	2	2
公共	公民	3	3
	政治・経済	3	3
数学	数学Ⅰ		4
	数学A		
理科	科学・人間生活	2	2
	物理基礎	3	3
保健体育	体育	2	2
	保健	1	1
芸術	美術Ⅰ	2	
	音楽Ⅰ	3	3
外国語	英語・表現Ⅰ	3	2
	英語・表現Ⅱ	3	2
家庭	家庭総合	4	4
	情報Ⅰ		
総合的な学習の時間	総合的な学習の時間Ⅰ	2	2
	総合的な学習の時間Ⅱ	2	2
合計	合計	25	24

学 校 科 名	通 学・通 宿	科 目 名	令和5年度入学生	
			令和5年	令和6年
国語		現代の国語	○	
		言語文化	○	
		国語表現		4
		文学国語		4
地理歴史		*国語基礎Ⅰ	1	
		*国語基礎Ⅱ		1
		地理総合		3
		歴史総合	○	2
公民		日本史探究		4
		公共	○	2
数学		数学Ⅰ	○	2
		数学A	○	3
		*数学基礎Ⅰ		4
		*数学基礎Ⅱ	1	
理科		科学と人間生活		1
		化学基礎	△2	
保健体育		化学基礎	△2	△2
		体育	○	2
芸術		保健	○	3
		音楽Ⅰ	○	1
		音楽Ⅱ	△2	
		書道Ⅰ	△1	
外国語		英コミュ	○	△1
		論理・表現Ⅰ	○	3
		論理・表現Ⅱ	2	2
		*英語基礎Ⅰ	1	
家庭		*英語基礎Ⅱ		1
		家庭総合	○	2
情報		*フューチャーデザイン	○	2
		情報Ⅰ	○	2
総合的な探究の時間		総合	○	2
		情報Ⅱ	○	1
合計		通学	31	28
		通宿	25	25

※学校指定科目

※『国語基礎Ⅰ・Ⅱ』は「通学」のみ開講

※『数学基礎Ⅰ・Ⅱ』は「通学」のみ開講

※『地学基礎』は「通信」のみ開講

※『英語基礎Ⅰ・Ⅱ』は「通学」のみ開講

※『フードデザイン』は「通学」のみ開講

教科名	科目名	令和5年度入学生		
		令和5年	令和6年	令和7年
国語	現代の国語	2		
	言語文化	2		
	国語表現			
	文学国語	4		
	国語基礎Ⅰ	1	4	
地理歴史	国語基礎Ⅱ		1	
	地理総合			
	歴史総合	2	2	3
	公民	2	2	
数学	公民	3	3	
	数学Ⅰ			
	数学A			
	数学基礎Ⅰ	1	4	
理	数学基礎Ⅱ			
	数学と人間生活	2	1	
	生物基礎			
	体育	3	2	3
保健体育	保健	1	1	
	芸術	2		
外国語	英Ⅰ	3	3	
	英Ⅱ	3	2	
	英語表現Ⅰ			
	英語基礎Ⅰ	1	1	2
家庭	英語基礎Ⅱ			
	家庭総合		4	4
	フードデザイン	2	2	
	情報Ⅰ	2		
総合的な探究の時間	情報Ⅱ	1	1	1
	総合的な探究の時間	30	20	24
合計				83

教育課程（令和6年度入学生）

令和6年度入学生
通学・通信

教科	科目	標準 単位 数	面接 指導	必修 科目	1年	2年	3年
国語	現代の国語	2	2	1	○	3	
	言語文化	2	2	1	○	3	
	論理国語	4	4	1			4
	文学国語	4	4	1		2	2
	国語表現	4	4	1		4	
数学	*国語基礎Ⅰ				1		
	数学Ⅰ	3	2	1	○	3	3
	数学A	2	2	1			4
	*数学基礎Ⅰ				1		
	英語Ⅰ	3	4	○2単位まで	3	3	2
外国語	論理・表現Ⅰ	2	2			1	
	*英語基礎Ⅰ				1		
地理歴史	地理総合	2	2	1	○	2	2
	歴史総合	2	2	1	○	2	2
公民	政治・経済	2	2	1			2
	公共	2	2	1	○	2	2
理科	化学基礎	2	2	4	「科学と人間生		
	生物基礎	2	2	4	活」を 含む2科 目	△1	△1
芸術	音楽Ⅰ	2	2	4	○	2	2
	書道Ⅰ	2	2	4	○	2	2
家庭	家庭総合	4	4	2	○	2	2
	*フットデザイン				○	2	
情報	情報Ⅰ	2	2	2	○	2	
	総合的な探究の時間	3	3	1	○2単位まで	1	1
合計					31	28	24
					丸亀通学	32	29
					丸亀通信	26	24
					高松通信	26	24

* 学校指定科目
 ※『国語基礎』は「通学」のみ開講
 ※『数学基礎』は「通学」のみ開講
 ※『英語基礎』は「通学」のみ開講
 ※『科学と人間生活』を含む2科目又は『基礎』を付した科目を3科目
 ※『音楽Ⅰ』は「高松校」のみ開講
 ※『書道Ⅰ』は「丸亀校」のみ開講
 ※『美術Ⅰ』は「高松校」のみ開講
 ※『フットデザイン』は「通学」のみ開講

進学

教科	科目	標準 単位 数	面接 指導	必修 科目	1年	2年	3年
国語	現代の国語	2	2	1	○	2	
	言語文化	2	2	1	○	2	
	論理国語	4	4	1			2
	文学国語	4	4	1		2	2
	古典探究	4	4	1		2	2
数学	数学Ⅰ	3	3	1	○	3	4
	数学Ⅱ	4	4	1			2
	数学A	2	2	1		2	
	数学B	2	2	1			2
	英語Ⅰ	3	4	○2単位まで	3		2
外国語	英語Ⅱ	4	4			2	2
	論理・表現Ⅱ	2	2	4		2	2
地理歴史	地理総合	2	2	1	○	2	2
	歴史総合	2	2	1	○	2	2
公民	政治・経済	2	2	1			2
	公共	2	2	1	○	2	2
理科	化学基礎	2	2	4	「科学と人間生		
	生物基礎	2	2	4	活」を 含む2科 目	2	2
保健体育	体育	2	2	4	○	2	2
	音楽Ⅰ	2	2	4	○	2	2
芸術	書道Ⅰ	2	2	4	○	2	2
	家庭総合	4	4	2	○	2	2
情報	情報Ⅰ	2	2	2	○	2	
	総合的な探究の時間	3	3	1	○2単位まで	1	1
合計					32	30	25

※『科学と人間生活』を含む2科目又は『基礎』を付した科目を3科目
 ※『情報演習』は3年次に学習支援のみ

進学

教科	科目	標準 単位 数	面接 指導	必修 科目	1年	2年	3年
国語	現代の国語	2	2	1	○	2	
	言語文化	2	2	1	○	2	
	論理国語	4	4	1			2
	文学国語	4	4	1		2	2
	古典探究	4	4	1		2	2
数学	数学Ⅰ	3	3	1	○	3	4
	数学Ⅱ	4	4	1			2
	数学A	2	2	1		2	
	数学B	2	2	1			2
	英語Ⅰ	3	4	○2単位まで	3		2
外国語	英語Ⅱ	4	4			2	2
	論理・表現Ⅱ	2	2	4		2	2
地理歴史	地理総合	2	2	1	○	2	2
	歴史総合	2	2	1	○	2	2
公民	政治・経済	2	2	1			2
	公共	2	2	1	○	2	2
理科	化学基礎	2	2	4	「科学と人間生		
	生物基礎	2	2	4	活」を 含む2科 目	2	2
保健体育	体育	2	2	4	○	2	2
	音楽Ⅰ	2	2	4	○	2	2
芸術	書道Ⅰ	2	2	4	○	2	2
	家庭総合	4	4	2	○	2	2
情報	情報Ⅰ	2	2	2	○	2	
	総合的な探究の時間	3	3	1	○2単位まで	1	1
合計					32	32	29

※『科学と人間生活』を含む2科目又は『基礎』を付した科目を3科目
 ※『情報演習』は3年次に学習支援のみ

教育課程（令和7年度入学生）

令和7年度入学生

教科	科目	標準 単位 数	面接 指導	必修修 科目	通学・通信・在宅			進学				
					1年	2年	3年	1年	2年 文系	2年 理系	3年 文系	3年 理系
国語	現代の国語	2	1	○	3			3				
	言語文化	2	1	○	3			3				
	論理国語	4	1				4		2	2	2	2
	文学国語	4	1			2	2		2	2	2	2
	国語表現	4	1			4						
	古典探究	4	1						2	2	2	2
数学	数学Ⅰ	3	1	○	3	3		3				
	数学Ⅱ	4	1						4	4	2	
	数学Ⅲ	3	1									3
	数学A	2	1				4	2				
	数学B	2	1						2	2		
	数学C	2	1								2	2
外国語	英語コミュⅠ	3	4	○2単位ま	3			3				
	英語コミュⅡ	4	4			2	2		2	2	2	2
	論理・表現Ⅰ	2	4			2	2	2				
	論理・表現Ⅱ	2	4						2	2	2	2
地理歴史	地理総合	2	1	○			2	2				
	歴史総合	2	1	○	2	2		2				
	日本史探究	3	1						2	2	2	2
公民	公共	2	1	○	2	2			2	2		
	政治・経済	2	1				2				2	
理科	科学と人間生活	2	4	「科学と	△2			2				
	物理基礎	2	4	人間生						2		
	物理	4	4	活」を含								4
	化学基礎	2	4	む2科目		2		2				
	化学	4	4	又は						2		2
	生物基礎	2	4	基礎を付	△2							
保健体育	地学基礎	2	4	した科目			2		2		1	
	体育	7～8	5	○	2	2	3	2	2	2	3	3
芸術	保健	2	1	○	1	1		1	1	1		
	音楽Ⅰ	2	4	○「Ⅰ」の	△2			2				
	美術Ⅰ	2	4	科目どれ	△2							
家庭	書道Ⅰ	2	4	か1科目	△1	△1						
	家庭総合	4	2～8			2	2		2	2	2	2
情報	*フードデザイン				△2	△2		2	2	2		
	情報Ⅰ	2	2～8	○	2			2				
総合的な探究の時間	*情報演習											
		3～6	1	○2単位ま	1	1	1	1	1	1	1	1

丸亀通学	28			27			26					81
高松通学	29			28			26					83
丸亀通信	26			25			26					77
高松通信	26			25			26					77
丸亀在宅	26			25			26					77
高松在宅	26			25			26					77
進学(文系)		34			30			25				89
進学(理系)		34				32			29			95

* 学校指定科目

※『科学と人間生活』は「高松校」のみ開講

※『生物基礎』は「丸亀校」のみ開講

※『音楽Ⅰ』は「高松校」のみ開講

※『美術Ⅰ』は「丸亀校」のみ開講

※『書道Ⅰ』は「高松校」の「通学」のみ開講

※『フードデザイン』は「通学・進学」のみ開講

※『情報演習』は「進学」の3年次に学習支援のみ

時間割（丸亀）通学コース

通学コース時間割																	2025/4/4 更新				
月					火			水			木			金							
1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年				
																	登校				
SHR	SHR	SHR	SHR	SHR	SHR	SHR	SHR	SHR	SHR	SHR	SHR	SHR	SHR	SHR	SHR	SHR	SHR				
1	情報Ⅰ (渡辺)	公共 (池原)	家庭総合 (前田)	英語Ⅰ (熊子)	英コミュⅠ (草薙)	数学A (小林)	9:10～9:50 基礎学習/復習	SHR				FD (前田)	英コミュⅠ (草薙)	化学基礎 (渡辺)	地理総合 (池原)	生物基礎 (渡辺)	家庭総合 (新田)				
2	現代の国語 (志村)	数学Ⅰ (小林)	生物基礎 (渡辺)	英コミュⅠ (草薙)	歴史総合 (池原)	体育・保健 (渡辺)	10:00～11:00 全校クラブ						FD (前田)	体育・保健 (渡辺)	数学A (小林)	論理表現Ⅰ (藤原)	生物基礎 (渡辺)				
3	公共 (池原)	文学国語 (志村)	論理表現Ⅰ (都築)	数学Ⅰ (大林)	化学基礎 (渡辺)										文学国語 (高橋)	家庭総合 (前田)	論理表現Ⅰ (都築)				
	12:00	～	12:30	昼休み																	
	12:30	～	12:40	清掃																	
	12:40	～	13:20	基礎学習/復習																	
	13:20	～	13:30	SHR																	
	13:35	～	14:25	合気道/剣道学習			総合学習														
	14:35	～	15:25	検定			LHR														
							検定						総合探究								
													進路学習								

令和7年度 丸亀校 履修科目一覧(通学コース)

※赤字は週案に反映済

[illegible][illegible]

スクーリング時間割（通信コース）

[illegible]

令和7年度 丸亀校 履修科目一覧(通信コース)

※赤字は週案に反映済

[illegible][illegible]

時間割（丸亀）在宅コース

スクーリング時間割（在宅コース）

2025/3/17 更新

日誌	4/16日			交			3			S		
	1番	2番	3番	1番	2番	3番	1番	2番	3番	1番	2番	3番
1		数字1 小杉			化学基礎 渡辺			化学基礎 渡辺			化学基礎 渡辺	
2		国語・英語 池田			体育 渡辺			化学基礎 渡辺			国語・英語1 池田	
3		英語・数学1 都賀			体育 都賀			英語・数学1 都賀			英語・数学1 都賀	

国籍	注				④				⑤			
	5月30日		6月25日		6月30日		6月30日		6月30日		6月30日	
日付	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
1	1	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
2	1	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
3	1	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年

[illegible]

回線		第 期					
白片		11月26日					
	学年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1	1	新田 家信記念					
2	2	公共 北平					
3	3	文学関係 文芸部					

年度	第 1 学期				第 2 学期				2/16~2/20
	1 年	2 年	3 年	4 年	1 年	2 年	3 年		
1		化学基礎	数学Ⅱ	英語Ⅱ	2 年	家庭社会	理科Ⅱ		
2		物理	数学Ⅲ	英語Ⅲ	3 年	理科Ⅲ	英語Ⅲ		
3		第 2 年 1 学期	第 2 年 2 学期	第 2 年 3 学期	第 2 年 4 学期	第 2 年 5 学期	第 2 年 6 学期		

通常日課		特別日課	
1校時	9:00 ~ 9:50	1校時	13:00 ~ 13:50
2校時	9:55 ~ 10:45	2校時	14:00 ~ 14:50
3校時	10:50 ~ 11:40	3校時	15:00 ~ 15:50
		4校時	16:00 ~ 16:50

令和7年度 丸亀校 履修科目一覧(在宅コース)

※赤字は週案に反映済

[illegible]

時間割 (高松) 通学・進学コース

令和7年度 村上学園高等学校「高松校」通学・進学コース時間割(案)

教室 SHR 9:10~9:20	月												水			
	201 1年1組	203 1年2組	205 1年3組	202 2年1組	204 2年2組	201 3年1組	203 3年2組	205 3年3組	202 3年4組	204 3年5組	201 3年6組	203 3年7組	205 3年8組	202 3年9組	204 3年10組	205 3年11組
1	9:20 10:10	公共 伊藤	英語 伊藤	英語 伊藤	英語 伊藤	英語 伊藤	英語 伊藤	英語 伊藤	英語 伊藤	英語 伊藤	英語 伊藤	英語 伊藤	英語 伊藤	英語 伊藤	英語 伊藤	英語 伊藤
2	10:20 11:10	LHR/合気道 伊藤	LHR/合気道 伊藤	LHR/合気道 伊藤	LHR/合気道 伊藤	LHR/合気道 伊藤	LHR/合気道 伊藤	LHR/合気道 伊藤	LHR/合気道 伊藤	LHR/合気道 伊藤	LHR/合気道 伊藤	LHR/合気道 伊藤	LHR/合気道 伊藤	LHR/合気道 伊藤	LHR/合気道 伊藤	LHR/合気道 伊藤
3	11:20 12:10	数学I 伊藤	数学I 伊藤	数学I 伊藤	数学I 伊藤	数学I 伊藤	数学I 伊藤	数学I 伊藤	数学I 伊藤	数学I 伊藤	数学I 伊藤	数学I 伊藤	数学I 伊藤	数学I 伊藤	数学I 伊藤	数学I 伊藤
4	12:40~12:50	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)
5	13:50~ 14:40	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)
6	14:50~ 15:40	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)

教室 SHR 9:10~9:20	金												土			
	201 1年1組	203 1年2組	205 1年3組	202 2年1組	204 2年2組	201 3年1組	203 3年2組	205 3年3組	202 3年4組	204 3年5組	201 3年6組	203 3年7組	205 3年8組	202 3年9組	204 3年10組	205 3年11組
1	9:20 10:10	英語文化 伊藤	英語文化 伊藤	英語文化 伊藤	英語文化 伊藤	英語文化 伊藤	英語文化 伊藤	英語文化 伊藤	英語文化 伊藤	英語文化 伊藤	英語文化 伊藤	英語文化 伊藤	英語文化 伊藤	英語文化 伊藤	英語文化 伊藤	英語文化 伊藤
2	10:20 11:10	現代の国語 伊藤	現代の国語 伊藤	現代の国語 伊藤	現代の国語 伊藤	現代の国語 伊藤	現代の国語 伊藤	現代の国語 伊藤	現代の国語 伊藤	現代の国語 伊藤	現代の国語 伊藤	現代の国語 伊藤	現代の国語 伊藤	現代の国語 伊藤	現代の国語 伊藤	現代の国語 伊藤
3	11:20 12:10	英コミュI 伊藤	英コミュI 伊藤	英コミュI 伊藤	英コミュI 伊藤	英コミュI 伊藤	英コミュI 伊藤	英コミュI 伊藤	英コミュI 伊藤	英コミュI 伊藤	英コミュI 伊藤	英コミュI 伊藤	英コミュI 伊藤	英コミュI 伊藤	英コミュI 伊藤	英コミュI 伊藤
4	12:40~12:50	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)	基礎学習 (スタディサプリ)
5	13:50~ 14:40	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)
6	14:50~ 15:40	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)	選択授業 マンガイス(伊藤)

令和7年度 村上学園高等学校高松 フードデザイン

日時	学年	クラス
5/20 (火)	2	大進・1組
6/24 (火)	2	2組
9/11 (木)	1	大進・1組
10/30 (木)	1	2組
11/4 (火)	2	大進・1組
11/25 (火)	2	2組
11/27 (木)	1	大進・1組
11/28 (金)	1	2組
1/20 (火)	2	大進・1組
1/27 (火)	2	2組
1/30 (金)	1	大進・1組
2/3 (火)	1	2組

スクーリング（高松）通学・進学コース

令和7年度 村上学園高等学校「高松校」通学・進学コース 面接授業日一覧

[illegible][illegible][illegible]

令和7年度 村上学園高等学校「高松校」通信コース 時間割(案)

⑩ 4/16(水)			⑨ 4/23(水)			⑧ 4/30(水)			⑦ 5/7(水)			⑥ 5/14(水)			⑤ 5/21(水)			④ 5/28(水)		
1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
LHR	音楽	日本史探究	音楽	地理・表現Ⅰ	日本史探究	音楽	地理・表現Ⅰ	日本史探究	音楽	地理・表現Ⅰ	日本史探究	音楽	地理・表現Ⅰ	日本史探究	音楽	地理・表現Ⅰ	日本史探究	音楽	地理・表現Ⅰ	日本史探究
担任	音楽	本郷	音楽	本郷	本郷	音楽	本郷	本郷	音楽	本郷	本郷	音楽	本郷	本郷	音楽	本郷	本郷	音楽	本郷	本郷
1	2	3	4/16	4/23	4/30	5/7	5/14	5/21	5/28	6/4	6/11	6/18	6/25	7/2	7/9	7/16	7/23	7/30	8/6	8/13
9:10~9:20	9:20~10:10	10:10~11:10	11:10~12:10	12:10~13:45	13:45~14:45	9:10~9:20	9:20~10:10	10:10~11:10	11:10~12:10	12:10~13:45	13:45~14:45	9:10~9:20	9:20~10:10	10:10~11:10	11:10~12:10	12:10~13:45	13:45~14:45	9:10~9:20	9:20~10:10	10:10~11:10
1	2	3	4	5		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5		1	2	3
6/6(金)	6/13(金)	6/20(金)	6/27(金)	7/4(金)	7/11(金)	7/18(金)	7/25(金)	8/1(金)	8/8(金)	8/15(金)	8/22(金)	8/29(金)	9/5(金)	9/12(金)	9/19(金)	9/26(金)	10/3(金)	10/10(金)	10/17(金)	10/24(金)
体育	音楽	化学基礎	現代の国語	化学基礎	現代の国語	化学基礎	現代の国語	化学基礎	現代の国語	化学基礎	現代の国語	化学基礎	現代の国語	化学基礎	現代の国語	化学基礎	現代の国語	化学基礎	現代の国語	化学基礎
SC	SC	SC	SC	SC	SC	SC	SC	SC	SC	SC	SC	SC	SC	SC	SC	SC	SC	SC	SC	SC
英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション	英語コミュニケーション
後援	後援	後援	後援	後援	後援	後援	後援	後援	後援	後援	後援	後援	後援	後援	後援	後援	後援	後援	後援	後援
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井
大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井	大井

時間割・スクーリング（高松）通信コース1年

	203教室	① 4/16(水)	② 4/25(金)	③ 4/30(水)	④ 5/9(金)	⑤ 5/14(水)	⑥ 5/21(水)	⑦ 5/28(水)	⑧ 6/4(水)	⑨ 6/11(水)	⑩ 6/20(金)	⑪ 6/25(水)
	9:10~9:20						SHR					
1	9:20~10:10	LHR 担任	科学と人間② 高橋	音楽 木村	音楽 木村	音楽 木村	情報Ⅰ 木村	音楽② 木村	音楽 木村	音楽③ 木村	科学と人間③ 高橋	情報Ⅰ 木村
2	10:20~11:10	音楽① 木村	体育③ 三好	公共 西岡	公共 西岡	公共 西岡	歴史総合 伊藤	公共 西岡	歴史総合 伊藤	現代の国語 波多間	体育⑤ 三好	歴史総合 伊藤
3	11:20~12:10	歴史総合① 伊藤	体育② 三好	言語文化① 志村	体育④ 三好	現代の国語① 波多間	現代の国語 波多間	現代の国語 波多間	言語文化 志村	公共 西岡	保健① 三好	言語文化 志村
4	12:55~13:45	情報Ⅰ① 木村		数学Ⅰ① 中西		情報Ⅰ 木村	数学Ⅰ 中西	数学Ⅰ 中西	情報Ⅰ② 木村	数学Ⅰ 中西		数学Ⅰ 中西
5	13:55~14:45	英語コミュⅠ① 後藤		英語コミュⅠ② 後藤		英語コミュⅠ 後藤	英語コミュⅠ③ 後藤	英語コミュⅠ④ 後藤	英語コミュⅠ⑤ 後藤	英語コミュⅠ⑥ 後藤		英語コミュⅠ 後藤

	203教室	7/2~7/4	⑫ 9/3(水)	⑬ 9/10(水)	⑭ 9/19(金)	⑮ 9/24(水)	⑯ 10/3(金)	⑰ 10/8(水)	⑱ 10/15(水)	⑲ 10/22(水)	⑳ 10/29(水)	㉑ 11/7(金)
	9:10~9:20						SHR					
1	9:20~10:10		音楽 木村	情報Ⅰ③ 木村	科学と人間④ 高橋	音楽④ 木村	科学と人間⑤ 高橋	音楽⑤ 木村	歴史総合 伊藤	音楽 木村	音楽⑥ 木村	科学と人間⑥ 高橋
2	10:20~11:10	7/2(水) ~ 7/4(金) 1学期 期末テスト	歴史総合 伊藤	公共 西岡	体育⑥ 三好	歴史総合 伊藤	体育⑧ 三好	情報Ⅰ 木村	情報Ⅰ④ 木村	公共 西岡	現代の国語 波多間	体育⑩ 三好
3	11:20~12:10		情報Ⅰ 木村	現代の国語② 波多間	体育⑦ 三好	現代の国語 波多間	体育⑨ 三好	言語文化② 志村	言語文化 志村	言語文化 志村	情報Ⅰ 木村	体育⑪ 三好
4	12:55~13:45		数学Ⅰ② 中西	数学Ⅰ 中西	三好	数学Ⅰ 中西	三好	数学Ⅰ 中西	現代の国語 波多間	数学Ⅰ 中西	数学Ⅰ③ 中西	三好
5	13:55~14:45		英語コミュⅠ⑦ 後藤	英語コミュⅠ 後藤		英語コミュⅠ 後藤		英語コミュⅠ⑧ 後藤	英語コミュⅠ 後藤	英語コミュⅠ 後藤	英語コミュⅠ⑨ 後藤	

	203教室	㉒ 11/12(水)	㉓ 11/21(金)	㉔ 11/26(水)	12/3~12/5	㉕ 1/14(水)	㉖ 1/23(金)	㉗ 1/28(水)	㉘ 2/4(水)	2/18~2/20
	9:10~9:20					SHR				
1	9:20~10:10	音楽 木村	科学と人間⑦ 高橋	音楽⑦ 木村	12/3(水) ~ 12/5(金) 2学期 期末テスト	音楽⑧ 木村	科学と人間⑧ 高橋	公共② 西岡	音楽 木村	2/18(水) ~ 2/20(金) 3学期 学年末テスト
2	10:20~11:10	歴史総合 伊藤	体育⑫ 三好	公共 西岡		公共 西岡	体育⑬ 三好	歴史総合② 伊藤	歴史総合 伊藤	
3	11:20~12:10	言語文化 志村	保健② 三好	現代の国語③ 波多間		言語文化③ 志村	保健③ 三好	現代の国語 波多間	言語文化 志村	
4	12:55~13:45	数学Ⅰ 中西		数学Ⅰ 中西		数学Ⅰ 中西	三好	情報Ⅰ 木村	数学Ⅰ 中西	
5	13:55~14:45	英語コミュⅠ⑩ 後藤		英語コミュⅠ 後藤		英語コミュⅠ⑪ 後藤		英語コミュⅠ 後藤	英語コミュⅠ⑫ 後藤	

時間割・スクーリング（高松）通信コース2年

305教室	① 4/18(金)	② 4/23(水)	③ 4/30(水)	④ 5/7(水)	⑤ 5/14(水)	⑥ 5/21(水)	⑦ 5/28(水)	⑧ 6/6(金)	⑨ 6/11(水)	⑩ 6/18(水)
9:10~9:20	SHR									
1 9:20~10:10	LHR 担任	論理・表現Ⅰ① 本澤	論理・表現Ⅰ② 本澤	論理・表現Ⅰ 本澤	家庭総合 松山	論理・表現Ⅰ 本澤	論理・表現Ⅰ 本澤	英コミュⅠ④ 後藤	論理・表現Ⅰ③ 本澤	
2 10:20~11:10	体育① 三好	化学基礎① 古川	文学国語① 波多間	化学基礎 古川	化学基礎 古川	化学基礎 古川	家庭総合 松山	体育③ 三好	化学基礎② 古川	
3 11:20~12:10	体育② 三好	国語表現① 志村	公共① 西岡	国語表現 志村	国語表現 志村	公共 西岡	国語表現 志村	保健① 三好	LHR 担任	
4 12:55~13:45		英コミュⅠ① 後藤	家庭総合① 松山	英コミュⅠ② 後藤	英コミュⅠ 後藤	英コミュⅠ③ 後藤	英コミュⅠ 後藤		英コミュⅠ⑤ 後藤	
5 13:55~14:45		数字Ⅰ① 大井	歴史総合① 伊藤	数字Ⅰ 大井	公共 西岡	数字Ⅰ 大井	歴史総合 伊藤		数字Ⅰ② 大井	
305教室	⑪ 6/25(水)	7/2~7/4	7/11(金)	⑬ 9/10(水)	⑭ 9/17(水)	⑮ 9/26(金)	⑯ 10/1(水)	⑰ 10/8(水)	⑱ 10/10(金)	⑲ 10/17(金)
9:10~9:20	SHR									
1 9:20~10:10	論理・表現Ⅰ 本澤	7/2(水)~ 7/4(金) 1学期 期末テスト		論理・表現Ⅰ④ 本澤	論理・表現Ⅰ 本澤		論理・表現Ⅰ⑤ 本澤	論理・表現Ⅰ 本澤		英コミュⅠ⑧ 後藤
2 10:20~11:10	化学基礎 古川		体育④ 三好	化学基礎③ 古川	化学基礎 古川	体育⑥ 三好	英コミュⅠ⑦ 後藤	家庭総合 松山	体育⑧ 三好	体育⑩ 三好
3 11:20~12:10	歴史総合 伊藤		体育⑤ 三好	国語表現② 志村	文学国語 波多間	体育⑦ 三好	化学基礎④ 古川	公共 西岡	体育⑨ 三好	体育⑪ 三好
4 12:55~13:45	英コミュⅠ 後藤			英コミュⅠ⑥ 後藤	英コミュⅠ 後藤	三好	公共 西岡	英コミュⅠ 後藤	三好	
5 13:55~14:45	数字Ⅰ 大井			家庭総合② 松山	公共 西岡		歴史総合 伊藤	数字Ⅰ 大井		
305教室	⑳ 11/5(水)	㉑ 11/14(金)	㉒ 11/19(水)	㉓ 11/26(水)	12/3~12/5	㉔ 1/14(水)	㉕ 1/21(水)	㉖ 1/28(水)	㉗ 2/6(金)	2/18~2/20
9:10~9:20	SHR									
1 9:20~10:10	論理・表現Ⅰ⑥ 本澤		論理・表現Ⅰ 本澤	論理・表現Ⅰ⑦ 本澤	12/3(水)~ 12/5(金) 2学期 期末テスト	公共② 西岡	論理・表現Ⅰ 本澤	論理・表現Ⅰ⑧ 本澤		
2 10:20~11:10	化学基礎⑤ 古川	体育⑥ 三好	歴史総合 伊藤	化学基礎⑥ 古川		化学基礎⑦ 古川	化学基礎 古川	化学基礎⑧ 古川	体育⑯ 三好	2/18(水)~ 2/20(金) 3学期 学年末テスト
3 11:20~12:10	家庭総合③ 松山	保健② 三好	文学国語 波多間	国語表現③ 志村		歴史総合② 伊藤	国語表現 志村	国語表現④ 志村	保健③ 三好	
4 12:55~13:45	英コミュⅠ⑨ 後藤		家庭総合 松山	英コミュⅠ⑩ 後藤		英コミュⅠ⑪ 後藤	家庭総合 松山	英コミュⅠ⑫ 後藤		
5 13:55~14:45	文学国語② 波多間		数字Ⅰ 大井	数字Ⅰ③ 大井		家庭総合④ 松山	文学国語 波多間	数字Ⅰ 大井		

時間割・スクーリング（高松）在宅コース2年

	① 4/18(金)	② 4/23(水)	③ 4/30(水)	④ 6/6(金)	⑤ 6/11(水)	⑦ 7/2~7/4	⑧ 9/26(金)	⑨ 10/1(水)	⑩ 10/10(金)
	9:10~9:20					SHR			
1	9:20~10:10	論理・表現Ⅰ① 本澤	論理・表現Ⅰ② 本澤	英コミュⅠ④ 後藤	論理・表現Ⅰ③ 本澤	7/2(水) ~ 7/4(金) 1学期 期末テスト		論理・表現Ⅰ④ 本澤	論理・表現Ⅰ⑤ 本澤
2	10:20~11:10	化学基礎① 古川	文学国語① 波多間	体育③ 三好	化学基礎② 古川		体育④ 三好	化学基礎③ 古川	英コミュⅠ⑦ 後藤
3	11:20~12:10	体育② 三好	国語表現① 志村	保健① 三好	LHR 担任		体育⑤ 三好	国語表現② 志村	化学基礎④ 古川
4	12:55~13:45		英コミュⅠ① 後藤		英コミュⅠ⑤ 後藤			英コミュⅠ⑥ 後藤	
5	13:55~14:45		数学Ⅰ① 大井		数学Ⅰ② 大井			家庭総合② 松山	

英コミュⅠ②⑤は5月に開講予定

	⑩ 10/31	⑪ 11/5(水)	⑫ 11/14(金)	⑬ 11/26(水)	12/3~12/5	⑭ 1/14(水)	⑮ 1/28(水)	⑯ 2/6(金)	2/18~2/20
	9:10~9:20				SHR				
1	9:20~10:10	英コミュⅠ⑧ 後藤	論理・表現Ⅰ⑥ 本澤	論理・表現Ⅰ⑦ 本澤	12/3(水) ~ 12/5(金) 2学期 期末テスト	公共② 西岡	論理・表現Ⅰ⑧ 本澤		2/18(水) ~ 2/20(金) 3学期 学年末テスト
2	10:20~11:10	体育⑧ 三好	化学基礎⑤ 古川	化学基礎⑥ 古川		化学基礎⑦ 古川	化学基礎⑧ 古川	体育⑪ 三好	
3	11:20~12:10	体育⑨ 三好	家庭総合③ 松山	国語表現③ 志村		歴史総合② 伊藤	国語表現④ 志村	保健③ 三好	
4	12:55~13:45		英コミュⅠ⑨ 後藤	英コミュⅠ⑩ 後藤		英コミュⅠ⑪ 後藤	英コミュⅠ⑫ 後藤		
5	13:55~14:45		文学国語② 波多間	数学Ⅰ③ 大井		家庭総合④ 松山			

時間割・スクーリング（高松）通信コース3年

	① 4/16(水)	② 4/23(水)	③ 4/30(水)	④ 5/7(水)	⑤ 5/14(水)	⑥ 5/21(水)	⑦ 5/28(水)	⑧ 6/4(水)	⑨ 6/11(水)	⑩ 6/18(水)
	SHR									
306教室 9:10～9:20	日本史探究① 西岡	日本史探究 西岡	論理・表現Ⅰ 金谷	日本史探究 西岡	日本史探究 西岡	地理総合 伊藤	日本史探究 西岡	日本史探究 西岡	日本史探究 西岡	
1 9:20～10:10	論理・表現Ⅰ① 金谷	論理・表現Ⅰ 金谷	化学基礎 古川	論理・表現Ⅰ 金谷	論理・表現Ⅰ 金谷	論理・表現Ⅰ② 金谷	論理・表現Ⅰ 金谷	論理・表現Ⅰ③ 金谷	地理総合 伊藤	
2 10:20～11:10	化学基礎① 古川	化学基礎 伊藤	地理総合① 伊藤	化学基礎 古川	化学基礎 古川	化学基礎② 古川	化学基礎 古川	化学基礎③ 古川	化学基礎 古川	
3 11:20～12:10	文学国語① 波多間	数学A 大井	体育① 三好	数学A 大井	数学A 大井	体育③ 三好	文学国語 波多間	体育⑤ 三好	数学A 大井	
4 12:55～13:45	数学A① 大井	文学国語 波多間	体育② 三好	文学国語 波多間	文学国語 波多間	体育④ 三好	数学A 大井	体育⑥ 三好	文学国語 波多間	
5 13:55～14:45										体育祭

	⑪ 6/25(水)	⑫ 7/2～7/4	⑬ 9/3(水)	⑭ 9/10(水)	⑮ 9/17(水)	⑯ 9/24(水)	⑰ 10/1(水)	⑱ 10/8(水)	⑲ 10/15(水)	⑳ 10/22(水)
	SHR									
306教室 9:10～9:20	論理・表現Ⅰ 金谷	7/2(水) ～ 7/4(金) 1学期 期末テスト	日本史探究② 西岡	日本史探究 西岡	地理総合② 伊藤	日本史探究 西岡	化学基礎 古川	日本史探究 西岡	地理総合 伊藤	日本史探究 西岡
1 9:20～10:10	体育⑦ 三好		論理・表現Ⅰ④ 金谷	論理・表現Ⅰ 金谷	論理・表現Ⅰ⑤ 金谷	論理・表現Ⅰ 金谷	論理・表現Ⅰ 金谷	論理・表現Ⅰ 金谷	論理・表現Ⅰ 金谷	論理・表現Ⅰ⑥ 金谷
2 10:20～11:10	化学基礎④ 古川		化学基礎⑤ 古川	化学基礎 古川	化学基礎⑥ 古川	化学基礎 古川	地理総合 伊藤	化学基礎 古川	化学基礎 古川	化学基礎⑦ 古川
3 11:20～12:10	数学A② 大井		文学国語③ 波多間	地理総合 伊藤	数学A③ 大井	体育⑧ 三好	数学A 大井	数学A 大井	数学A 大井	体育⑩ 三好
4 12:55～13:45	文学国語② 波多間		数学A 大井	文学国語 波多間	文学国語④ 波多間	体育⑨ 三好	文学国語 波多間	地理総合 伊藤	文学国語 波多間	体育⑪ 三好
5 13:55～14:45										

	㉑ 10/29(水)	㉒ 11/5(水)	㉓ 11/12(水)	㉔ 11/19(水)	㉕ 11/26(水)	㉖ 12/3～12/5	㉗ 1/14(水)	㉘ 1/21(水)	
	SHR								
306教室 9:10～9:20	地理総合 伊藤	日本史探究③ 西岡	地理総合 伊藤	日本史探究 西岡	日本史探究 西岡	12/3(水) ～ 12/5(金) 2学期 期末テスト	地理総合 伊藤	論理・表現Ⅰ 金谷	1/28(水) ～ 1/30(金) 卒業テスト
1 9:20～10:10	論理・表現Ⅰ 金谷	地理総合③ 伊藤	論理・表現Ⅰ 金谷	論理・表現Ⅰ 金谷	体育④ 三好		論理・表現Ⅰ⑧ 金谷	文学国語 波多間	
2 10:20～11:10	化学基礎 古川	化学基礎⑧ 古川	化学基礎 古川	化学基礎 古川	論理・表現Ⅰ⑦ 金谷		金谷	波多間	
3 11:20～12:10	文学国語 波多間	文学国語⑤ 波多間	体育② 三好	地理総合 伊藤	数学A④ 大井		日本史探究④ 西岡	化学基礎 古川	
4 12:55～13:45	数学A 大井	数学A 大井	体育③ 三好	文学国語 波多間	文学国語⑥ 波多間		体育⑤ 三好	数学A 大井	
5 13:55～14:45							体育⑥ 三好	体育⑦ 三好	

時間割・スクーリング（高松）在宅コース3年

	306教室	① 4/16(水)	② 4/30(水)	③ 5/21(水)	④ 6/4(水)	⑤ 6/25(水)	7/2~7/4	⑥ 9/3(水)	⑦ 9/17(水)
	9:10~9:20	SHR							
1	9:20~10:10	日本史探究① 西岡					1 学 期 期 末 テ ス ト	日本史探究② 西岡	地理総合② 伊藤
2	10:20~11:10	論理・表現Ⅰ① 金谷		論理・表現Ⅰ② 金谷	論理・表現Ⅰ③ 金谷	体育⑦ 三好		論理・表現Ⅰ④ 金谷	論理・表現Ⅰ⑤ 金谷
3	11:20~12:10	化学基礎① 古川	地理総合① 伊藤	化学基礎② 古川	化学基礎③ 古川	化学基礎④ 古川		化学基礎⑤ 古川	化学基礎⑥ 古川
4	12:55~13:45	文学国語① 波多間	体育① 三好	体育③ 三好	体育⑤ 三好	数学A② 大井		文学国語③ 波多間	数学A③ 大井
5	13:55~14:45	数学A① 大井	体育② 三好	体育④ 三好	体育⑥ 三好	文学国語② 波多間			文学国語④ 波多間

	306教室	⑧ 9/24(水)	⑨ 10/22(水)	⑩ 11/5(水)	⑪ 11/12(水)	⑫ 11/26(水)	12/1~12/5	⑬ 1/14(水)
	9:10~9:20	SHR						
1	9:20~10:10			日本史探究③ 西岡			2 学 期 期 末 テ ス ト	
2	10:20~11:10		論理・表現Ⅰ⑥ 金谷	地理総合③ 伊藤		体育⑩ 三好		論理・表現Ⅰ⑧ 金谷
3	11:20~12:10		化学基礎⑦ 古川	化学基礎⑧ 古川		論理・表現Ⅰ⑦ 金谷		日本史探究④ 西岡
4	12:55~13:45	体育⑧ 三好	体育⑩ 三好	文学国語⑤ 波多間	体育⑫ 三好	数学A④ 大井		体育⑮ 三好
5	13:55~14:45	体育⑨ 三好	体育⑪ 三好		体育⑬ 三好	文学国語⑥ 波多間		体育⑯ 三好

1/28(水)
~
1/30(金)
卒業テスト

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者	
必修	1	国語	現代の国語	3	志村 和弥	
学習目標						
三領域の「読むこと」「聞くこと」を中心に学び、構成を意識した文章の読み方や話の聞き方を習得し、文章の論理を理解する。また、「書くこと」、「話す」ことにおいても、論理を意識した理解で得た知見について自分の意見を効果的な伝達手段を利用して表現することを学ぶ。三領域における活動の補助的役割を果たす方法論を学び、生徒それぞれの論理を理解する力や、表現する力を豊かなものにしていく。						
面接指導	3単位時間		教科書	「新編現代の国語」東京書籍		
レポート	全9通		副教材	「新編現代の国語学習課題ノート」東京書籍		
単位認定試験	年間3回	単位認定30点以上	評定	5段階評価、観点別評価の実施		
メディア利用	なし					
添削課題（レポート）						
回	単元	学習内容			教科書ページ	提出締切り
1	自己をみつめる 「こそそめスープ」	段落構成を意識し、大きく三つの内容構成に分かれていることを理解する。三つの内容構成（意味段落）に見出しをつける。第2段から第3段への繋がりを理解する。異文化理解や多文化共生という、現代社会でのテーマにも関わっていることを考え、理解する。			p 6～p 11	令和7年5月の指定日
2	他者に出会う 「水の東西」	段落構成を意識し、大きく四つの内容構成に分かれていることを理解する。本格的な評論文であり、難解な文章であるので、形式段落一つ一つを丁寧に読み、形式段落の繋がりを各段落の内容、あるいは語句（接続語）から理解できる。三つの内容構成（意味段落）に見出しをつける。第3段から第4段への繋がりを理解する。「鹿おどし」が、日本人が水を鑑賞する行為であることに繋がっていることを理解できる。			p 33～p 38	令和7年6月の指定日
3	世界とつながる 「美しさの発見」	段落構成を意識させ、大きく四つの内容構成に分かれていることを理解する。四つの内容構成（意味段落）に見出しをつける。第3段から第4段への繋がりを理解する。人の心の在り方が、感受性を育み、そして、新しい美を発見していくことができることを理解する。また、心の世界を広げていくことが、自己理解、他者理解、多文化理解へと繋がっていくことを理解する。			p 142～p 149	令和7年6月の指定日
4	他者に出会う 「未来をつくる想像力」	段落構成を意識させ、大きく三つの内容構成に分かれていることを理解する。三つの内容構成（意味段落）に見出しをつける。第3段の内容理解と、第2段から第3段への繋がりを理解する。社会を成り立たせている他人を思いやる力がなくなるといふ筆者の主張に対して、なぜなのを考え、自分の意見をまとめる。			p 24～p 30	令和7年10月の指定日
5	社会と関わる 「鍋洗いの日々」	段落構成を意識させ、大きく三つの内容構成に分かれていることを理解する。三つの内容構成（意味段落）に見出しをつける。第1段、第2段の内容理解と、第2段から第3段への繋がりを理解する。憧れと現実との大きな違いを、現実として経験した筆者の思いを、論理的に捉え、憧れの実現のために、どのように考え、何を行ったのか、また、なぜそのようなことをしたのか。自分の考えをまとめる。			p 94～p 99	令和7年10月の指定日
6	世界とつながる 「りんごのほっぺ」	段落構成を意識させ、大きく四つの内容構成に分かれていることを理解する。四つの内容構成（意味段落）に見出しをつける。第3段の内容を主観的ではなく、客観的に筆者の思いや心情を捉える。今まで学んだ、分析手法を駆使しながら、「なぜ、筆者は泣くのを我慢したのか」という問いから、筆者の姿勢を論理的に考える。			p 150～p 158	令和7年10月の指定日
7	自己をみつめる 「ルリボキカミキリ」	段落構成を意識させ、大きく三つの内容構成に分かれていることを理解する。3つの内容構成（意味段落）に見出しをつける。「憧れ」が「好きなこと」になり、「原点」になることを理解する。ブレンストーミング法を使ってそれぞれの考えを深め、筆者の体験や、思いを理解する。なぜ「原点」なのかという問いに対して、筆者の思いや考えをふまえた形で文章表現ができる。			p 12～p 17	令和7年11月の指定日
8	視野を広げる 「無彩の色」	段落構成を意識させ、大きく三つの内容構成に分かれていることを理解する。3つの内容構成（意味段落）に見出しをつける。「色」についてどのようなイメージがあるかなど、ブレンストーミング法を用いて考える。「灰色の無限の段階」とは、どういうことか考える。日本人はなぜ「灰色の美しさ」に気づいたのかを考える。			p 78～p 86	令和8年1月の指定日
9	未来に目を向ける 「真の自立とは」	段落構成を意識させ、大きく二つの内容構成に分かれていることを理解する。二つの内容構成（意味段落）に見出しをつける。「できる」「できない」の関係性を考え、現代における生きる意味とはどういうことであるのかを理解する。「フォロワーシップ」であるのはなぜか、筆者の考えを考察する。			p 179～p 187	令和8年2月の指定日
面接指導						
回	目的		内容		実施時期	
1	三領域の「読むこと」「聞くこと」を中心に指導をしていく。構成を意識した、文章の読み方や話の聞き方を学ぶ。		評論を読む学習を行う。評論文とは、「意見」や「主張」を「論理的に述べた」ものである。評論を読むことの目的は、「意見」「主張」を理解することにある。正確にそれを理解するためには、「文章の構成」を正確に理解し、各構成それぞれの役割を認識することが必要になってくる。論理を理解するにあたって必要なことを学ぶ。		令和7年4月実施	
2	「書くこと」「話すこと」を中心に、第一自分の意見や考えをどのように発信していくか、効果的な伝達手段を学ぶ		自分の意見や考えをどのように発信していくか、効果的な伝達手段を学んでいく。作文や小論文を書く場合や、出題された問題を考え、解答を書く場合など、具体的な場面を想定し、わかりやすい文章を書く力を身につけていく。効果的な推敲の方法も学んでいく。		令和7年9月実施	
3	三領域における活動の補助的役割を果たすための方法であるブレンストーミングを習得し、論理や効果的な表現を学ぶ		三領域における活動の補助的役割をブレンストーミングを学び、発想を広げていくこと、また、発想をまとめていくことを学び、具体化や抽象化を学んでいく。具体化すること、抽象化することによって、論理的理解を強固にし、またより効果的な情報伝達が行えるようになる。		令和8年1月実施	
テスト						
時期	試験範囲		内容			
1学期	1～3		「こそそめスープ」「水の東西」「美しさの発見」			
2学期	4～7		「未来をつくる想像力」「鍋洗いの日々」「りんごのほっぺ」「ルリボキカミキリ」			
3学期	8、9		「無彩の色」「真の自立とは」			
評価の基準						
成績評価は、知識・技能40点、思考・判断・表現30点、主体的に取り組む態度30点の観点別に行う。						

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
必修	1	国語	言語文化	3	高橋 里美
学習目標					
時代やジャンルを超えた多様な作品を通して、三領域の「読むこと」「書くこと」を中心に学び、上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化に対する関心と理解を深め、担い手としての自覚を涵養する。また、論理的に考える力や共感したり想像したりする力を育成し、社会人として求められる言語能力の基礎を身につける。					
面接指導	3	合格単位時間数	教科書	「新編言語文化」（東京書籍）【701】	
レポート	9	合格通数9通	副教材	「新編言語文化学習課題ノート」（東京書籍）	
単位認定試験	あり	単位認定30点以上	評定	5段階評価、観点別評価の実施	
メディア利用	なし				
添削課題（レポート）					
回	単元	学習内容		教科書ページ	提出締切り
1	随筆 「さくらさくらさくら」	大きく三つの内容構成（意味段落）に分かれていることを確認し、引用歌や体験談に注意しながら、日本独特の桜に対する感性について理解を深めることができる。また、桜に対する自分の思いや体験談を文章にまとめる。		p.10～p.15	令和7年4月の指定日
2	小説 「とんかつ」	大きく三つの内容構成（意味段落）に分かれていることを理解し、会話や行動の描写に着目して、登場人物の心情とその変化を読み取ることができる。		p.24～p.35	令和7年5月の指定日
3	詩歌 「冬が来た」	詩の分類と表現技法を確認し、比喩とリフレインの効果を理解して詩を読み味わい、作者のものの感じ方について考えることができる。二学期から始まる古文の学習に先駆けて、歴史的仮名遣いに触れる。		p.58～p.59	令和7年6月の指定日
4・5	小説 「羅生門」	大きく四つの内容構成（意味段落）に分かれていることを理解することができる。極限状態にある登場人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題を考えることができる。下人のその後について想像し、文章で表現する。		p.72～p.87	令和7年7月の指定日
6	古文入門 「古文に親しむ」 「児のそら寝」 古典学習のしるべ1	「古文に親しむ」では、それぞれの文章の、リズムや調子の違いを感じ取る。古文の言葉や仮名遣いを確認し、現代文との違いを理解する。「児のそら寝」では、歴史的仮名遣いについて理解した上で、説話のおもしろさを読み取る。		p.118～p.125	令和7年9月の指定日
7	随筆 「徒然草」 古典学習のしるべ2	大きく二つの内容構成（意味段落）に分かれていることを理解することができる。随筆に表れた作者の考えを、叙述を基に的確に捉える。古文の単語の分類や活用形を確認し、現代文との違いを理解することができる。		p.128 p.138～p.139 p.145	令和7年10月の指定日
8	随筆 「枕草子」 古典学習のしるべ3	主題を読み取り、作品の内容を自分と関係づけながら、ものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。また、「うつくしきもの」を参考に、自分の考えた現代版ものづくしを文章にまとめる。古文の用言の活用を確認する。		p.134～p.136 p.146～p.148	令和7年11月の指定日
9	漢文入門 「訓読の基本」 「故事成語」	「訓読の基本」では、漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解するとともに、格言に親しむ。「故事成語」では、元になった話を読むことを通して、漢文の読解に慣れ親しむ。		p.210～p.218 p.220～p.221	令和8年2月の指定日
面接指導					
回	目的		内容		実施時期
1	近現代の多様なジャンルの文学的文章に触れ、文章の内容や構成、描写の仕方、表現技法について学ぶ。また、自分の思いや考えたことを文章にまとめる。		文学的文章のうち、近現代の随筆、小説、詩歌を取り上げ、多様な種類があることを学ぶ。また、それぞれの文章の構成や表現の特徴について理解を深め、登場人物の状況や心情の変化を読み取る。作者（筆者）のものの見方や感じ方を踏まえ、自分の思いや考えたことを文章で表現する。		令和7年4月実施
2	古文の読み方の基礎を習得する。古文の文章から筆者のものの見方や考えを読み取り、時代は変わっても普遍的に共感できる内容を理解する。		歴史的仮名遣いを理解し、古典文法の基礎や、基本的な古語を習得する。説話や随筆の文章から、筆者のものの見方や考えを読み取り、時代が変わっても普遍的に共感できる内容やおもしろさを味わい、理解を深める。		令和7年9月実施
3	訓読の基礎を習得する。格言や故事成語など、日本人にもなじみの深い漢文を通して、読解に慣れ親しむ。		訓読のきまりを理解し、句形の基礎を習得する。日本人にもなじみの深い格言や、故事成語の元になった話を読むことを通して、漢文の読解に慣れ親しむ。		令和8年1月実施
テスト					
時期	試験範囲		内容		
1学期	レポート1回～5回		漢字の読み・書き取り・語彙の確認、作者の考え、文章読解など。		
2学期	レポート6回～8回		歴史的仮名遣いとその読み方・単語の分類・用言の活用、作者の考え、文章読解など。		
3学期	レポート9回		訓読のきまり、句形の基礎、文章読解など。		
評価の基準					
成績評価は、知識・技能40点、思考・判断・表現30点、主体的に取り組む態度30点の観点別に行う。					

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者	
選択履修	進学2年	国語	論理国語	2	志村 和弥（高松校）	
学習目標						
「現代の国語」・「言語文化」によって育成された資質・能力を基盤として、三領域の「読むこと」「書くこと」を中心に学び、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。様々な論理的文章を読んで、効果的な段落の構造や論の形式、接続の仕方について理解を深め、学術的な学習の基礎を身に付けるために必要な語句や定義について学ぶ。また、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理しながら自分の思いや考えを深め、論理的、批判的に考える力を伸ばす。						
面接指導	2回		教科書	「論理国語」東京書籍		
レポート	全6通		副教材	「論理国語 学習課題ノート」東京書籍 錬成現代文（尚文出版）		
単位認定試験	年間3回	単位認定30点以上	評定	5段階評価、観点別評価の実施		
メディア利用	なし					
添削課題（レポート）						
回	単元	学習内容			教科書ページ	提出締切り
1	広がる風景 「世界をつくり替えるために」 錬成現代文1～4	段落構成を意識し、大きく四つの内容構成（意味段落）に分かれていることを理解できる。第1段、第2段の内容理解と、第3段の学ぶための2つのポイントへの繋がりを理解できる。第4段の内容を踏まえて、筆者の考える学ぶことの意味について理解を深めることができる。			p15～22	令和7年5月の指定日
2	考える手がかり 「『ふしぎ』ということ」 錬成現代文5～10	段落構成を意識し、大きく三つの内容構成（意味段落）に分かれていることを理解できる。子供の説明が「物語」に直結しているという第2段の内容理解と、第3段の「自然科学」の方法と「物語」の違いについての繋がりを理解できる。「あたりまえ」と感じていることを「ふしぎ」と受け止めることの意義について考えを深めることができる。			p37～43	令和7年6月の指定日
3	人間と知性 「学ぶことと人間の知恵」 錬成現代文11～13	段落構成を意識し、大きく五つの内容構成（意味段落）に分かれていることを理解できる。第一段冒頭の「人は、なぜ勉強しなければならないのか」という問いに対して、第2段、第3段、第4段の繋がりを意識しながら内容を理解し、第5段での筆者の主張を読み取ることができる。人間の思考や学ぶことの意義について、自分の考えをまとめる。			p56～64	令和7年10月の指定日
4	現実の中で 「思考の肺活量」 錬成現代文14～19	段落構成を意識し、大きく三つの内容構成（意味段落）に分かれていることを理解できる。第2段における三つの例示を読み取り、第3段の「思考の原型」についての繋がりを理解できる。「思考の肺活量」という比喩表現について考えることができる。また筆者の述べる「思考」について「だいたいなこと」とは何かを考え、まとめることができる。			p76～82	令和7年11月の指定日
5	ものの見方 「弱肉強食は自然の摂理か」 錬成現代文20～23	段落構成を意識し、大きく五つの内容構成（意味段落）に分かれていることを理解できる。第1段における「弱肉強食は自然の摂理か」という問題提起に対して第2段から第4段までの論理展開を的確に捉え、第5段の筆者の主張を読み取ることができる。ハフェーカーの実験結果のグラフについて考察し、自分の考えをまとめることができる。			p102～113	令和8年2月の指定日
6	働くよろこび 「楽に働くこと、楽しく働くこと」 錬成現代文24～27	段落構成を意識し大きく二つの内容構成（意味段落）に分かれていることを理解できる。「楽に働くこと」と「楽しく働くこと」の違いを読み取り、内容をまとめることができる。「情景のなかの労働」と「鉄、千年のいのち」を読み、働くことについて理解を深め、自分の考えをまとめる。			p132～137	令和8年2月の指定日
面接指導						
回	目的		内容			実施時期
1	三領域の「読むこと」を中心に指導をしていく。論理的文章や実用的な文章を読んで、効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めつつ、学術的な学習の基礎を学ぶ。		様々な論理的文章を取り上げ、客観的内容を示すには文章の構成や展開、接続の仕方に工夫が必要であることを学ぶ。また様々な分野で用いられる学術的な見方・考え方に関わる語句や定義について説明し、学術的な学習の基礎を学ぶ。			令和7年4月実施
2	「読むこと」「書くこと」を中心に指導をしていく。様々な観点から情報を収集、整理して論理的・批判的思考を養い、自分の主張を的確に伝えるための手段を学ぶ。		書き手の立場や意図に応じて情報を分類や比較、関係づけを行い、自分の意見や考えを的確に論述する方法を学ぶ。また立場の異なる読み手を説得するために多角的な視点で自分の考えを見直し、効果的な文章の構成の仕方や論理の展開の工夫の仕方について学ぶ。			令和7年10月実施
テスト						
時期	試験範囲		内容			
1学期	教科書 p15～22、p37～43		漢字の読み・書き取り・語彙の確認、作者の考え、文章読解など。			
2学期	教科書 p56～64、p76～82		漢字の読み・書き取り・語彙の確認、作者の考え、文章読解、要約など。			
3学期	教科書 p102～113、p132～137		漢字の読み・書き取り・語彙の確認、作者の考え、文章読解、要約など。			
評価の基準 成績評価は、知識・技能40点、思考・判断・表現30点、主体的に取り組む態度30点の観点別に行う。						

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
選択履修	2年	国語	文学国語	2	波多間 咲
学習目標					
「現代の国語」と「言語文化」によって育成された、的確に理解し効果的に表現する資質や能力を基盤として、「思考力、判断力、表現力」の感性、情緒を育成する。共感する力と想像力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。					
面接指導	2単位時間		教科書	「文学国語」東京書籍	
レポート	全6通		副教材	「文学国語 学習課題ノート」東京書籍	
単位認定試験	年間3回	単位認定30点以上	評定	5段階評価、観点別評価の実施	
メディア利用	なし				
添削課題（レポート）					
回	単元	学習内容		教科書ページ	提出締切り
1	随想「光の窓」	段落構成を意識し、大きく三つの内容構成に分かれていることを理解できる。三つの内容構成（意味段落）に見出しをつけられる。「絵は窓だ。」とはどのようなことか、筆者の捉え方を読み取ることができる。筆者のものの見方や感じ方を読み取り、言葉と感覚との関係について考えることができる。筆者が、自分の絵の見方が幼年期と大人になってからではどのように変わったと捉えているかまとめることができる。		p8～p14	令和7年5月の指定日
2	評論「言葉を生きる」	段落構成を意識し、大きく三つの内容構成に分かれていることを理解できる。三つの内容構成（意味段落）に見出しをつけることができる。「悲しみ」に向き合うことについて、筆者はどのように捉えているかを読み取ることができる。筆者の考えを表現に即して読み取り、「生きること」と「言葉」の関係について理解を深めることができる。		p44～p49	令和7年6月の指定日
3	小説「山椒魚」	段落構成を意識し、大きく七つの内容構成に分かれていることを理解できる。七つの内容構成（意味段落）に見出しをつけることができる。第一段で語句や表現に留意しながら、岩屋に閉じ込められた山椒魚の置かれた状況やその心情を読み取り、第二段で岩屋の内外の動植物の様子とそれぞれに対する山椒魚の気持ちを整理できる。山椒魚の心情や行動に注意しながら、山椒魚と蛙が歩み寄りを見せ、和解に向かう経過について整理できる。作品に込められた寓意について、自分自身の生き方や考え方に触れながら文章にまとめることができる。		p58～p70	令和7年10月指定日
4	小説「あの朝」	段落構成を意識し、大きく三つの内容構成に分かれていることを理解できる。三つの内容構成（意味段落）に見出しをつけることができる。市子は結婚前の「朝の時間」を、また結婚後の「いき当たりばったりのような暮らし」を、どのような暮らしのことで、それをどう感じているか読み取ることができる。市子のように「なくすことで好きになったあれこれ」について、自分の経験を振り返り、考えをまとめることができる。		p180～p187	令和7年11月指定日
5	詩歌「永訣の朝」	作者の心境の変化や、時間の移り変わりを考えながら、全体を四つに分けることができる。作者独特の表現がされた部分を抜き出し、表現の背景にあるものについて考えることができる。表現された内容を読み取り、描かれた行動や言葉から「わたくし」の妹に対する思いを解釈することができる。妹の置かれた状態を表す比喻などから、作者がどんな変化を体験しているのかを考え、作者の目標としたものをまとめることができる。		p98～p101	令和8年2月指定日
6	評論「文学のふるさと」	段落構成を意識し、大きく四つの内容構成に分かれていることを理解できる。四つの内容構成（意味段落）に見出しをつけることができる。具体例と筆者の主張との関係に注意し、文学のよりどころについて理解を深めることができる。「アモラル」という視点から、筆者が「赤頭巾」「狂言』『伊勢物語』の作品のどこに着目しているか整理することができる。文学のモラルや社会性に注目しながら、「文学のふるさと」を筆者がどのように考えているかまとめることができる。		p150～p160	令和8年2月指定日
面接指導					
回	目的		内容		実施時期
1	文学的な文章の種類や特徴について学び、理解を深める。文章の内容や構成、描写の仕方について学ぶ。		文学的な文章のうち随想、評論、小説を取り上げ、多様な種類があることを学ぶ。またそれぞれの文章の構成や表現の特徴について理解を深め、情景や心情を表す表現に留意する。筆者のものの見方や感じ方を読み取り、言葉と感覚との関係について考える。		令和7年4月実施
2	「読むこと」「聞くこと」を中心に指導をしていく。構成を意識した、文章の読み方や話の聞き方を学ぶ。		小説と詩歌を通して、筆者独特の表現がされた部分を捉え、表現の背景にあるものについて考える。自分のものの見方や感じ方、考え方を深める意義を理解することで、想像力や思考力を伸ばしていく。「読むこと」「聞くこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について理解する。情景や心情の機微を表す語彙を増やし、想像力を豊かにする働きがあることを理解することで、より作品の解釈を深める。		令和7年10月実施
テスト					
時期	試験範囲		内容		
1学期	レポート①、②		漢字の読み書き、語彙の確認、作者の考え・登場人物の心理説明など。		
2学期	レポート③、④		漢字の読み書き、語彙の確認、作者の考え・登場人物の心理説明、文章理解など。		
3学期	レポート⑤、⑥		漢字の読み書き、語彙の確認、作者の考え・登場人物の心理説明、文章理解など。		
評価の基準 成績評価は、知識・技能40点、思考・判断・表現30点、主体的に取り組む態度30点の観点別に行う。					

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
選択履修	進学3年	国語	文学国語	2	志村 和弥（高松校）
学習目標					
「現代の国語」・「言語文化」によって育成された資質・能力を基盤として、近代以降の多様な文学的文章を通じて、的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。また、文章の種類や特徴などについて理解を深めつつ、情景や心情の機微を表す語彙を豊かにできるよう、意識的・継続的に学ぶ。文学的な文章を読むことで共感したり想像したりする力を伸ばし、自分の思いや考えを表現することを学ぶ。					
面接指導	2回		教科書	「文学国語」東京書籍	
レポート	全6通		副教材	「文学国語学習課題ノート」東京書籍 錬成現代文（尚文出版）	
単位認定試験	年間3回	単位認定30点以上	評定	5段階評価、観点別評価の実施	
メディア利用	なし				
添削課題（レポート）					
回	単元	学習内容		教科書ページ	提出締切り
1	随筆1「書かれた風景の中へ」詩歌「小諸なる古城のほとり」錬成現代文1～4	「書かれた風景の中へ」では、日本語を母語としない筆者の読書体験を通じて、「日本語をよむこと」がどうい うことなのか考えを深めることができる。また『万葉集』と『古寺巡礼』を読み、風景をどのように感じたのか 読み取り理解できる。「小諸なる古城のほとり」では、文語の響きや五七調のリズムに注意し、表現の特徴につ いて理解できる。また詩に描かれた情景や心情を読み取ることができる。		p 199～204 p 230～231	令和7年5月の指 定日
2	小説1「檸檬」 詩歌「平気ー正岡子規」 錬成現代文5～10	「檸檬」では、大きく三つの内容構成（意味段落）に分かれていることを理解し、「私」の「えたいの知れない 不吉な塊」によってもたらされた心理を読み取り、「檸檬」の持つ意味について考えることができる。「平気ー 正岡子規」では、高浜虚子と大岡信による選定基準の違いから浮かび上がるそれぞれの正岡子規の人物像につ いて理解できる。		p 206～215 p 236～243	令和7年6月の指 定日
3	小説2「舞姫」 錬成現代文11～13	十段で構成され、豊太郎のセイゴンにおける現在の様子とドイツ留学中の過去の回想場面を区別して内容を理解 できる。また時代背景や豊太郎の置かれた立場に注意しながら、学問と愛情の板挟みで苦悩する豊太郎の様子 を読み取り、主人公の言動から帰国を選択するまでの経緯について考えることができる。また相沢が「良友」であ り「憎むところ」を抱く相手である理由を考えることができる。		p 292～327	令和7年10月の指 定日
4	評論「演技する『私』」 錬成現代文14～19	段落構成を意識し大きく三つの内容構成（意味段落）に分かれていることを理解できる。語り手が「私」で作者 その人を連想させる場合において一般的な読み方があり、一方で筆者の考える読み方はどのようなものであるか を理解できる。作中の「私」の果たす役割から、小説の特質について考え、自分の意見をまとめることができ る。		p 330～333	令和7年11月の指 定日
5	小説3「葉桜と魔笛」 錬成現代文20～23	三段で構成され、老婦人が語る現在の部分と回想の部分とを区別しながら内容を理解できる。回想される出来事 については時間的経過に注意しながら内容を整理し、「私」、妹に共通する思いや異なる思いについて考えるこ とができる。また「私」、妹、父の三者が、「魔笛」を巡ってそれぞれどのような思いを抱いたかについて考え、 自分の意見をまとめることができる。		p 348～359	令和8年2月の 指定日
6	随筆2「クレールという女」 錬成現代文24～27	段落構成を意識し大きく四つの内容構成（意味段落）に分かれていることを理解できる。筆者が四十年前に「人 間のしるし」という小説をどのように捉えていたのか、また四十年たってどのように捉えなおしたのかを読み取 ることができる。長い時間をかけて深まっていた筆者の読書体験について、自分の意見をまとめることができ る。		p 255～264	令和8年2月の 指定日
面接指導					
回	目的		内容		実施時期
1	文学的な文章の種類や特徴について学び、理解を深める。文 章の内容や構成、描写の仕方について学ぶ。		文学的な文章のうち小説、随筆、詩歌と評論文を取り上げ、多様な種類があることを学ぶ。またそれぞれの文 章の構成や表現の特徴について理解を深め、情景や心情を表す表現に留意して読解を深めていくことを学ぶ。書 き手の意図を捉えて文章を味わうことで、想像力や思考力を伸ばしていく。		令和7年4月実施
2	文学的な文章を通して想像力を豊かにし、自分の思いや考えを 効果的に表現することを学ぶ。		書き手や登場人物の考えに共感、想像したことを文章化することについて学ぶ。的確に文章にまとめるには、 情景や心情の機微を表す語彙を増やしたり、情報を収集、整理したりする必要があることを学ぶ。文学的な文 章を踏まえて、自分の思いや考えを文章にまとめることで、より作品の解釈を深めることができる。		令和7年10月実施
テスト					
時期	試験範囲		内容		
1学期	教科書 p 199～204、p 230～231、 p 206～215、p 236～243		漢字の読み・書き取り・語彙の確認、作者の考え・登場人物の心理説明など。		
2学期	教科書 p 292～327、p 330～333、		漢字の読み・書き取り・語彙の確認、作者の考え、登場人物の心理説明、文章読解など。		
3学期	教科書 p 348～359、p 255～264		漢字の読み・書き取り・語彙の確認、作者の考え、登場人物の心理説明、文章読解など。		
評価の基準 成績評価は、知識・技能40点、思考・判断・表現30点、主体的に取り組む態度30点の観点別に行う。					

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者	
選択履修	通学・通信3年	国語	文学国語	4	波多間 咲（丸亀）	
学習目標						
「現代の国語」と「言語文化」によって育成された、的確に理解し効果的に表現する資質や能力を基盤として、「思考力、判断力、表現力」の感性、情緒を育成する。共感する力と想像力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。						
面接指導	4単位時間		教科書	「文学国語」東京書籍		
レポート	全12通		副教材	「文学国語 学習課題ノート」東京書籍		
単位認定試験	年間3回	単位認定30点以上	評定	5段階評価、観点別評価の実施		
メディア利用	なし					
添削課題（レポート）						
回	単元	学習内容			教科書ページ	提出締切り
1	随想 「光の窓」	段落構成を意識し、大きく三つの内容構成に分かれていることを理解できる。三つの内容構成（意味段落）に見出しをつけることができる。「絵は窓だ。」とはどのようなことか、筆者の捉え方を読み取ることができる。筆者のものの見方や感じ方を読み取り、言葉と感覚との関係について考えることができる。筆者が、自分の絵の見方が幼年期と大人になってからではどのように変わったと捉えているかまとめることができる。			p8～p14	令和7年5月の指定日
2	評論 「言葉を生きる」	段落構成を意識し、大きく三つの内容構成に分かれていることを理解できる。三つの内容構成（意味段落）に見出しをつけることができる。「悲しみ」に向き合うことについて、筆者はどのように捉えているかを読み取ることができる。筆者の考えを表現に即して読み取り、「生きること」と「言葉」の関係について理解を深めることができる。			p44～p49	令和7年5月の指定日
3	小説 「山椒魚」	段落構成を意識し、大きく七つの内容構成に分かれていることを理解できる。七つの内容構成（意味段落）に見出しをつけることができる。第一段で語句や表現に留意しながら、岩屋に閉じ込められた山椒魚の置かれた状況やその心情を読み取り、第二段で岩屋の内外の動植物の様子とそれぞれに対する山椒魚の気持ちを整理できる。山椒魚の心情や行動に注意しながら、山椒魚と蛙が歩み寄りを見せ、和解に向かう経過について整理できる。作品に込められた寓意について、自分自身の生き方や考え方に触れながら文章にまとめることができる。			p58～p70	令和7年5月の指定日
4	随想 「国語から旅立って」	段落構成を意識し、大きく三つの内容構成に分かれていることを理解できる。三つの内容構成（意味段落）に見出しをつけることができる。筆者の幼い頃から現在までの日本語との関わりに注意しながら、筆者が自分と日本語との関係が始まったと考える出来事や、平仮名を覚えたときのことをどのように捉えているかを読み取ることができる。筆者の多言語体験に基づいた考えを読み取り、言葉と自分との関係について考えを深めることができる。			p190～p198	令和7年6月の指定日
5	評論 「演技する「私」」	段落構成を意識し、大きく三つの内容構成に分かれていることを理解できる。三つの内容構成（意味段落）に見出しをつけることができる。「小説」と「事実」の関係について、筆者はどのように捉え、小説とはどのようなものだとして述べているか読み取ることができる。これまでに読んだ「語り手が『私』で作者その人を連想させる」小説について、改めて「『私』」と「作者その人」の関係を考え、文章にまとめることができる。			p330～p334	令和7年6月の指定日
6	小説 「あの朝」	段落構成を意識し、大きく三つの内容構成に分かれていることを理解できる。三つの内容構成（意味段落）に見出しをつけることができる。市子は結婚前の「朝の時間」を、また結婚後の「いき当たりばったりのような暮らし」を、どのような暮らしのことで、それをどう感じているか読み取ることができる。市子のように「なくすことで好きになったあれこれ」について、自分の経験を振り返り、考えをまとめることができる。			p180～p187	令和7年6月の指定日
7	詩歌 「永訣の朝」	作者の心境の変化や、時間の移り変わりを考えながら、全体を四つに分けることができる。作者独特の表現がされた部分を抜き出し、表現の背景にあるものについて考えることができる。表現された内容を読み取り、描かれた行動や言葉から「わたくし」の妹に対する思いを解釈することができる。妹の置かれた状態を表す比喻などから、作者がどんな変化を体験しているのかを考え、作者の目標としたものをまとめることができる。			p98～p101	令和7年10月の指定日
8	詩歌 「平気」	段落構成を意識し、大きく三つの内容構成に分かれていることを理解できる。三つの内容構成（意味段落）に見出しをつけることができる。子規が闘病生活を「『平気』で生き」という、その「平気」とはどのような心の在り方であるのかを考えることができる。高浜虚子選の『子規句集』と大岡信選の『子規の俳句』について、選定基準やそこから浮かび上がる子規像の違いを理解できる。			p236～p244	令和7年10月の指定日
9	小説 「コンビニの母」	段落構成を意識し、大きく四つの内容構成に分かれていることを理解できる。四つの内容構成（意味段落）に見出しをつけることができる。和也の言動と心情に注意しながら、年齢や立場の違いやさまざまな状況にある人々を想定して「福平さん」の接客態度をそれぞれがどのように受け止めているか考えることができる。登場人物の言動や心理を表現に即して読み取り、さまざまな立場から現代社会における人間関係について考えることができる。			p217～p222	令和7年10月の指定日
10	評論 「文学のふるさと」	段落構成を意識し、大きく四つの内容構成に分かれていることを理解できる。四つの内容構成（意味段落）に見出しをつけることができる。具体例と筆者の主張との関係に注意し、文学のよりどころについて理解を深めることができる。「アモラル」という視点から、筆者が「赤頭巾」「狂言』『伊勢物語』の作品のどこに着目しているか整理することができる。文学のモラルや社会性に注目しながら、「文学のふるさと」を筆者がどのように考えているかまとめることができる。			p150～p160	令和7年11月の指定日
11	随想 「空っぽの瓶」	段落構成を意識し、大きく三つの内容構成に分かれていることを理解できる。三つの内容構成（意味段落）に見出しをつけることができる。日本語の一人称、二人称、三人称をできるだけ挙げるができる。また英語の人称も挙げ、言語によって特徴があることを確認できる。「わたしは筆先であり、ボトルは空っぽなのだ。」という表現において、筆者は何をたとえているか、また筆者がそう感じるのなぜかを読み取りまとめることができる。			p248～p254	令和7年11月の指定日

12	小説 「葉桜と魔笛」	三つの段に分けられる構成の大枠を把握したうえで、小説における老夫人が語る現在部分と語られる回想部分を 確認できる。「時」「場所」「人」に注意しながら、第二段を七つの節に分けたうえで、回想される出来事の時 間的経過に注意しながら内容を整理することができる。登場人物である「私」、妹、父の三者が「魔笛」を巡っ てそれぞれどのような思いを抱いたかについて考えることができる。	p348～p360	令和 7 年 1 1 月の 指定日
面接指導				
回	目的	内容	実施時期	
1	文学的な文章の種類や特徴について学び、理解を深める。文 章の内容や構成、描写の仕方について学ぶ。	文学的な文章のうち随想、評論、小説を取り上げ、多様な種類があることを学ぶ。またそれぞれの文章の構成 や表現の特徴について理解を深め、情景や心情を表す表現に留意する。筆者のものの見方や感じ方を読み取 り、言葉と感覚との関係について考える。	令和 7 年 4 月実施	
2	「読むこと」「聞くこと」を中心に指導をしていく。構成を意 識した、文章の読み方や話の聞き方を学ぶ。	筆者や登場人物の考えに共感、想像したことを文章化することについて学ぶ。情景や心情の機微を表す語彙を 増やし、想像力を豊かにする働きがあることを理解することで、より作品の解釈を深める。場面ごとの設定を押 さえて、その転換に伴う登場人物の状況や心情の変化を読み取る。「読むこと」「聞くこと」において、語り 手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について理解する。	令和 7 年 5 月実施	
3	感性、情緒を育成し、自分の思いや考えを広げたり深めるこ とを学ぶ。	詩歌を通して、筆者独特の表現がされた部分を捉え、表現の背景にあるものについて考える。詩の鑑賞を通し て、自分のものの見方や感じ方、考え方を深める意義を理解することで、想像力や思考力を伸ばしていく。	令和 7 年 9 月実施	
4	文学的な文章を通して想像力を豊かにし、自分の思いや考えを 効果的に表現することを学ぶ。	内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉え、作品の内容や解釈を踏まえたものの見方、感じ方、考え方 を深める。書き手や登場人物の考えに共感、想像したことをまとめ、さまざまな立場から現代社会における人 間関係について文章化する。具体例と筆者の主張との関係に注意し、文学のよりどころについて理解を深め る。言葉と存在の関わりについて、自分の考えをまとめる。	令和 7 年 1 0 月実施	
テスト				
時期	試験範囲	内容		
1学期	レポート①～⑥	漢字の読み書き、語彙の確認、作者の考え・登場人物の心理説明など。		
2学期	レポート⑦～⑪	漢字の読み書き、語彙の確認、作者の考え・登場人物の心理説明、文章理解など。		
3学期	レポート⑫	漢字の読み書き、語彙の確認、作者の考え・登場人物の心理説明、文章理解など。		
評価の基準 成績評価は、知識・技能40点、思考・判断・表現30点、主体的に取り組む態度30点の観点別に行う。				

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者	
選択履修	通学・通信3年	国語	文学国語	6	波多間 咲（高松校）	
学習目標						
「現代の国語」と「言語文化」によって育成された、的確に理解し効果的に表現する資質や能力を基盤として、「思考力、判断力、表現力」の感性、情緒を育成する。共感する力と想像力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。						
面接指導	6単位時間		教科書	「文学国語」東京書籍		
レポート	全18通		副教材	「文学国語 学習課題ノート」東京書籍		
単位認定試験	年間3回	単位認定30点以上	評定	5段階評価、観点別評価の実施		
メディア利用	なし					
添削課題（レポート）						
回	単元	学習内容			教科書ページ	提出締切り
1	随想 「光の窓」	段落構成を意識し、大きく三つの内容構成に分かれていることを理解できる。三つの内容構成（意味段落）に見出しをつけることができる。「絵は窓だ。」とはどのようなことか、筆者の捉え方を読み取ることができる。筆者のものの見方や感じ方を読み取り、言葉と感覚との関係について考えることができる。筆者が、自分の絵の見方が幼年期と大人になってからではどのように変わったと捉えているかまとめることができる。			p8～p14	令和7年5月の指定日
2	評論 「言葉を生きる」	段落構成を意識し、大きく三つの内容構成に分かれていることを理解できる。三つの内容構成（意味段落）に見出しをつけることができる。「悲しみ」に向き合うことについて、筆者はどのように捉えているかを読み取ることができる。筆者の考えを表現に即して読み取り、「生きること」と「言葉」の関係について理解を深めることができる。			p44～p49	令和7年5月の指定日
3・4	小説 「山椒魚」	段落構成を意識し、大きく七つの内容構成に分かれていることを理解できる。七つの内容構成（意味段落）に見出しをつけることができる。第一段で語句や表現に留意しながら、岩屋に閉じ込められた山椒魚の置かれた状況やその心情を読み取り、第二段で岩屋の内外の動植物の様子とそれぞれに対する山椒魚の気持ちを整理できる。山椒魚の心情や行動に注意しながら、山椒魚と蛙が歩み寄りを見せ、和解に向かう経過について整理できる。作品に込められた寓意について、自分自身の生き方や考え方に触れながら文章にまとめることができる。			p58～p70	令和7年5月の指定日
5	随想 「国語から旅立って」	段落構成を意識し、大きく三つの内容構成に分かれていることを理解できる。三つの内容構成（意味段落）に見出しをつけることができる。筆者の幼い頃から現在までの日本語との関わりに注意しながら、筆者が自分と日本語との関係が始まったと考える出来事や、平仮名を覚えたときのことをどのように捉えているかを読み取ることができる。筆者の多言語体験に基づいた考えを読み取り、言葉と自分との関係について考えを深めることができる。			p190～p198	令和7年6月の指定日
6	評論 「演技する「私」」	段落構成を意識し、大きく三つの内容構成に分かれていることを理解できる。三つの内容構成（意味段落）に見出しをつけることができる。「小説」と「事実」の関係について、筆者はどのように捉え、小説とはどのようなものだと述べているか読み取ることができる。これまでに読んだ「語り手が『私』で作者その人を連想させる」小説について、改めて「『私』」と「作者その人」の関係を考え、文章にまとめることができる。			p330～p334	令和7年6月の指定日
7・8	小説 「あの朝」	段落構成を意識し、大きく三つの内容構成に分かれていることを理解できる。三つの内容構成（意味段落）に見出しをつけることができる。市子は結婚前の「朝の時間」を、また結婚後の「いき当たりばったりのような暮らし」を、どのような暮らしのことで、それをどう感じているか読み取ることができる。市子のように「なくすことで好きになったあれこれ」について、自分の経験を振り返り、考えをまとめることができる。			p180～p187	令和7年6月の指定日
9	詩歌 「永訣の朝」	作者の心境の変化や、時間の移り変わりを考えながら、全体を四つに分けることができる。作者独特の表現がされた部分を抜き出し、表現の背景にあるものについて考えることができる。表現された内容を読み取り、描かれた行動や言葉から「わたくし」の妹に対する思いを解釈することができる。妹の置かれた状態を表す比喩などから、作者がどんな変化を体験しているのかを考え、作者の目標としたものをまとめることができる。			p98～p101	令和7年10月の指定日
10・11	詩歌 「平気」	段落構成を意識し、大きく三つの内容構成に分かれていることを理解できる。三つの内容構成（意味段落）に見出しをつけることができる。子規が闘病生活を「『平気』で生き」という、その「平気」とはどのような心の在り方であるのかを考えることができる。高浜虚子選の『子規句集』と大岡信選の『子規の俳句』について、選定基準やそこから浮かび上がる子規像の違いを理解できる。			p236～p244	令和7年10月の指定日
12・13	小説 「コンビニの母」	段落構成を意識し、大きく四つの内容構成に分かれていることを理解できる。四つの内容構成（意味段落）に見出しをつけることができる。和也の言動と心情に注意しながら、年齢や立場の違いやさまざまな状況にある人々を想定して「福平さん」の接客態度をそれぞれがどのように受け止めているか考えることができる。登場人物の言動や心理を表現に即して読み取り、さまざまな立場から現代社会における人間関係について考えることができる。			p217～p222	令和7年10月の指定日
14・15	評論 「文学のふるさと」	段落構成を意識し、大きく四つの内容構成に分かれていることを理解できる。四つの内容構成（意味段落）に見出しをつけることができる。具体例と筆者の主張との関係に注意し、文学のよりどころについて理解を深めることができる。「アモラル」という視点から、筆者が「赤頭巾」「狂言』『伊勢物語』の作品のどこに着目しているか整理することができる。文学のモラルや社会性に注目しながら、「文学のふるさと」を筆者がどのように考えているかまとめることができる。			p150～p160	令和7年11月の指定日
16	随想 「空っぽの瓶」	段落構成を意識し、大きく三つの内容構成に分かれていることを理解できる。三つの内容構成（意味段落）に見出しをつけることができる。日本語の一人称、二人称、三人称をできるだけ挙げることができる。また英語の人称も挙げ、言語によって特徴があることを確認できる。「わたしは筆先であり、ボトルは空っぽなのだ。」という表現において、筆者は何をたとえているか、また筆者がそう感じるのなぜかを読み取りまとめることができる。			p248～p254	令和7年11月の指定日
17・18	小説 「葉桜と魔笛」	三つの段に分けられる構成の大枠を把握したうえで、小説における老夫人が語る現在部分と語られる回想部分を確認できる。「時」「場所」「人」に注意しながら、第二段を七つの節に分けたうえで、回想される出来事の時間的経過に注意しながら内容を整理することができる。登場人物である「私」、妹、父の三者が「魔笛」を巡ってそれぞれのような思いを抱いたかについて考えることができる。			p348～p360	令和7年11月の指定日
面接指導						
回	目的			内容		実施時期

1	文学的な文章の種類や特徴について学び、理解を深める。文章の内容や構成、描写の仕方について学ぶ。	文学的な文章のうち随想、評論、小説を取り上げ、多様な種類があることを学ぶ。またそれぞれの文章の構成や表現の特徴について理解を深め、情景や心情を表す表現に留意する。筆者のものの見方や感じ方を読み取り、言葉と感覚との関係について考える。	令和 7 年 4 月実施
2	筆者の経験に基づいた考えを読み取り、言葉と自分との関係について考えを深めて共感する力と想像力を伸ばし、創造的に考える力をつける。	筆者や登場人物の考えに共感、想像したことを文章化することについて学ぶ。情景や心情の機微を表す語彙を増やし、想像力を豊かにする働きがあることを理解することで、より作品の解釈を深める。小説に込められた寓意を考察し、自分自身の生き方や考え方に触れながら解釈する。	令和 7 年 5 月実施
3	「読むこと」「聞くこと」を中心に指導をしていく。構成を意識した、文章の読み方や話の聞き方を学ぶ。	場面ごとの設定を押さえて、その転換に伴う登場人物の状況や心情の変化を読み取る。「読むこと」「聞くこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について理解する。	令和 7 年 6 月実施
4	感性、情緒を育成し、自分の思いや考えを広げたり深めることを学ぶ。	詩歌を通して、筆者独特の表現がされた部分を捉え、表現の背景にあるものについて考える。詩の鑑賞を通して、自分のものの見方や感じ方、考え方を深める意義を理解することで、想像力や思考力を伸ばしていく。	令和 7 年 9 月実施
5	文学的な文章を通して想像力を豊かにし、自分の思いや考えを効果的に表現することを学ぶ。	小説の内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉え、作品の内容や解釈を踏まえたものの見方、感じ方、考え方を深める。書き手や登場人物の考えに共感、想像したことをまとめ、さまざまな立場から現代社会における人間関係について文章化する。	令和 7 年 1 0 月実施
6	文学のモラルや社会性に注目しながら、共感する力と想像力を伸ばし、創造的に考える力をつける。	具体例と筆者の主張との関係に注意し、文学のよりどころについて理解を深める。言葉と存在の関わりについて、自分の考えをまとめる。	令和 7 年 1 1 月実施
テスト			
時期	試験範囲	内容	
1学期	レポート①～⑧	漢字の読み書き、語彙の確認、作者の考え・登場人物の心理説明など。	
2学期	レポート⑨～⑯	漢字の読み書き、語彙の確認、作者の考え・登場人物の心理説明、文章理解など。	
3学期	レポート⑰、⑱	漢字の読み書き、語彙の確認、作者の考え・登場人物の心理説明、文章理解など。	
評価の基準			
成績評価は、知識・技能40点、思考・判断・表現30点、主体的に取り組む態度30点の観点別に行う。			

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者	
選択履修	2	国語	国語表現	4	高橋 里美	
学習目標						
「現代の国語」「言語文化」によって育成された資質・能力を基盤として、三領域の「話すこと・聞くこと」「書くこと」を中心に学び、実社会において必要な国語の知識や技能を身につけ、論理的思考力や共感する力、想像力を伸ばし、他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高める。また、言語感覚を磨き、言葉を通して他者や社会に積極的に関わる態度を養う。						
面接指導	4	合格単位時間数	教科書	「国語表現」（大修館書店）【701】		
レポート	12	合格通数12通	副教材	「国語常識と読解演習パーフェクトノート」（尚文出版）		
単位認定試験	あり	単位認定30点以上	評定	5段階評価、観点別評価の実施		
メディア利用	なし					
添削課題（レポート）						
回	単元	学習内容			教科書ページ	提出締切り
1	言葉と出会う 「言葉と表記」	仮名遣い・送り仮名など、日本語の表記の決まりを意識し、正しく理解して書くことができる。漢字や慣用表現を正しく使うことができる。			p.12～p.15	令和7年4月の指定日
2	言葉と出会う 「整った文を書く」	係り受けや文末表現の統一について理解し、整った文を書くことができる。			p.16～p.17	令和7年5月の指定日
3	言葉と出会う 「相手に応じた言葉遣い」	相手に応じた言葉遣いができるようになるために、敬語について正しい知識を持ち、その使い分けを理解する。話し言葉と書き言葉の違いや、その使い分けについて理解する。和語・漢語・外来語のニュアンスの違いと、その使い分けについて理解する。			p.18～p.21	令和7年5月の指定日
4	言葉と出会う 「わかりやすい文を書く」	長すぎる文を避け、わかりやすい文にする方法を理解する。読点を適切に打ち、あいまいな文を避けることの大切さを理解する。			p.22～p.23	令和7年6月の指定日
5	言葉と出会う 「文のつながり」	接続表現の種類と働きを理解する。文脈による文のつながりを理解する。			p.24～p.25	令和7年7月の指定日
6	メディアを駆使する 「通信文を書き分ける」	さまざまな通信文の形式を理解する。相手や目的に応じて適切な形式を選び、通信文を書く。			p.128～p.131	令和7年9月の指定日
7	メディアを駆使する 「電話を使いこなす」	初対面や目上の相手に対する電話での話し方を理解する。相手に応じた適切な言葉遣いや応答のしかたを理解する。			p.134～p.135	令和7年10月の指定日
8	自己PRと面接 「自分をみつめて」 「効果的な自己PR」 「将来の自分を考えよう」	経験から得たことや学んだこと、自分の長所などを考える。他者の意見を聞いて、自分の長所を見つける。自分の特長を端的に表現した、印象に残る自己PR文の原稿を書く。事実やできごとをふまえて、効果的な自己PRをする。就きたい職業に就くために必要なことを調べる。調べたことをふまえて、「将来の自分」について文章にまとめる。			p.94～p.99	令和7年11月の指定日
9	自己PRと面接 「履歴書の書き方」	志望先に提出する書類に求められていることを適切に理解する。適切な言葉遣いを用いる。			p.108～p.109	令和7年11月の指定日
10	自己PRと面接 「面接にチャレンジ」 会話・議論・発表 「相手や場面に応じた会話」	適切な言葉遣いや態度で面接の受け答えをする。質問に対して、具体的に説得力のある答え方をする。場面にふさわしい言葉遣いを考える。適切な言葉遣いでロールプレイをする。			p.110～p.113 p.152～p.153	令和7年12月の指定日
11	伝える、伝え合う 「絵や写真を見て書く」	図や写真を見て文章を書き、相手に伝わる文章を書くために必要なことを理解する。相手に伝えることを意識してわかりやすい文章を書く。			p.42～p.45	令和8年1月の指定日
12	表現を楽しむ 「魅力的なポスターを作ろう」	読み手の心を動かすことができるような効果的なキャッチコピーを書く。伝えたいことが効果的に伝わるよう、レイアウトやデザインを工夫してポスターを作る。			p.196～p.199	令和8年2月の指定日

面接指導			
回	目的	内容	実施時期
1	三領域の「書くこと」を中心に学ぶ。私たちが意識せず、日常的に使用している言葉に関する基本的なルールや留意点を知り、自覚的に言葉を使えるようにする。	他者と関わり、伝え合うための最初のステップとして、日常的に使用している言葉について、仮名遣い・係り受け・話し言葉と書き言葉・敬語・文のつなぎ方などの観点から基本的なルールや留意点を学び、意識的、自覚的に言葉を使用できるようにする。	令和7年4月実施
2	三領域の「話すこと・聞くこと」「書くこと」を中心に学ぶ。実社会で必要なメディアの使い方を、国語の観点から学び、理解する。また、自分の将来について考え、履歴書や面接での適切な伝え方を知る。	通信文や電話など、実社会で必要なメディアの使い方を、国語の観点から学び、理解する。また、今までの自分を振り返り、卒業後の将来を見据えて、履歴書や面接での適切な伝え方を知る。	令和7年9月実施
3	三領域の「書くこと」を中心に学ぶ。今まで学んだ言葉のルールを踏まえ、図や写真を文章で他者に伝えるために必要なことを理解する。	図や写真を見て文章を書き、相手に伝わる文章を書くために必要なことを理解する。相手に伝えることを意識してわかりやすい文章を書く。	令和8年1月実施
4	三領域の「書くこと」を中心に学ぶ。読み手に効果的に伝えるための工夫として、ポスターのキャッチコピーを考えて書く。	読み手の心を動かすことができるような効果的なキャッチコピーを書く。伝えたいことが効果的に伝わるよう、レイアウトやデザインを工夫してポスターを作る。	令和8年2月実施
テスト			
時期	試験範囲	内容	
1学期	レポート1回～5回	言葉と表記、整った文を書く、相手に応じた言葉遣い、わかりやすい文を書く、文のつなぎ方。	
2学期	レポート6回～10回	通信文を書き分ける、電話を使いこなす、自己PRと面接、相手や場面に応じた会話。	
3学期	レポート11回～12回	絵や写真を見て書く、魅力的なポスターを作ろう。	
評価の基準 成績評価は、知識・技能40点、思考・判断・表現30点、主体的に取り組む態度30点の観点別に行う。			

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者	
選択履修	進学2年	国語	古典探究	2	塚原 竜一（高松校）	
学習目標						
言語文化で学んだ我が国の言語文化に関する基礎的な知識を活用し、より深く古典作品を分析していくことでその特徴を捉え、我が国の言語文化を体系的に理解していくことができる。多様な分野の作品を読み込んで、それぞれの古典作品の作者の考えを理解するとともに、各分野ごとの古典作品の特徴をつかみ、日本の古典文学の在り方を把握する。						
面接指導	2	合格単位時間数	教科書	新編古典探究（東京書籍）【701】		
レポート	6	合格通数6通	副教材	新編古典探究（東京書籍）【701】錬成古文（尚文出版）		
単位認定試験	あり	単位認定30点以上	評定	5段階評価、観点別評価の実施		
メディア利用	なし					
添削課題（レポート）						
回	単元	学習内容			教科書ページ	提出締切り
1	説話に親しむ「十訓抄」 随筆を読む「徒然草」 故事と小話「断腸」「知音」	代表的な古典作品にあたり、古典文法や句形、古文学習や漢文学習の基本を確認する。古典作品の豊かな世界に触れて、古文や漢文を読む魅力を十分に味わうことができる。正しく読むことができる。また、それぞれの作品の作者の考えを理解し、それぞれの古典作品の特徴をしっかりと理解することができる。			p12～p13 p24～p25 p160～p161	令和7年5月指定日
2	日記を読む『土佐日記』『更級日記』 軍記物語を味わう『平家物語』 唐詩と文「雑説」 史記を読む「鴻門之会」	平安時代から鎌倉時代にかけて、「日記」文学は、和歌や物語などとの関連・影響は多大である。平仮名を用いて、人間の内面や精神性を細やかに、そして自由に描いている「日記」作品を、文法や基本語彙を用いて、正しく読み取ることができる。「軍記」においては、文体の違いによる捉え方の差異を学ぶ。「雑説」においては、当時の社会・政治に対する作者の痛烈な批判を読み取り、明解な論理展開を味わうことができる。史実の記録である「史記」の登場人物の心情や考え方を、細かく論理的に捉えることができる。			p54～p55 p58～p59 p66～p71 p175～p176 p182～p188	令和7年6月指定日
3	随筆を味わう「枕草子」 歌物語を楽しむ『伊勢物語』 歌謡・歌謡を読む「古今和歌集仮名序」中国の知恵「寓話」三国志の世界「十八史略」	随筆の典型である「枕草子」にあたり、王朝の人の自然や人間に対する典型的な心情や読み取ることができる。平安朝文学の代表的作品である「伊勢物語」にあたり、登場人物の和歌に託した心情を味わうことができる。歌謡にあたることで、古人が、和歌に関してもどのような態度で臨み、和歌にどのような意味を見出しているかを読み取ることができる。「寓話」にあたることで、生き生きとした説得力にあふれる表現を、句形の知識をもとに理解することができる。「十八史略」にあたり、他の資料と併せて読みながら、深い読解ができる。			p89～p90 p96～p99 p110～p111 p123 p198 p208～p210	令和7年9月指定日
4	作り物語を味わう『源氏物語』 中国の思想【人の本性とは】 「不忍人之心」	「桐壺」を読みながら、物語文学を読むための必要な読解力を確認し、古典常識的内容や難解な古語を習得することができる。文章内容を的確に理解し、登場人物の魅力を味わうことができる。中国の思想にあたり、思想家たちの思惟と思想の骨格を理解することができる。諸子百家の基本的言説を学び、日本人の精神生活にどのような影響を与えているかを考えることができる。			p126～p128 p252～p255	令和7年10月指定日
5	唐詩と文「静夜思」 「登岳陽樓」 古詩を味わう「飲酒」「子夜吳歌」	古代日本の必修の教養とされてきた唐詩を、詩の形式、きまりを学ぶことによって、多様な漢詩の世界を味わうことができる。古体詩は『詩経』に始まり、その詩は、四言の句を基調に用い、生活の哀感を素朴にうたいあげたものが多い。その率直な四言詩に触れ、生活の哀感を読み取ることができる。古体詩の形式上の規則と特色を理解し、近体詩とは異なる古体詩の魅力を味わうことができる。			p168 p171 p230 p231	令和7年11月指定日
6	日本の漢詩文「聞旅雁」 「送夏口漱石之伊予」 「所争不在米塩」 歌物語を楽しむ『伊勢物語』	日本人の手による詩二首にあたり、中国で生まれ、上代に日本に伝わった文学形式が連綿として受け継がれ、近代まで文壇の一つの位置を占めていることを理解する。「初冠」にあたることで、「みやび」という語句の意味から、王朝人の美的観点と美についての意識を学ぶことができる。			p262～p263 p266～p269 p94～p102	令和8年2月指定日
面接指導						
回	目的	内容			実施時期	
1	三領域の「読むこと」を中心に、文法や語彙、句形の知識を活用するとともに、確認をする。古文や漢文の読み方を習得する。	代表的な古文作品、漢文作品にあたり、文法・句形・語彙の活用と習得を進める。古典作品を味わい、その世界を理解していくためにも、それぞれの古典作品の特徴を捉える。特に文法や句形の知識を含めた、文章の理解の仕方を学んでいく。			令和7年4月指定日	
2	三領域の「読むこと」を中心に、文法や語彙、句形の知識を用いた読み方を確立する。古典常識などを理解し、より深い読み込みと、作品の作者の考えや、登場人物の精神性を理解する。	代表的な古文作品、漢文作品にあたり、文法・句形・語彙の活用をした、作品の読み方を確立させていく。作品の論理展開や場面展開を捉え、そこにある文法事項や句形が存在する必然性を理解する。それぞれの古典作品の特徴を捉え、古代に生きる人間の精神性を学んでいく			令和7年10月指定日	
テスト						
時期	試験範囲	内容				
1学期	レポート1回～2回	文法・句形・語彙の確認、作者の考え・登場人物の心理説明など。				
2学期	レポート3回～4回	文法・句形・語彙の確認、作者の考え、登場人物の心理説明、文章読解など。				
3学期	レポート5回～6回	文法・句形・語彙の確認、作者の考え、登場人物の心理説明、文章読解、作品説明など。				
評価の基準 成績評価は、知識・技能40点、思考・判断・表現30点、主体的に取り組む態度30点の観点別に行う。						

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
選択履修	進学3年	国語	古典探究	2	塚原 竜一（高松校）
学習目標					
言語文化で学んだ我が国の言語文化に関する基礎的な知識を活用し、より深く古典作品を分析していくことでその特徴を捉え、我が国の言語文化を体系的に理解していくことができる。多様な分野の作品を読み込んで、それぞれの古典作品の作者の考えを理解するとともに、各分野ごとの古典作品の特徴をつかみ、日本の古典文学の在り方を把握する。様々な古典に関する問題にあたり、古典常識や古典世界の理解を前提として、自分の考えを述べ、または記述する。					
面接指導	2	合格単位時間数	教科書	新編古典探究（東京書籍）【701】	
レポート	6	合格通数6通	副教材	新編古典探究（東京書籍）【701】グラimesteps古典（尚文出版）	
単位認定試験	あり	単位認定30点以上	評定	5段階評価、観点別評価の実施	
メディア利用	なし				
添削課題（レポート）					
回	単元	学習内容		教科書ページ	提出締切り
1	説話に親しむ 治拾遺物語 読む『徒然草』 十日のころ 事と小話「蛇足」	「宇随筆を「九月二十日のころ」故 代表的な古典作品にあたり、古典文法や句形、古文学習や漢文学習の基本を復習する。古典作品の豊かな世界に触れて、古文や漢文を読む魅力を十分に味わうことができる。正しく読むことができる。また、それぞれの作品の作者の考えを理解し、それぞれの古典作品の特徴を習得する。 グラimesteps1・2		p10～p11 p22～p23 p158～p159	令和7年5月指定日
2	日記を読む 『土佐日記』『帰京』『更級日記』 唐詩と文「勸酒」「登高」 史記を読む「四面楚歌」	平安時代から鎌倉時代にかけて、「日記」文学に描かれている人間の内面や精神性を、詳述することができる。文法や基本語彙を活用することができる。唐詩にあたり、近体詩の形式を復習し、詳細な心情表現を読み取る。史実の記録である「史記」に、登場人物の心情や考え方を、細かく論理的に捉え、詳述することができる。史実に登場する人物の心情や考え方を詳述することができる。 グラimesteps4・7・8・9		p56～p57 p60～p61 p167・p172 p190～p191	令和7年6月指定日
3	歌話・歌論を読む『袋草紙』『無名抄』 三国志の世界『十八史略』	平安期以降に行われた、勅撰歌集の編纂事業は、古代に暮らす人々の和歌に対する考えや思いが形として現れたものであるが、具体的に和歌に関してどのような態度で臨み、和歌をにどのような意味を見出しているかを、歌話、歌論にあたることで読み取り、詳述する。「十八史略」にあたり、漢文の句形等に留意して、登場人物の心理を詳述する。 グラimesteps16・18		p118～p119 p120～p121 p214～p215	令和7年9月指定日
4	作り物語を味わう『源氏物語』『若紫』 中国の思想【人の本性とは】「性相近也」	「若紫」を読みながら、物語文学を読むための必要な読解力を養成し、古典常識の内容や難解な古語を習得する。文章内容を適格に理解し、登場人物の魅力を味わうことができる。中国の思想にあたり、思想家たちの思维と思想の骨格を理解することができる。諸子百家の基本的言説を学び、日本人の精神生活にどのような影響を『論語』が与えているかを考えることができる。 グランスimesteps6・19		p129～p135 p254～p255	令和7年10月指定日
5	唐詩と文 中作「送元二使安西」 古詩を味わう 長恨歌	「磧五言詩や七言詩を主とする唐詩と句数に制限のない古体詩では、どのような違いが生じるのか、説明することができる。近体詩や古体詩の形式、きまりを学び、それぞれの修辞上の特徴を含めた、表現の特徴を詳述する。作者の心情や考えなども説明ができる。 グランスimesteps5・13・14		p169 p170 p232～239	令和7年11月指定日
6	日本の漢詩文「所争不在来塩」「諸将服信玄」 歴史物語を読む『大鏡』	日本人の手により漢文で書かれた史書にあたり、漢文で書かれている史書の意味を詳述する。漢文という形で、上代に日本に伝わった文学形式が連続として受け継がれ、近代まで文壇の一つの位置を占めていることを理解する。日本語で書かれた歴史書である『大鏡』の形式的理解と、いわゆる中国の史書との違いを理解する。グラimesteps23・24		p266～p269 p108～p111	令和8年1月指定日
面接指導					
回	目的		内容	実施時期	
1	三領域の「読むこと」を中心に、文法や語彙、句形の確認をするとともに、古典世界の常識や慣習をふまえた、古文や漢文の読み方を習得し、実践する。		代表的な古文作品、漢文作品にあたり、文法・句形・語彙の活用と習得をすすめる。古典作品を味わい、その世界を理解していくためにも、それぞれの古典作品の特徴を捉える。特に文法や句形の知識を含めた、文章の理解の仕方を学んでいく。古典世界の現代にない独特な世界観・人間観・社会観を前提として、登場人物や、作者の考えを詳述する。	令和7年4月指定日	
2	三領域の「読むこと」を中心に、文法や語彙、句形の知識、また、古典常識を踏まえた読み方を確立する。深い読み込みと、作者の考えや、登場人物の精神性を理解し、詳述する。		代表的な古文作品、漢文作品にあたり、文法・句形・語彙の知識を活用をした、作品の読み方を確立させていく。作品の論理展開や場面展開を捉え、そこにある文法事項や句形が存在する必然性を理解する。それぞれの古典作品の特徴を捉え、古代に生きる人間の精神性を学んでいく。	令和7年10月指定日	
テスト					
時期	試験範囲		内容		
1学期	レポート1回～2回		文法・句形・語彙の確認、作者の考え・登場人物の心理説明など。		
2学期	レポート3回～4回		文法・句形・語彙の確認、作者の考え、登場人物の心理説明、文章読解など。		
3学期	レポート5回～6回		文法・句形・語彙の確認、作者の考え、登場人物の心理説明、文章読解、作品説明など。		
評価の基準					
成績評価は、知識・技能40点、思考・判断・表現30点、主体的に取り組む態度30点の観点別に行う。					

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
必修	1	地歴	地理総合	2	伊藤 樹(高松校)
学習目標					
1 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。					
2 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、それらを基に議論したりする力を養う。					
3 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。					
面接指導	2 単位時間	合格時間数：2 単位時間		教科書	「高等学校 地理総合」帝国書院
レポート	6 回	合格通数：6 通		副教材	「高等学校 地理総合」帝国書院
単位認定試験	年間 3 回	単位認定 3 0 点以上		メディア利用	なし
添削指導（レポート）					
回	単元		学習内容	教科書ページ	締切り
1	第 1 章地図と地理情報システム (第一部)		①日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。 現代世界のさまざまな地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。 ②地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ③地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 ④現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解する。 ⑤現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現する。 ⑥現代世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	P6～57	1 学期
2	第 1 章生活文化の多様性と 国際理解 (第二部)		①世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。 世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 ②世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ③生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 ④季節風や宗教の広まりにより、どのような特徴や生活における変化が見られたか、理解する。 ⑤歴史的な背景と植民地支配されていた人々の生活文化や産業は、どのように関わり合っているか考察し、表現する。	P60～88	1 学期
3	第 1 章生活文化の多様性と 国際理解 (第二部)		①中央アジアから北アフリカにかけての地域では、イスラームを信仰する人々が多い。この地域の生活文化は、宗教からどのような影響を受けているか、多面的・多角的に考察し、表現する。 ②世界各地の多様な環境の下で育まれてきた生活文化は、さまざまな出来事を積み重ねることによって変化を遂げてきた。このような歴史的な背景は、人々の生活文化にどのような影響があったか、理解する。 ③冷戦の影響や社会主義を掲げていた国が、1990 年に国家体制が変化し、現在は新しい国づくりを進めている。国家体制の変化は、人々の生活や社会にどのような影響を与えたのだろうか。 ④アメリカ合衆国では、世界標準の工業製品が生み出されたり、世界の食を支える農産物が生産されたりしている。この国の産業が、人々の生活にどのような影響を与えているのか、表現する。 ⑤東アジアは第二次世界大戦後に急速に経済成長が進んだ地域である。中国や韓国で、どのような生活文化がみられ、経済成長の影響を受けているのか、表現する。 ⑥ヨーロッパでは、二度の世界大戦を機に EU を中心とした政治・経済の統合が進められている。EU の統合によって、ヨーロッパの人々の生活文化はどのように変化したか、多面的・多角的に考察し、表現する。	P90～144	2 学期
4	第 2 章地球的課題と国際協力		①世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指す各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解する。 ②世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目し、日本における課題や対策を考察する。 ③地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	P145～170	2 学期
5	第 2 章地球的課題と国際協力 第 1 章自然環境と防災 (第 3 部)		①世界で見られる食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ②地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 ③それぞれの諸問題が「SDGs」のどの分野に該当するかを考察し、日本や各国の取り組み、解決しようとする態度を養う。 ④環太平洋造山帯に属する日本は、数多くの地震によってさまざまな被害を受けてきた。地震は、どのような被害をもたらすのだろうか。また、地震の発生に備えて、どのような取り組みが必要なのか、考察し、表現する。	P172～192	学年末
6	第 1 章自然環境と防災 (第 3 部) 第 2 章生活圏の調査と地域の展望		①変動帯に位置する日本は、津波における被害を受けてきた。津波は、どのような被害をもたらすのか。また、津波だけでなくその他の被害に備えての対策（『防災』）について、どのような取り組みが必要なのか、考察し、表現する。 ②生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解する。 ③生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察し、表現する。 ④生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	P194～227	学年末

面接指導				
回	目的	内容	時期	
1	自然環境や言語・宗教、歴史的背景、産業や人々の生活とのつながりを考察し、社会的な事柄の地理的な見方や考え方を追究し解決する活動を行う。	情報を収集し、現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図や、方位、時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きを表現し、情報を読み取り、衣食住を中心とする世界の人々の暮らし、慣習や規範、宗教などの生活様式に関わる事柄を表現し、「世界の諸地域」の特徴を考察する。	1学期	
2	地理的事柄を、多面的・多角的に考察し地理的な課題を主体的に探究する。	情報をまとめ、地域性を踏まえた出来事について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目し、多面的・多角的に考察し、表現する力。地域性を踏まえた事柄については、生活圏などを例に、その地域の自然環境の特色と土地利用や開発の歴史を基に、地域における種類や規模、頻度などを踏まえた対策を、考察する。	学年末	
認定試験				
回	内容		試験範囲	時期
1	第1章 地図と地理情報システム～第1章 生活文化の多様性と国際理解		P6～88	1学期末
2	第1章 生活文化の多様性と国際理解～第2章 地球的課題と国際協力		P90～170	2学期末
3	第2章地球的課題と国際協力 第1章自然環境と防災（第3部） 第1章自然環境と防災（第3部） 第2章生活圏の調査と地域の展望		P172～227	学年末
評価の基準		●下記の(1)～(3)の項目を、評価の観点別(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。 (1)授業への取り組み 授業に対する姿勢、学習態度、出席状況等で判断する。評価の観点のうち、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 (2)レポートへの取り組み 授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているか、提出期限は守られているかなどを評価する。評価の観点のうち、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 (3)期末・学年末考査 学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現の項目を評価する。		

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
必修	3	地歴	地理総合	3	伊藤 樹
学習目標					
1 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球の課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。					
2 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、それらを基に議論したりする力を養う。					
3 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。					
面接指導	3単位時間	合格時間数：3単位時間	教科書	「高等学校 地理総合」帝国書院	
レポート	9回	合格通数：9通	副教材	「高等学校 地理総合」帝国書院	
単位認定試験	年間 3 回	単位認定 3 0 点以上	メディア利用	なし	
添削指導（レポート）					
回	単元	学習内容		教科書ページ	締切り
1	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム	①日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。 現代世界のさまざまな地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。 ②地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ③地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 ④現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解する。 ⑤現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現する。 ⑥現代世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。		P5～20	1学期
2	第1部 地図でとらえる現代世界 第2章 結び付きを深める現代世界	①世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。 世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 ②世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ③生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 ④季節風や宗教の広まりにより、どのような特徴や生活における変化が見られたか、理解する。 ⑤歴史的な背景と植民地支配されていた人々の生活文化や産業は、どのように関わり合っているか考察し、表現する。		P27～57	1 学期
3	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 1節 世界の地形と人々の生活	①中央アジアから北アフリカにかけての地域では、イスラームを信仰する人々が多い。この地域の生活文化は、宗教からどのような影響を受けているか、多面的・多角的に考察し、表現する。 ②世界各地の多様な環境の下で育まれてきた生活文化は、さまざまな出来事を積み重ねることによって変化を遂げてきた。このような歴史的な背景は、人々の生活文化にどのような影響があったか、理解する。 ③冷戦の影響や社会主義を掲げていた国が、1990年代に国家体制が変化し、現在は新しい国づくりを進めている。国家体制の変化は、人々の生活や社会にどのような影響を与えたのだろうか。 ④アメリカ合衆国では、世界標準の工業製品が生み出されたり、世界の食を支える農産物が生産されたりしている。この国の産業が、人々の生活にどのような影響を与えているのか、表現する。 ⑤東アジアは第二次世界大戦後に急速に経済成長が進んだ地域である。中国や韓国で、どのような生活文化がみられ、経済成長の影響を受けているのか、表現する。 ⑥ヨーロッパでは、二度の世界大戦を機にEUを中心とした政治・経済の統合が進められている。EUの統合によって、ヨーロッパの人々の生活文化はどのように変化したか、多面的・多角的に考察し、表現する。		P43～54	1 学期
4	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 2節 世界の気候と人々の生活	①世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解する。 ②世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりに着目し、日本における課題や対策を考察する。 ③地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。		P60～84	2 学期
5	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 3節 世界の言語・宗教と人々の生活 4節 歴史的背景と人々の生活	①世界で見られる食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりに着目し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ②地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 ③それぞれの諸問題が「SDGs」のどの分野に該当するかを考察し、日本や各国の取り組み、解決しようとする態度を養う。 ④環太平洋造山帯に属する日本は、数多くの地震によってさまざまな被害を受けてきた。地震は、どのような被害をもたらすのだろうか。また、地震の発生に備えて、どのような取り組みが必要なのか、考察し、表現する。		P86～118	2 学期
6	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 5節 世界の産業と人々の生活	①変動帯に位置する日本は、津波における被害を受けてきた。津波は、どのような被害をもたらすのか。また、津波だけでなくその他の被害に備えての対策（『防災』）について、どのような取り組みが必要なのか、考察し、表現する。 ②生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解する。 ③生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察し、表現する。 ④生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。		P120～142	2 学期
7	第2部 国際理解と国際協力 第2章 地球的課題と国際協力	①変動帯に位置する日本は、津波における被害を受けてきた。津波は、どのような被害をもたらすのか。また、津波だけでなくその他の被害に備えての対策（『防災』）について、どのような取り組みが必要なのか、考察し、表現する。 ②生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解する。 ③生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察し、表現する。 ④生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。		P145～184	2 学期

8	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災	①変動帯に位置する日本は、津波における被害を受けてきた。津波は、どのような被害をもたらすのか。また、津波だけでなくその他の被害に備えての対策（『防災』）について、どのような取り組みが必要なのか、考察し、表現する。 ②生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解する。 ③生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察し、表現する。 ④生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	P189～214	学年末
9	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第2章 生活圏の調査と地域の展望	①変動帯に位置する日本は、津波における被害を受けてきた。津波は、どのような被害をもたらすのか。また、津波だけでなくその他の被害に備えての対策（『防災』）について、どのような取り組みが必要なのか、考察し、表現する。 ②生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解する。 ③生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察し、表現する。 ④生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	P219～227	学年末
面接指導				
回	目的	内容	時期	
1	自然環境や言語・宗教、歴史的背景、産業や人々の生活とのつながりを考察する。	情報を収集し、現代世界の地域構成を示した様々な地図の読図や、方位、時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きを表現する。	1学期	
2	社会的な事柄の地理的な見方や考え方を追究し解決する活動を行う。	情報を読み取り、衣食住を中心とする世界の人々の暮らし、慣習や規範、宗教などの生活様式に関わる事柄を表現し、「世界の諸地域」の特徴を考察する。	2学期	
3	地理的事柄を、多面的・多角的に考察し地理的な課題を主体的に探究する。	情報をまとめ、地域性を踏まえた出来事について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目し、多面的・多角的に考察し、表現する力。地域性を踏まえた事柄については、生活圏などを例に、その地域の自然環境の特色と土地利用や開発の歴史を基に、地域における種類や規模、頻度などを踏まえた対策を、考察する。	学年末	
認定試験				
回	内容	試験範囲	時期	
1	第1部 地図でとらえる現代世界 第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 1節 世界の地形と人々の生活	P5～54	1学期	
2	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 2節 世界の気候と人々の生活 第2部 国際理解と国際協力 第2章 地球的課題と国際協力	P60～184	2学期	
3	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第2章 生活圏の調査と地域の展望	P189～227	学年末	
評価の基準	●下記の(1)～(3)の項目を、評価の観点別(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。 (1)授業への取り組み 授業に対する姿勢、学習態度、出席状況等で判断する。評価の観点のうち、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 (2)レポートへの取り組み 授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているか、提出期限は守られているかなどを評価する。評価の観点のうち、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 (3)期末・学年末考査 学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現の項目を評価する。			

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
必修	進学 1	地歴	歴史総合	2	西岡 裕介（高松校）
学習目標					
1. 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。					
2. 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、歴史的な見方・考え方に着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したりそれらを基に議論したりする力を養う。					
3. 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。					
面接指導	2 単位時間	合格時間数：2 単位時間		教科書	「明解 歴史総合」 帝国書院
レポート	6 回	合格通数：6 通		副教材	「明解 歴史総合ノート」 帝国書院
単位認定試験	年間 3 回	単位認定 3 0 点以上		メディア利用	なし
添削指導（レポート）					
回	単元	学習内容		教科書ページ	締切り
1	2 部 近代化と私たち 1 章 江戸時代と結び付く世界 2 章 欧米諸国における近代化 3 章 近代化の進展と国民国家形成	< 2 部 1 章 > 18世紀のアジア各地域間やアジア諸国の貿易と、日本への影響について資料を読み取り理解する。「大航海時代」から「世界の一体化」へ至る交易の意義と地域の変容について考察する。18世紀の世界交易が現代社会に与えた影響と課題について追究する。 < 2 部 2 章 > 市民社会と国民国家の形成、資本主義社会と国際分業体制確立の経緯について、資料を読み取り理解する。市民革命および産業革命の経緯などから、諸改革の意義と現代社会との関わりを考察する。市民革命や産業革命が、現代社会に与えた影響や課題について追究する。 < 2 部 3 章 > 国民国家の展開と帝国主義による世界分割や移民の状況について、資料を読み取り理解する。国民国家の形成・発展による対外戦争や差別・抑圧、帝国主義が人類に与えた変化について考察する。国民国家や帝国主義政策が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。		P20～55	1 学期
2	2 部 近代化と私たち 4 章 アジア諸国の動揺と日本の開国 5 章 近代化が進む日本と東アジア	< 2 部 4 章 > 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変容について、資料を読み取り理解する。「西洋の衝撃」の歴史的意義について、アジア諸国の変容を比較したり関連付けたりして考察する。欧米諸国の進出とアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。 < 2 部 5 章 > 明治維新とその後の日本の変化やアジア諸国の変容について、資料を読み取り理解する。明治維新の歴史的意義について、現代の日本への影響と関連付けて考察する。明治維新やアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。		P56～84	1 学期
3	3 部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1 章 第一次世界大戦と日本の対応 2 章 国際協調と大衆社会の広がり	< 3 部 1 章 > 国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会の変化について、資料を読み取り理解する。第一次世界大戦の総力戦体制下において、列強の戦闘員・列強の非戦闘員・植民地や従属地域の人々がそれぞれどのような目的で戦争に協力したのかについて考察する。勢力均衡に基づく国際秩序と大戦参加が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。 < 3 部 2 章 > ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序と、国際社会や各国に生じた政治・社会・文化の変化について、資料を読み取り理解する。新しい国際秩序と大衆社会の特徴について考察する。ヴェルサイユ体制に基づく国際秩序の成立と、20世紀前半における大衆社会の到来が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。		P94～121	2 学期
4	3 部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 3 章 日本の行方と第二次世界大戦	< 3 部 3 章 > 世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら、資料を読み取り理解する。ファシズム体制の形成から終戦に至るまで、大衆がなぜ戦争に協力していったのかを考察する。世界恐慌後の各国の政治的判断と、大戦の戦争協力が現代社会に与えた影響と課題について追究する。		P122～141	2 学期
5	3 部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 4 章 再出発する世界と日本	< 3 部 4 章 > 冷戦構造の形成と、国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら、資料を読み取り理解する。国際連合を中心に、第二次世界大戦以前と以後の国際秩序を比較することで、戦争の経験が人々に何をもたらしたのかについて考察する。大戦後に形成された冷戦構造と国際連合による平和維持体制が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。		P142～152	2 学期
6	4 部 グローバル化と私たち 1 章 冷戦で揺れる世界と日本 2 章 多極化する世界 3 章 グローバル化のなかの世界と日本	< 4 部 1 章 > 冷戦下の緊張と緩和の経緯と、そのなかでの日本の高度経済成長や脱植民地化を目指す動きについて、資料を読み取り理解する。冷戦下の世界と日本の動向について、政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察する。冷戦下における各国の動向が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。 < 4 部 2 章 > 冷戦下の1960年代から80年代における各国の選択と経済成長について、資料を読み取り理解する。各国の選択を比較し、「東アジアの奇跡」が起こった要因や世界史における意義について考察する。冷戦下における各国の政治的・経済的選択が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。 < 4 部 3 章 > 冷戦終結の過程とグローバル化の特質について、資料を読み取り理解する。グローバル化の進展や地域統合、ナショナリズムの強化について各地域を比較して考察して、その特質や問題点を表現する。冷戦の終結とグローバル化の進展が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。		P 158～196	学年末
面接指導					
回	目的	内容			時期
1	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉える。	近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。			1 学期
2	近現代の歴史の変化に関わる事象を多面的・多角的に考察する。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付ける。			学年末

認定試験

回	内容	試験範囲	時期
1	2部 近代化と私たち	教科書P20～84	1学期末
2	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち	教科書P94～152	2学期末
3	4部 グローバル化と私たち	教科書P158～196	学年末
評価の基準	●下記の(1)～(3)の項目を、評価の観点別(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。 (1)授業への取り組み 授業に対する姿勢、学習態度、出席状況等で判断する。評価の観点のうち、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 (2)レポートへの取り組み 授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているか、提出期限は守られているかなどを評価する。評価の観点のうち、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 (3)期末・学年末考査 学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現の項目を評価する。		

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
必修	1	地歴	歴史総合	2	池添 真以
学習目標					
1. 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 2. 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、歴史的な見方・考え方に着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 3. 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。					
面接指導	2 単位時間	合格時間数：2 単位時間		教科書	「明解 歴史総合」帝国書院
レポート	6 回	合格通数：6 通		副教材	「明解 歴史総合ノート」帝国書院
単位認定試験	年間 3 回	単位認定 3 0 点以上		メディア利用	なし
添削指導（レポート）					
回	単元	学習内容		教科書ページ	締切り
1	江戸時代の日本と結び付く世界	①18世紀のアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易と、日本への影響について、資料を読み取り、理解する。 ②「大航海時代」から「世界の一体化」へ至る交易の意義と地域の変容について考察し、みずからの言葉で表現する。 ③18世紀の世界交易が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。		P21～28	1 学期
2	欧米諸国における近代化	①市民社会と国民国家の形成、資本主義社会と国際分業体制確立の経緯について、資料を読み取り、理解する。 ②市民革命および産業革命の経緯などから、諸改革の意義と現代社会との関わりを考察し、みずからの言葉で表現する。 ③市民革命や産業革命が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。		P33～42	1 学期
3	近代化の進展と国民国家形成	①国民国家の展開と帝国主義による世界分割や移民の状況について資料を読み取り、理解する。 ②国民国家の形成・発展による対外戦争や差別・抑圧、帝国主義が人類に与えた変化について考察し、みずからの言葉で表現する。 ③国民国家や帝国主義政策が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。		P47～54	2 学期
4	アジア諸国の動揺と日本の開国	①欧米諸国の進出によるアジア諸国の変容について、資料を読み取り、理解する。 ②「西洋の衝撃」の歴史的意義について、アジア諸国の変容を比較したり関連付けたりして考察し、みずからの言葉で表現する。 ③欧米諸国の進出とアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。		P57～66	2 学期
5	近代化が進む日本と東アジア	①明治維新とその後の日本の変化やアジア諸国の変容について、資料を読み取り、理解する。 ②明治維新の歴史的な意義について、現代の日本への影響と関連付けて考察し、みずからの言葉で表現する。 ③明治維新やアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。		P71～80	学年末
6	第一次世界大戦と日本の対応	①国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会の変化について、資料を読み取り、理解する。 ②第一次世界大戦の総力戦体制下において、列強の戦闘員・列強の非戦闘員・植民地や従属地域の人々がそれぞれどのような目的で戦争に協力したのかについて考察し、みずからの言葉で表現する。 ③勢力均衡に基づく国際秩序と大衆の戦争参加が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。		P95～100	学年末
面接指導					
回	目的	内容			時期
1	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉える。	近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。			4 月
2	近現代の歴史の変化に関わる事象を多面的・多角的に考察する。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身につける。			1 月
認定試験					
回	内容			試験範囲	時期
1	1 「江戸時代の日本と結び付く世界」 2 「欧米諸国における近代化」			P21～42	1学期末
2	3 「近代化の進展と国民国家形成」 4 「アジア諸国の動揺と日本の開国」			P47～66	2学期末
3	5 「近代化が進む日本と東アジア」 6 「第一次世界大戦と日本の対応」			P71～100	学年末
評価の基準	●下記の(1)～(3)の項目を、評価の観点別(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。 (1)授業への取り組み 授業に対する姿勢、学習態度、出席状況等で判断する。評価の観点のうち、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 (2)レポートへの取り組み 授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているか、提出期限は守られているかなどを評価する。評価の観点のうち、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 (3)中間・期末・学年末考査 学習内容に合わせて問題を出题する。評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現の項目を評価する。				

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
必修	2	国語	歴史総合	2	池添 真以
学習目標					
1. 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。					
2. 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、歴史的な見方・考え方に着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。					
3. 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。					
面接指導	2 単位時間	合格時間数：2 単位時間		教科書	「明解 歴史総合」帝国書院
レポート	6 回	合格通数：6 通		副教材	「明解 歴史総合ノート」帝国書院
単位認定試験	年間 3 回	単位認定 3 0 点以上		メディア利用	なし
添削指導（レポート）					
回	単元	学習内容		教科書ページ	締切り
1	国際協調と大衆社会の広がり	①ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序と、国際社会や各国に生じた政治・社会・文化の変化について、資料を読み取り、理解している。 ②新しい国際秩序と大衆社会の特徴について考察し、みずからの言葉で表現している。 ③ヴェルサイユ体制に基づく国際秩序の成立と、2 0 世紀前半における大衆社会の到来が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。		P106～118	1 学期
2	日本の行方と第二次世界大戦	①世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら、資料を読み取り、理解している。 ②ファシズム体制の形成から終戦に至るまで、大衆がなぜ戦争に協力していったのか考察し、みずからの言葉で表現している。 ③世界恐慌後の各国の政治的判断と、大衆の戦争協力が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。		P119～141	1 学期
3	再出発する世界と日本	①冷戦構造の形成と、国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら資料を読み取り、理解している。 ②国際連合を中心に、第二次世界大戦以前と以後の国際秩序を比較することで、戦争の経験が人々に何をもたらしたのかについて考察し、みずからの言葉で表現している。 ③大戦後に形成された冷戦構造と国際連合による平和維持体制が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。		P142～152	2 学期
4	冷戦で揺れる世界と日本	①冷戦下の緊張と緩和の経緯と、そのなかでの日本の高度経済成長や、脱植民地化を目指す動きについて、資料を読み取り、理解している。 ②冷戦下の世界と日本の動向について、政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察し、みずからの言葉で表現している。 ③冷戦下における各国の動向が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。		P158～169	2 学期
5	多極化する世界	①冷戦下の 1960 年代から 80 年代における各国の選択と経済成長について、資料を読み取り、理解している。 ②各国の選択を比較し、「東アジアの奇跡」が起こった要因や世界史における意義について考察し、みずからの言葉で表現している。 ③冷戦下における各国の政治的・経済的選択が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。		P170～183	3 学期
6	グローバル化のなかの世界と日本	①冷戦終結の過程とグローバル化の特質について、資料を読み取り、理解している。 ②グローバル化の進展や地域統合、ナショナリズムの強化について各地域を比較して考察し、その特質や問題点をみずからの言葉で表現している。 ③冷戦の終結とグローバル化の進展が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。		P184～194	3 学期
面接指導					
回	目的	内容			時期
1	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉える。	現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。			4 月
2	近現代の歴史の変化に関わる事象を多面的・多角的に考察する。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身につける。			1 月
認定試験					
回	内容			試験範囲	時期
1	1 「国際協調と大衆社会の広がり」 2 「日本の行方と第二次世界大戦」			P106～141	1 学期末
2	3 「再出発する世界と日本」 4 「冷戦で揺れる世界と日本」			P142～169	2 学期末
3	5 「多極化する世界」 6 「グローバル化のなかの世界と日本」			P170～194	学年末
評価の基準	●下記の(1)～(3)の項目を、評価の観点別(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。 (1)授業への取り組み 授業に対する姿勢、学習態度、出席状況等で判断する。評価の観点のうち、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 (2)レポートへの取り組み 授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているか、提出期限は守られているかなどを評価する。評価の観点のうち、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 (3)中間・期末・学年末考査 学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現の項目を評価する。				

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
選択履修	進学 2 年	地歴	日本史探究	2	西岡 裕介（高松校）
学習目標					
1. 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。					
2. 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて 構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。					
3. 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。					
面接指導	2 単位時間	合格時間数：2 単位時間		教科書	「日本史探究 詳説日本史」 山川出版社
レポート	6 回	合格通数：6 通		副教材	「詳説日本史ノート 日本史探究」 山川出版社
単位認定試験	年間 3 回	単位認定 3 0 点以上		メディア利用	なし
添削指導（レポート）					
回	単元	学習内容		教科書ページ	締切り
1	第 1 章 日本文化のあけぼの 第 2 章 古墳とヤマト政権	<第 1 章> ①人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ②稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて弥生文化の形成を考察する。 ③集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて考察する。 <第 2 章> ①地域の酋長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容から捉える。 ②ヤマト政権による国家の形成過程については、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 ③古墳時代後期から終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。 ④ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。 ⑤飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響がみられることを理解する。		P6～36	1 学期
2	第 3 章 律令国家の形成	<第 3 章> ①律令国家が成立するまでの過程を考察し、律令にもとづく国内統治体制について理解する。 ②律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況や平城京における政治動向について土地政策も含めて多角的・多面的にとらえて考察する。 ③律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察する。 ④天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目する。 ⑤平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。 ⑥東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。		P37～61	1 学期
3	第 4 章 貴族政治の展開	<第 4 章> ①藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。 ②日本と東アジアとの関係において、民間の貿易や交流が中心となったことを捉える。 ③大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。 ④摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係があるかを考察する。 ⑤律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。 ⑥地方の反乱やその鎮圧など、武士の成長過程について考察する。		P62～74	2 学期
4	第 5 章 院政と武士の躍進 第 6 章 武家政権の成立(1・2)	<第 5 章> ①院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ②外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。 ③政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。 <第 6 章 1・2> ①鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ②承久の乱に伴う公武関係の変化に着目し、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。 ③武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。		P76～98	2 学期
5	第 6 章 武家政権の成立(3・4) 第 7 章 武家社会の成長(1・2)	<第 6 章 3・4> ①蒙古襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。 ②非御家人に対する権限拡大など、幕府勢力が西国に浸透したことの意味を考察する。 ③庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。 ④伝統的な公家文化の世界で、有職故実・古典研究などの学問が進展した背景を考察する。 <第 7 章 1・2> ①南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ②琉球・蝦夷ヶ島を含む東アジアとの交流が中世日本にもたらした影響について理解する。 ③庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。 ④諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。		P99～132	2 学期
6	第 7 章 武家社会の成長(3・4) 第 8 章 近世の幕明け	<第 7 章 3・4> ①武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化および、大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。 ②庶民文化の萌芽や、応仁の乱を契機とした文化の地方伝播、戦国大名の保護による文化の地方普及を理解する。 ③応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。 <第 8 章> ①大航海時代を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ②織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一や朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。 ③新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。		P132～149	学年末

面接指導				
回	目的	内容	時期	
1	歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそれの中の日本を広く相互的な視野から捉える。	歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	1 学期	
2	歴史の変化に関わる事象を多面的・多角的に考察する。	歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身につける。	学年末	
認定試験				
回	内容		試験範囲	時期
1	第 1 章 日本文化のあけぼの ・ 第 2 章 古墳とヤマト政権 ・ 第 3 章 律令国家の形成		教科書P6～61	1学期末
2	第 4 章 貴族政治の展開 ・ 第 5 章 院政と武士の躍進 ・ 第 6 章 武家政権の成立 ・ 第 7 章 武家社会の成長(1・2)		教科書P62～132	2学期末
3	第 7 章 武家社会の成長(3・4) ・ 第 8 章 近世の幕開け		教科書P132～149	学年末
評価の基準	●下記の(1)～(3)の項目を、評価の観点別(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。 (1)授業への取り組み 授業に対する姿勢、学習態度、出席状況等で判断する。評価の観点のうち、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 (2)レポートへの取り組み 授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているか、提出期限は守られているかなどを評価する。評価の観点のうち、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 (3)期末・学年末考査 学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現の項目を評価する。			

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
選択履修	進学 3 年（文系）	地歴	日本史探究	2	伊藤 樹（高松校）
学習目標					
1. 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付ける。 2. 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、歴史的な見方・考え方に着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 3. 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。					
面接指導	2 単位時間	合格時間数：2 単位時間	教科書	『詳説 日本史探究』	
レポート	6 回	合格通数：6 通	副教材	『詳説 日本史ノート』『詳説日本史図録』	
単位認定試験	年間 3 回	単位認定 3 0 点以上	メディア利用	なし	
添削指導（レポート）					
回	単元	学習内容	教科書ページ	締切り	
1	第 4 章 貴族政治の展開 3 節 地方政治の展開と武士 第 5 章 院政と武士の躍進 第 6 章（武家政権の成立）の 2 節 武士の社会	< 4 章 > ①地方の反乱と鎮圧など、武士の過程について、「源氏」を例に考察し、説明する。 < 5 章 > ①院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ②外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に通達せず改革を進めた背景を考察する。 ③政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。 ④古代から中世への変化について考察し、時代を連続する間いを表現する。 < 6 章 > ①鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ②鎌倉幕府の成立時期をめぐる背景を、それぞれの根拠を明確にして考察する。 ①「承久の乱」における朝廷と武士の変化に着目し、執権政治の過程も理解する。 ②武士の生活と地方支配を通じて、地頭の動向に着目し、過程を考察する。	P69～94	1学期	
2	第 6 章の 3 節 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 節 鎌倉文化 第 7 章 武家社会の成長 1 節 室町幕府の成立 2 節 幕府の衰退と庶民の台頭 3 節 室町文化	< 6 章 > ①モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。 ②南朝家人に対する権限拡大など、幕府勢力が西国に浸透したことの意義を考察する。 ③庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生じたことを理解する。 ④伝統的な公家文化の世界で、有職故実・古典研究などの学問が進展した背景を考察する。 < 7 章 > ①南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ②琉球・蝦夷・島を含む東アジアとの交流が中世日本にもたらした影響について理解する。 ③庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下層上の風潮を考察する。 ④鎌倉の発展による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。	P99～125	1学期	
3	第 8 章 近世の幕開け	< 8 章 > ①大航海時代と呼ばれる世界的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ②織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。 ③新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。 ④中世から近世への変化について考察し、時代を連続する間いを表現する。	P132～146	2学期	
4	第 9 章 幕藩体制の成立と展開 第 1 0 章 幕藩体制の動揺 第 1 1 章 近世から近代へ	< 9 章 > ①江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。 ②幕藩体制の確立期の経済・社会を、兵農分離や村藩・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。 ③17世紀後半から18世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の観点で考察する。 ④幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。 < 1 0 章 > ①農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や藩が行った諸改革の意義とその影響を考察する。 ②元禄や化政期における文化は、町人の社会的自覚や幕藩体制の安定だけでなく、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、考察する。 < 1 1 章 > ①国際社会に組み込まれる国際環境に着目し、日本の改革を社会・経済面での変化と関連させ、考察する。 ②幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕府軍の一掃に至るまでの経過を理解する。	P154～227	2学期	
5	第 1 2 章 近代国家の成立 第 1 3 章 近代国家の展開 第 1 4 章 近代の産業と生活 第 1 5 章 恐慌と第二次世界大戦	< 12 章 > ①明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目し、政治的改革と国家的統一過程を理解する。 ②明治初期の対外政策について、欧米やアジアの対応や外交政策の違いについて考察する。 ③中央集権体制への志向の下で、自由民権運動の始まりから大日本帝国憲法の成立や性格について、具体的・多角的に理解する。 < 1 3 章 > ①東アジアをめぐる国際環境が変容する中、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や日清戦争（「甲午農民戦争が契機」）・日露戦争（「義和団事件が契機」）の経過や、植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連付けて考察する。 ②ワシントン体制に至る国際的協定期間の進展と、大正デモクラシーにおける社会運動の動向を理解するとともに、日本の立場に着目して理解する。 < 1 4 章 > ①日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立した過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解する。 ②伝統的な文化と欧米文化の摂取に関連させ、近代文化の特徴を、政治・経済・外交などの視点を持って考察する。 ③労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の成立に着目し、都市化や市民生活の変化を踏まえ、大衆文化の特色について着目する。 < 1 5 章 > ①戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺と、国家主義の台頭を踏まえて、国内・国外の経済状況と対策に着目し、理解する。 ②日本の対外政策の推移について、五・一五事件から二・二六事件の関連から世界情勢や軍部の政治的進出に着目し、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について理解する。 ③日中戦争の勃発から太平洋戦争、第二次世界大戦の突入に至る過程について、国民生活の変化や国家間の相違などの特色を踏まえ、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を考察し、表現する。	P236～311	2学期	
6	第 1 6 章 占領下の日本 第 1 7 章 高度成長の時代 第 1 8 章 激動する世界と日本	< 1 6 章 > ①戦後の政治と、世界秩序を踏まえ占領政策と民主化政策に伴う諸改革を日本国憲法の意義を考察する。 ②東アジアの情勢を踏まえ、連合国による日本占領の経緯と、その後の日米関係の継続について、様々な国の立場から考察する。 < 1 7 章 > ①独立後の日本国内の動向について、5 5 年体制の成立から冷戦構造の中で日本が国際社会で獲得した背景を多面的・多角的に考察する。また、日本の国連の加盟、アメリカ・東アジア（中国、韓国）との関係に着目し、独立回復後の日本の動きを考察する。 ②特需景気（朝鮮特需）による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と消費革命による変貌と、社会問題について理解する。 < 1 8 章 > ①ドル・ショックや石油危機を踏まえ、高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。 ②冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえ科学技術・産業の発達によって派生する環境問題やエネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の役割を認識する。	P325～359	学年末	

面接指導			
回	目的	内容	時期
1	室町・戦国時代とヨーロッパの関わりにおける特徴と、世界情勢との関連性を多面的・多角的に考察してみよう	武士中心の中央集権国家体制の特徴と相違点を、活躍した人物を中心に考察していく。 室町から戦国にかけて、東アジアやヨーロッパ諸国との関わりをもち、日本にどのような影響があったか考察する。	1 学期
2	江戸幕府の成立から終戦における日本と世界の関わりと冷戦による影響を考察してみよう	江戸幕府から戦後における（第二次世界大戦～冷戦終結）世界情勢を、活躍した人物を中心に特徴や時代背景を考察していく。	学年末
回	内容	試験範囲	時期
1	第 4 章 貴族政治の展開～第7章 武家社会の成長	教科書P69～136	1学期末
2	第8章 近世の幕開けと～第 1 5 章 恐慌と第二次世界大戦	教科書P138～311	2学期末
3	第 1 6 章 占領下の日本～第 1 8 章 激動する世界と日本	教科書P325～359	学年末
評価の基準	●下記の(1)～(3)の項目を、評価の観点別(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。 (1)授業への取り組み 授業に対する姿勢、学習態度、出席状況等で判断する。評価の観点のうち、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 (2)レポートへの取り組み 授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているか、提出期限は守られているかなどを評価する。評価の観点のうち、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 (3)期末・学年末考査 学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現の項目を評価する。		

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
選択履修	通学・通信 3 年	地歴	日本史探究	4	西岡 裕介（高松校）
学習目標					
1. 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。					
2. 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて 構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。					
3. 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の 文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。					
面接指導	4単位時間	合格時間数：4単位時間	教科書	「日本史探究 詳説日本史」 山川出版社	
レポート	12回	合格通数：12通	副教材	「詳説日本史ノート 日本史探究」 山川出版社	
単位認定試験	年間 3 回	単位認定 3 0 点以上	メディア利用	なし	
添削指導（レポート）					
回	単元	学習内容	教科書ページ	締切り	
1	第 1 章 日本文化のあけぼの 第 2 章 古墳とヤマト政権 第 3 章 律令国家の形成(1～3)	<第 1 章> ①人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ②稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて弥生文化の形成を考察する。 ③集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて考察する。 <第 2 章> ①地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容から捉える。 ②ヤマト政権による 国家の形成過程については、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 ③古墳時代後期から終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。 ④ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。 ⑤飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響がみられることを理解する。 <第 3 章 1～3> ①律令国家が成立するまでの過程を考察し、律令にもとづく国内統治体制について理解する。 ②律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況や平城京における政治動向について土地政策も含めて多角的・多面的にとらえて考察する。 ③律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察する。 ④天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目する。	P6～P54	1 学期	
2	第 3 章 律令国家の形成(4) 第 4 章 貴族政治の展開	<第 3 章 4> ①平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。 ②東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。 <第 4 章> ①藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。 ②日本と東アジアとの関係において、民間の貿易や交流が中心となったことを捉える。 ③大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。 ④摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係があるかを考察する。 ⑤律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。 ⑥地方の反乱やその鎮圧など、武士の成長過程について考察する。	P55～74	1 学期	
3	第 5 章 院政と武士の躍進 第 6 章 武家政権の成立(1・2)	<第 5 章> ①院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ②外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。 ③政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。 <第 6 章 1・2> ①鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ②承久の乱に伴う公武関係の変化に着目し、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。 ③武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。	P76～98	1 学期	
4	第 6 章 武家政権の成立(3・4) 第 7 章 武家社会の成長(1～3)	<第 6 章 3・4> ①蒙古襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。 ②非御家人に対する権限拡大など、幕府勢力が西国に浸透したことの意義を考察する。 ③庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。 ④伝統的な公家文化の世界で、有職故実・古典研究などの学問が進展した背景を考察する。 <第 7 章 1～3> ①南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ②琉球・蝦夷・島を含む東アジアとの交流が中世日本にもたらした影響について理解する。 ③庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。 ④諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。 ⑤武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化および、大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。 ⑥庶民文化の萌芽や、応仁の乱を契機とした文化の地方伝播、戦国大名の保護による文化の地方普	P99～132	1 学期	
5	第 7 章 武家社会の成長(4) 第 8 章 近世の幕開け	<第 7 章 4> ①応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。 <第 8 章> ①大航海時代を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ②織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一や朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。 ③新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。	P132～149	1 学期	
6	第 9 章 幕藩体制の成立と展開	<第 9 章> ①幕藩体制の確立過程を理解し、経済・社会を兵農分離や、村落・都市支配などの観点から考察する。 ②江戸幕府の鎖国政策について、その後の貿易関係の在り方も含めて影響と歴史的意義について考察する。 ③被支配身分の特質や、周縁部分に生きる人々の社会的役割について理解する。 ④江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。 ⑤諸藩における政治の安定化や刷新について、その特色を理解する。 ⑥幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。 ⑦全国市場の確立や都市の発達で商品流通が拡大し、各地で風土に応じた特産物が生まれたことを理解する。 ⑧経済の発展と関連して町人文化が形成されたことについて理解する。 ⑨儒学の特徴を理解し、その発達が他の学問に与えた影響を考察する。	P154～191	2 学期	

7	第10章 幕藩体制の動揺	<第10章> ①農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩が行った諸改革の意義とその影響を考察する。 ②幕府や藩の支配に対して行われた百姓一揆や、都市の打ちこわしの実態について理解する。 ③江戸中期に確立した洋学や国学、新たな形で展開する文学・芸能・美術について、社会の変容にともなう幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。 ④幕府や藩による武士の教育に加え、民間でも私塾や寺子屋が開かれた背景について理解する。 ⑤欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕府の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。 ⑥近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、雄藩の浮上という地方からの視点から考察する。 ⑦化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。 ⑧都市の民衆を中心とする芸能などが盛んになったことを理解する。	P192～218	2 学期
8	第11章 近世から現代へ	<第11章> ①国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、日本の開国を社会・経済面での変化と関連させて考察する。 ②江戸幕府の威信低下と雄藩の台頭について、政治情勢の変化と列強の動向に関連させて理解する。 ③幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一掃に至るまでの経過を理解する。	P220～231	2 学期
9	第12章 近代国家の成立 第13章 近代国家の展開	<第12章> ①明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、政治的変革と国家的統一過程を理解する。 ②欧米文化・思想の導入と近代化政策に対する土族反乱・農民一揆の発生と、言論闘争への転換を理解する。 ③明治初期の対外政策について、欧米への対応とアジアに対する外交政策の違いについて考察する。 ④政府の強力な中央集権体制への志向のもとで、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。 ⑤大日本帝国憲法の性格について具体的に・多角的に理解する。 <第13章> ①東アジアをめぐる国際環境が変容する中、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について理解する。 ②開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連づけて考察する。 ③第一次世界大戦前後の政治的動向および対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて理解する。 ④第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関係や政党内閣の成立などと関連させて考察する。 ⑤ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して理解する。 ⑥民主主義的風潮による社会運動の動向を理解するとともに、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について考察する。	P236～278	2 学期
10	第14章 近代の産業と生活 第15章 恐慌と第二次世界大戦	<第14章> ①日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解する。 ②近代産業の発展にともなう社会問題の発生と政府の対応について考察する。 ③伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性をもって成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。 ④義務教育の普及・定着とともに、国家主義的教育が浸透していくことを理解する。 ⑤労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や市民生活の変化を踏まえて、大衆文化の特色について考察する。 ⑥大衆文化の前提となる教育の普及・発展、マスメディアの発達について理解する。 <第15章> ①戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。 ②社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。 ③日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について理解する。 ④恐慌から脱出し、国家主義が高揚する中で、五・一五事件から二・二六事件にかけて、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。 ⑤日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入に至る過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。 ⑥第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前の惨禍をもたらしたことを踏まえて、平和と民主的な国際社会の実現に努める必要性を認識する。	P279～324	2 学期
11	第16章 占領下の日本 第17章 高度成長の時代(1)	①戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれにもなう諸改革について、その経過と内容を理解する。 ②戦後政治の動きを踏まえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を考察する。 ③東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結して日本が独立した意義を考える。 ④連合国による日本占領の終結と、その後の日米関係の継続について、様々な国の立場から考察する。 <第17章 1> ①独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。 ②冷戦構造の中で日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・中華人民共和国と支那との関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考察する。	P325～344	学年末
12	第17章 高度成長の時代(2) 第18章 激動する世界と日本	①朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。 ②消費革命による社会の変容と、経済成長がもたらしたひずみである社会問題について理解する。 <第18章> ①ドル＝ショックや石油危機を踏まえて、主要先進国首脳会議が開かれた意義を理解する。 ②高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、2度にわたる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。 ③冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる。 ④科学技術・産業の発達によって派生する環境問題やエネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の役割を認識する。	P344～364	学年末

面接指導			
回	目的	内容	時期
1	歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉える。	歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	1 学期
2	歴史の変化に関わる事象を多面的・多角的に考察する。	歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身につける。	1 学期
3	歴史の変化に関わる事象を多面的・多角的に考察する。	歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身につける。	2 学期
4	歴史の変化に関わる事象を多面的・多角的に考察する。	歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身につける。	2 学期
認定試験			
回	内容	試験範囲	時期
1	第Ⅰ部 原始・古代，第Ⅱ部 中世，第Ⅲ部 近世（８章）	教科書P6～149	1学期末
2	第Ⅲ部 近世（９章・10章），第Ⅳ部 近代・現代（11章～15章）	教科書P154～324	2学期末
3	第Ⅳ部 近代・現代（16章～18章）	教科書P325～364	学年末
評価の基準	●下記の(1)～(3)の項目を、評価の観点別(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。 (1)授業への取り組み 授業に対する姿勢、学習態度、出席状況等で判断する。評価の観点のうち、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 (2)レポートへの取り組み 授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているか、提出期限は守られているかなどを評価する。評価の観点のうち、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 (3)期末・学年末考査 学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現の項目を評価する。		

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
必修	通学・通信1年	公民	公共	2	西岡 裕介
学習目標					
1. 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理の主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付けるようにする。 2. 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 3. よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。					
面接指導	2 単位時間	合格時間数：2 単位時間	教科書	「高等学校 公共 これからの社会について考える」 数研出版	
レポート	6 回	合格通数：6 通	副教材	「高等学校 公共 これからの社会について考える 整理ノート」数研出版	
単位認定試験	年間 3 回	単位認定 3 0 点以上	メディア利用	なし	
添削指導（レポート）					
回	単元	学習内容		教科書ページ	締切り
1	巻頭特集 公共的な空間をつくる私たち	<巻頭特集> 青年期が自立や自律をはかる重要な時期であることを理解し、よりよく生きることについて考察する。次に古代ギリシアや中国・日本の思想家の思想や三大宗教の内容、生活文化や伝統を理解して主体的に考えることや他者との対話を通して互いの様々な立場を理解し高めあうことの重要性に気づかせる。またジェンダー平等や性的少数者の人権尊重など現代社会の課題について考察する。		P12～29	1学期
2	第1章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第1節 西洋近現代の思想	<第1章 第1節> 近世・近代・現代の世界の思想家の思想内容を理解し、先哲の思想や生き方から自分自身の生き方を考え、公共的な空間をつくる主体としての自己の生き方について深く考察する。		P32～41	1 学期
3	第1章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第2節 現代の諸課題と倫理	<第1章 第2節> 地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解し、これらの諸課題を主体的に追究する姿勢を養う。また公共的な空間における人間としての在り方、生き方を考察するための選択・判断の手がかりを考察する。		P42～55	1 学期
4	第2章 公共的な空間における基本原理 第1節 民主社会の基本原理	<第2章 第1節> 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務といった公共的な空間における基本的原理について理解する。そしてこれらの基本的原理を考察することによって、個人と社会の関わりを多面的・多角的に考察する。また民主政治が自らの生活とかかわっていることを理解し、民主社会に主体的に生きる人間のあり方生き方について思索を深める。		P58～65	2学期
5	第2章 公共的な空間における基本原理 第2節 日本社会の基本原理	<第2章 第2節> 日本国憲法の基本原理や保証されている権利を理解し、日本国憲法の基礎にある考え方に着目した上で、公共的な空間における基本的原理との関連を考察する。さらに日本国憲法で保障されている権利を理解し、自らの生き方と権利を結びつけさせる。		P66～81	2 学期
6	第3章 ルールをつくり守る私たち	<第3章> 法や規範の意義と役割、公平な裁判には司法権の独立が必要であり、国民の参加が大切であることを理解する。また身近な契約の例を考えてみたり、裁判によって国民のどのような権利が守られているのか考察する。さらに身近な紛争状況を解決するためのルール作りを考えたり、司法に関心を持ち裁判員制度の意義をふまえて積極的に参画する意識を養う。		P84～101	学年末
面接指導					
回	目的	内容			時期
1	公共的な空間における人間としての在り方や生き方、公共的な空間における基本的原理をなぜ学ぶのかを考える。	社会に参画する自立した主体とは何かを問い、現代社会に生きる人間としての在り方や生き方を学ぶ。また他者と協働することや自立した主体となることに向けて、具体的な課題を設定し、社会的事象に興味や関心を持たせる。			1 学期
2	現代の諸課題を追究したり、解決する活動を通して、広い視野に立ち、国際社会で主体的に生きる力を身につける。	選択・判断の手がかりとなる考え方や、公共的な空間における基本的原理を活用して、事実をもとに多面的・多角的に考察し、公正に判断することを学ぶ。考察したことを説明・論述することによって、思考力・判断力・表現力を養うとともに、議論などを行って自分の考えをさらに深めさせる。			学年末
認定試験					
回	内容			試験範囲	時期
1	巻頭特集 公共的な空間をつくる私たち 第1章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方			教科書P12～55	1学期末
2	第2章 公共的な空間における基本原理			教科書P58～81	2学期末
3	第3章 ルールをつくり守る私たち			教科書P84～101	学年末
評価の基準					
●下記の(1)～(3)の項目を、評価の観点別(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。 (1)授業への取り組み 授業に対する姿勢、学習態度、出席状況等で判断する。評価の観点のうち、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 (2)レポートへの取り組み 授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているか、提出期限は守られているかなどを評価する。評価の観点のうち、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 (3)期末・学年末考査 学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現の項目を評価する。					

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
必修	進学2年	公民	公共	2	西岡 裕介（高松校）
学習目標					
1. 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理の主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。					
2. 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。					
3. よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。					
面接指導	2 単位時間	合格時間数：2 単位時間		教科書	「高等学校 公共 これからの社会について考える」 数研出版
レポート	6 回	合格通数：6 通		副教材	「高等学校 公共 これからの社会について考える 整理ノート」数研出版
単位認定試験	年間 3 回	単位認定 3 0 点以上		メディア利用	なし
添削指導（レポート）					
回	単元	学習内容		教科書ページ	締切り
1	巻頭特集 公共的な空間をつくる私たち 第 1 章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	<巻頭特集> 青年期が自立や自律をはかる重要な時期であることを理解し、よりよく生きることについて考察する。次に古代ギリシアや中国・日本の思想家の思想や三大宗教の内容、生活文化や伝統を理解する。またジェンダー平等や性的少数者の人権尊重など現代社会の課題について考察する。 <第 1 章> 近世・近代・現代の世界の思想家の思想内容を理解し、先哲の思想や生き方から自分自身の生き方を考えさせる。また地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの現代社会の諸課題を理解し、主体的に追究する。		P12～55	1 学期
2	第 2 章 公共的な空間における基本原理	<第 2 章> 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任や義務など公共的な空間における基本的原理について理解する。さらに基本的原理への理解を通して、個人と社会の関わりを多面的・多角的に考察する。また日本国憲法の基本原理や保証されている権利について理解し、日本国憲法の基礎にある考え方に着目したうえで公共的な空間における基本的原理との関連を考察する。民主社会で生きる人間のあり方や生き方について考えることを通して、日本国憲法で保障されている権利への理解を深め、自らの生き方と権利を結びつける。		P58～81	1 学期
3	第 3 章 ルールをつくり守る私たち	<第 3 章> 法や規範の意義や役割、契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義などを理解する。また身近な契約の例を挙げたり、裁判によって国民のどのような権利が守られているのかを考察する。身近な紛争状況を解決するためのルール作りを考えたり、司法に関心を持ち裁判員制度の意義をふまえて積極的に参画する意識を養う。		P84～101	2 学期
4	第 4 章 政治に参加する私たち	<第 4 章> 地方自治や選挙の仕組みや民主政治を支える制度を理解し、選挙制度の違いによって、政党制にも大きな違いが出てくることを考察する。また国際法の意義や国際紛争を解決する機関や国際連盟・国際連合の役割、冷戦の始まりとその終結後の国際政治の流れを理解し、集団的安全保障を有効とする理由や、国際連合の現状と課題について考察する。国際社会の中で平和主義を掲げる日本の役割、核軍拡から核軍縮への流れ、現代の世界の紛争や人権問題について理解し、国際社会の諸問題について考え、自分なりの意見を持つ。		P104～141	2 学期
5	第 5 章 経済活動を行う私たち 第 1 節 経済のしくみと産業の変化 第 2 節 市場経済のしくみと金融	<第 5 章 第 1 節> 現代の企業の果たしている役割や中小企業や農業の果たしている役割と現状、産業構造の変化と職業選択との関係、雇用・労働問題についてを理解し、現代の企業倫理や経済のサービス化が進展し、国民生活にどのような変化をもたらしたかを考察する。 <第 5 章 第 2 節> 市場経済メカニズムや各種経済指標を理解し、その指標の動向を読み解き、金融のしくみを理解した上で、経済状況に応じた適切な手段を考察する。		P144～173	2 学期
6	第 5 章 経済活動を行う私たち 第 3 節 財政と社会保障 第 4 節 国際経済の動向と課題	<第 5 章 第 3 節> 政府が経済に果たしている役割や財政のしくみ、経済状況に応じた適切な手段、社会保障のしくみについて理解し、租税と社会保障とのバランスを考察する。 <第 5 章 第 4 節> 貿易や外国為替相場のしくみや戦後の国際経済の流れ、発展途上国の現状、貧困、飢餓といった諸問題の原因や課題を理解する。また、経済のグローバル化と相互依存関係が深まっていることを理解し、それが日本経済にどのような影響をもたらしているのかを考察する。		P174～199	学年末
面接指導					
回	目的	内容			時期
1	人間と社会の在り方についての見方・考え方を身に付け、自立した主体としてよりよい社会の形成に参画するためにはどのような視点が必要かを学ぶ。	これまでの生活の中で培った見方や考え方に加えて、現代社会に生きる人間としての在り方や生き方、自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、公共的な空間における基本原理や法、政治および経済などの側面と関連させながら、具体的な主題を設定して社会的事象に興味・関心を深める。			1 学期
2	現代の諸課題を追究したり、解決する活動を通して、国際社会で主体的に生きる力を身につける。	選択・判断の手がかりとなる考え方や、公共的な空間における基本的原理を活用して、事実をもとに多面的・多角的に考察し、公正に判断することを学ぶ。考察したことを説明・論述することによって、思考力・判断力・表現力を養うとともに、議論などを行って考えをさらに深めさせる。			学年末

認定試験			
回	内容	試験範囲	時期
1	巻頭特集 公共的な空間をつくる私たち 第1章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第2章 公共的な空間における基本原理	教科書P12～81	1学期末
2	第3章 ルールをつくり守る私たち 第4章 政治に参加する私たち 第5章 経済活動を行う私たち（第1節・第2節）	教科書P84～173	2学期末
3	第5章 経済活動を行う私たち（第3節・第4節）	教科書P174～199	学年末
評価の基準	●下記の(1)～(3)の項目を、評価の観点別(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。 (1)授業への取り組み 授業に対する姿勢、学習態度、出席状況等で判断する。評価の観点のうち、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 (2)レポートへの取り組み 授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているか、提出期限は守られているかなどを評価する。評価の観点のうち、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 (3)期末・学年末考査 学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現の項目を評価する。		

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
必修	通学・通信 2年	公民	公共	2	西岡 裕介
学習目標					
1. 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理の主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。					
2. 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。					
3. よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。					
面接指導	2 単位時間	合格時間数：2 単位時間		教科書	「高等学校 公共 これからの社会について考える」 数研出版
レポート	6 回	合格通数：6 通		副教材	「高等学校 公共 これからの社会について考える 整理ノート」数研出版
単位認定試験	年間 3 回	単位認定 3 0 点以上		メディア利用	なし
添削指導（レポート）					
回	単元	学習内容		教科書ページ	締切り
1	第 4 章 政治に参加する私たち 第 1 節 政治参加と民主政治の課題	<第 4 章 第 1 節> 地方自治や選挙の仕組み、政党の役割を考察することによって民主政治を支える制度を具体的に理解する。また選挙制度の違いによって、政党制にも大きな違いがでてくることを考察し、選挙に積極的に参加する主権者としての自覚を養う。		P104～115	1学期
2	第 4 章 政治に参加する私たち 第 2 節 国際政治の動向	<第 4 章 第 2 節> 国際法の意義や国際紛争を解決する機関や国際連盟・国際連合の役割や、冷戦の始まりとその終結後の国際政治の流れを理解する。また集団的安全保障を有効とする理由や、国際連合の現状と課題について考察し、世界の国際紛争に関心を持ち、それぞれの紛争解決への筋道は何かを考えてみる。		P116～125	1 学期
3	第 4 章 政治に参加する私たち 第 3 節 国際政治の課題と日本の役割	<第 4 章 第 3 節> 国際社会の中で平和主義を掲げる日本の役割、核軍拡から核軍縮への流れ、現代の世界の紛争や人権問題について理解する。また民族紛争や難民問題などの国際社会の諸問題について関心や自分の意見を持ち、国際社会の諸問題について主体的に追究する姿勢を養う。		P126～141	1 学期
4	第 5 章 経済活動を行う私たち 第 1 節 経済のしくみと産業の変化	<第 5 章 第 1 節> 現代の企業の果たしている役割や中小企業や農業の果たしている役割と現状、産業構造の変化と職業選択との関係、雇用・労働問題についてを理解し、現代の企業倫理や経済のサービス化が進展し、国民生活にどのような変化をもたらしたか考察する。またAIやITなどの先端技術が発展するなかで、経済社会に主体的に生きる一員として、今後の日本経済について見通しを立てる。		P144～161	2 学期
5	第 5 章 経済活動を行う私たち 第 2 節 市場経済のしくみと金融	<第 5 章 第 2 節> 市場経済メカニズムや各種経済指標を理解し、その指標の動向を読み解き、金融のしくみを理解した上で、経済状況に応じた適切な手段を考察する。		P162～173	2 学期
6	第 5 章 経済活動を行う私たち 第 3 節 財政と社会保障 第 4 節 国際経済の動向と課題	<第 5 章 第 3 節> 政府が経済に果たしている役割や財政のしくみ、経済状況に応じた適切な手段、社会保障のしくみについて理解し、租税と社会保障とのバランスを考察する。 <第 5 章 第 4 節> 貿易や外国為替相場のしくみや戦後の国際経済の流れ、発展途上国の現状、貧困、飢餓といった諸問題の原因や課題を理解する。また、経済のグローバル化と相互依存関係が深まっていることを理解し、それが日本経済にどのような影響をもたらしているのかを考察する。		P174～199	学年末
面接指導					
回	目的	内容			時期
1	自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する目的や、私たちが持続可能な社会づくりを担う主体となる理由を考える。	自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、法・政治・経済などの側面を関連させながら、具体的な主題を設定して、社会的事象に興味・関心を持たせる。			1 学期
2	現代の諸課題を追究したり、解決する活動を通して、広い視野に立ち、国際社会で主体的に生きる力を身につける。	選択・判断の手がかりとなる考え方や、公共的な空間における基本的原理を活用して、事実をもとに多面的・多角的に考察し、公正に判断することを学ぶ。考察したことを説明・論述することによって、思考力・判断力・表現力を養うとともに、議論などを行って自分の考えをさらに深めさせる。			学年末
認定試験					
回	内容			試験範囲	時期
1	第 4 章 政治に参加する私たち			教科書P104～141	1学期末
2	第 5 章 経済活動を行う私たち（第 1 節・第 2 節）			教科書P144～173	2学期末
3	第 5 章 経済活動を行う私たち（第 3 節・第 4 節）			教科書P174～199	学年末
評価の基準	●下記の(1)～(3)の項目を、評価の観点別(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。 (1)授業への取り組み 授業に対する姿勢、学習態度、出席状況等で判断する。評価の観点のうち、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 (2)レポートへの取り組み 授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているか、提出期限は守られているかなどを評価する。評価の観点のうち、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 (3)期末・学年末考査 学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現の項目を評価する。				

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
必修	進学3年	公民	公共	2	伊藤 樹
学習目標					
1. 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理の主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。					
2. 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。					
3. よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。					
面接指導	2 単位時間	合格時間数：2 単位時間		教科書	「高等学校 公共 これからの社会について考える」 数研出版
レポート	6 回	合格通数：6 通		副教材	「高等学校 公共 これからの社会について考える 整理ノート」 数研出版
単位認定試験	年間 3 回	単位認定 3 0 点以上		メディア利用	なし
添削指導（レポート）					
回	単元	学習内容		教科書ページ	締切り
1	巻頭特集 公共的な空間をつくる私たち 第 1 章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	<巻頭特集> 青年期が自立や自律をはかる重要な時期であることを理解し、よりよく生きることについて考察する。次に古代ギリシアや中国・日本の思想家の思想や三大宗教の内容、生活文化や伝統を理解する。またジェンダー平等や性的少数者の人権尊重など現代社会の課題について考察する。 <第 1 章> 近世・近代・現代の世界の思想家の思想内容を理解し、先哲の思想や生き方から自分自身の生き方を考えさせる。また地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの現代社会の諸課題を理解し、主体的に追究する。		P12～55	
2	第 2 章 公共的な空間における基本原理	<第 2 章> 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任や義務など公共的な空間における基本的原理について理解する。さらに基本的原理への理解を通して、個人と社会の関わりを多面的・多角的に考察する。また日本国憲法の基本原理や保証されている権利について理解し、日本国憲法の基礎にある考え方に着目したうえで公共的な空間における基本的原理との関連を考察する。民主社会で生きる人間のあり方や生き方について考えることを通して、日本国憲法で保障されている権利への理解を深め、自らの生き方と権利を結びつける。		P58～81	
3	第 3 章 ルールをつくり守る私たち	<第 3 章> 法や規範の意義や役割、契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義などを理解する。また身近な契約の例を挙げたり、裁判によって国民のどのような権利が守られているのかを考察する。身近な紛争状況を解決するためのルール作りを考えたり、司法に関心を持ち裁判員制度の意義をふまえて積極的に参画する意識を養う。		P84～101	
4	第 4 章 政治に参加する私たち	<第 4 章> 地方自治や選挙の仕組みや民主政治を支える制度を理解し、選挙制度の違いによって、政党制にも大きな違いが出てくることを考察する。また国際法の意義や国際紛争を解決する機関や国際連盟・国際連合の役割、冷戦の始まりとその終結後の国際政治の流れを理解し、集団的安全保障を有効とする理由や、国際連合の現状と課題について考察する。国際社会の中で平和主義を掲げる日本の役割、核軍拡から核軍縮への流れ、現代世界の紛争や人権問題について理解し、国際社会の諸問題について考え、自分なりの意見を持つ。		P104～141	
5	第 5 章 経済活動を行う私たち 第 1 節 経済のしくみと産業の変化 第 2 節 市場経済のしくみと金融	<第 5 章 第 1 節> 現代の企業の果たしている役割や中小企業や農業の果たしている役割と現状、産業構造の変化と職業選択との関係、雇用・労働問題についてを理解し、現代の企業倫理や経済のサービス化が進展し、国民生活にどのような変化をもたらしたかを考察する。 <第 5 章 第 2 節> 市場経済メカニズムや各種経済指標を理解し、その指標の動向を読み解き、金融のしくみを理解した上で、経済状況に応じた適切な手段を考察する。		P144～173	
6	第 5 章 経済活動を行う私たち 第 3 節 財政と社会保障 第 4 節 国際経済の動向と課題	<第 5 章 第 3 節> 政府が経済に果たしている役割や財政のしくみ、経済状況に応じた適切な手段、社会保障のしくみについて理解し、租税と社会保障とのバランスを考察する。 <第 5 章 第 4 節> 貿易や外国為替相場のしくみや戦後の国際経済の流れ、発展途上国の現状、貧困、飢餓といった諸問題の原因や課題を理解する。また、経済のグローバル化と相互依存関係が深まっていることを理解し、それが日本経済にどのような影響をもたらしているのかを考察する。		P174～199	
面接指導					
回	目的	内容			時期
1	人間と社会の在り方についての見方・考え方を身に付け、自立した主体としてよりよい社会の形成に参画するためにはどのような視点が必要かを学ぶ。	これまでの生活の中で培った見方や考え方に加えて、現代社会に生きる人間としての在り方や生き方、自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、公共的な空間における基本原理や法、政治および経済などの側面と関連させながら、具体的な主題を設定して社会的事象に興味・関心を深める。			4 月
2	現代の諸課題を追究したり、解決する活動を通して、国際社会で主体的に生きる力を身につける。	選択・判断の手がかりとなる考え方や、公共的な空間における基本的原理を活用して、事実をもとに多面的・多角的に考察し、公正に判断することを学ぶ。考察したことを説明・論述することによって、思考力・判断力・表現力を養うとともに、議論などを行って考えをさらに深めさせる。			1 月

認定試験			
回	内容	試験範囲	時期
1	巻頭特集 公共的な空間をつくる私たち 第1章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第2章 公共的な空間における基本原理	教科書P12～81	1学期末
2	第3章 ルールをつくり守る私たち 第4章 政治に参加する私たち 第5章 経済活動を行う私たち（第1節・第2節）	教科書P84～173	2学期末
3	第5章 経済活動を行う私たち（第3節・第4節）	教科書P174～199	学年末
評価の基準	●下記の(1)～(3)の項目を、評価の観点別(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。 (1)授業への取り組み 授業に対する姿勢、学習態度、出席状況等で判断する。評価の観点のうち、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 (2)レポートへの取り組み 授業内容を適切にまとめているか、科学的な思考ができているか、提出期限は守られているかなどを評価する。評価の観点のうち、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 (3)期末・学年末考査 学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現の項目を評価する。		

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
必修	進学 1 年	数学	数学 I	3	中西 浩三
学習目標					
数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。					
☒					
面接指導	3 単位時間	合格時間数 3 単位時間	教科書	「新編 数学 I」数研出版(714)	
レポート	9 回	合格通数 9 通	副教材	3TRIAL 数学 I + A (数研出版)	
単位認定試験	年間 3 回	単位認定 3 0 点以上	評定	5 段階評価、観点別評価の実施	
メディア利用	なし				
添削課題（レポート）					
回	単元	学習内容	教科書ページ	提出締切り	
1	第1章 数と式 第1節 式の計算 1. 多項式の加法と減法 2. 多項式の乗法 3. 因数分解	式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におき換えたりするなどして既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。その際、複雑な式の因数分解や3次式の展開と因数分解についても理解する。	p 4 ~p 2 8	1 学期	
2	第2節 実数 4. 実数 5. 根号を含む式の計算 第3節 1次不等式 6. 不等式の性質 7. 1次不等式 8. 絶対値を含む 方程式・不等式	中学校までに取り扱ってきた数を実数としてまとめ、数の体系についての理解を深める。その際、実数が四則演算に関して閉じていることや、直線上の点と1対1に対応していることなどについて理解する。簡単な無理数の四則計算ができるようにするとともに、直線上の点と1対1に対応していることなどについて理解する。 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする力を培う。	p 2 9 ~p 5 3	1 学期	
3	第2章 集合と命題 2. 命題と条件 3. 命題とその逆・対偶・裏 4. 命題と証明	集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。	p 5 4 ~p 7 5 ただし、p56~p61を除く (数学Aで履修済)	1 学期	
4	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1. 関数とグラフ 2. 2次関数のグラフ	2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解するとともに、2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察する。	p 7 6 ~p 9 6	2 学期	
5	第2節 2次関数の値の変化 3. 2次関数の最大・最小 4. 2次関数の決定	2次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、2次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。	p 9 7 ~p 1 0 7	2 学期	
6	第3節 2次方程式と2次不等式 5. 2次方程式 6. 2次関数のグラフと x軸の位置関係 7. 2次不等式	2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。	p 1 0 8 ~p 1 3 1	2 学期	
7	第4章 図形と計量 第1節 三角比 1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。	p 1 3 2 ~p 1 4 9	2 学期	
8	第2節 三角形への応用 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理の応用 7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用	図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力などを培う。	p 1 5 0 ~p 1 6 9	2 学期	
9	第5章 データの分析 1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと 四分位数 4. 分散と標準偏差 5. 2つの変量の間の関係 6. 仮説検定の考え方	データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力などを養う。	p 1 7 0 ~p 1 9 8	3 学期	

面接指導			
回	目的	内容	実施時期
1	数と式の式の計算、実数と1次不等式、そして、集合と命題について、学習に取り組む手段を学ぶ。	多項式の加法・減法と乗法、因数分解、実数、根号を含む式の計算、不等式の性質、1次不等式、絶対値を含む方程式・不等式、命題と条件、命題とその逆・対偶・裏、命題と証明についてそれぞれの要点を理解し学ぶ。	1 学期
2	2 次関数の 2 次関数とグラフ、2 次関数の値の変化と 2 次方程式と 2 次不等式、そして、図形と計量の三角比について、学習に取り組む手段を学ぶ。	関数とグラフ、2次関数のグラフ、2次関数の最大・最小、2次関数の決定、2次方程式、2次関数のグラフとx軸の位置関係、2次不等式、三角比、三角比の相互関係、三角比の拡張についてそれぞれの要点を理解し学ぶ。	2 学期
3	図形と計量の三角形への応用とデータの分析について、学習に取り組む手段を学ぶ。	正弦定理、余弦定理、正弦定理と余弦定理の応用、三角形の面積、空間図形への応用、データの整理、データの代表値、データの散らばりと四分位数、分散と標準偏差、2つの変量の間の関係、仮説検定の考え方についてそれぞれの要点を理解し学ぶ。	2 学期
テスト			
時期	試験範囲	内容	
1学期	第 1 章 数と式 第2章 集合と命題	式の計算、実数、1次不等式、集合と命題	
2学期	第3章 2次関数 第4章 図形と計量	2次関数とグラフ、2 次関数の値の変化、2 次方程式と 2 次不等式、三角比	
3学期	第4章 図形と計量 第5章 データの分析	三角形への応用、データの分析	
評価の基準			
面接指導,学習指導,レポートへの取り組み,定期考察を,評価の観点別(知識・技能,思考・判断・表現,主体的に取り組む態度)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。			

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者	
必修	1	数学	数学Ⅰ	3	小林健吾、大林浩司	
学習目標						
数と式、2次関数について理解させ、基礎的な知識の習得と技術の習熟を図り,数学的な見方・考え方を働かせ,数学的活動を通して,数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。						
☒						
面接指導	3 単位時間	合格時間数 3 単位時間	教科書	「新数学Ⅰ」東京書籍(704)		
レポート	9 回	合格通数 9 通	副教材	なし		
単位認定試験	年間 3 回	単位認定 3 0 点以上	評定	5 段階評価、観点別評価の実施		
メディア利用	なし					
添削課題（レポート）						
回	単元	学習内容			教科書ページ	提出締切り
1	1章 数と式 1節 文字と式 1.文字を使った式 2.多項式と単項式 3.多項式の計算(1)☒	文字を使った式の表し方を確認し,正しく扱うことができるようにする。式についての用語の意味を理解する。多項式の加法・減法の仕組みを理解し,計算ができるようにする。☒			p32~p37	1 学期
2	4.多項式の計算(2) 5.乗法公式 6.因数分解(1)*☒	指数法則,単項式の乗法について理解し,分配法則を用いて展開することができるようにする。 乗法公式について理解し,公式が利用できるようにする。乗法公式を逆に用いて因数分解することを理解し,公式が利用できるようにする。 ☒			p38~p43	1 学期
3	7.因数分解(2) 8.展開,因数分解のくふうと利用☒	たすきがけの方法を用いて因数分解することができるようにする。 式の一部を1つの文字に置き換えるなど,見通しを持って展開,因数分解することができるようにする。☒			p44~p47	1 学期
4	2節 実数 1.平方根 2.根号をふくむ式の計算 3.数の分類 4.分数と小数	平方根について理解し,根号を含む式の計算ができるようにする。また,分母の有理化について理解し,活用できるようにする。 数の意味を理解する。有限小数,循環小数について理解する。			p48~p57	1 学期
5	3節 方程式と不等式 1.1次方程式 2.不等式 3.不等式の性質 4.不等式の解 5.不等式の解き方☒	1次方程式について理解し,1次方程式を解くことができるようにする。 不等号の意味を理解し,数量の大小関係を不等式で表すことができるようにする。 不等式の解の意味を理解し,不等式を解くことができるようにする。			p58~p67	2 学期
6	6.2次方程式とその解き方 7.2次方程式の解の公式	2次方程式について理解し,平方根の考え,因数分解を用いて2次方程式を解くことができるようにする。 解の公式を用いて2次方程式を解くことができるようにする。 ☒			p68~p71	2 学期
7	2章 2次関数 1節 2関数とそのグラフ 1.関数 2.1次関数とそのグラフ 3.2次関数とそのグラフ☒	2つの変量の関係を表す方法として,関数の概念を理解する。1次関数のグラフをかき,変化の様子を捉えることができるようにする。2次関数の特徴を理解し,そのグラフがかけられるようにする。 ☒			p74~p81	2 学期
8	4.グラフの平行移動☒	y=ax^2のグラフをx軸やy軸方向に平行移動したグラフが書けるようにする。☒			p82~p85	2 学期
9	5. y=ax^2+bx+cのグラフ☒	y=ax^2+bx+cをy=a(x-p)^2+qの形に変形し,軸と頂点を求めてそのグラフを書くことができるようにする。☒			p86~p91	3 学期

面接指導			
回	目的	内容	実施時期
1	数と式の文字と式,実数について,学習に取り組む手段を学ぶ。	文字を使った式の表し方,多項式の加法・減法,指数法則,展開,因数分解,平方根についてそれぞれの要点を理解し学ぶ。	1 学期
2	数と式の実数,方程式と不等式, 2 次関数について,学習に取り組む手段を学ぶ。	1 次方程式,不等式, 2 次方程式,2次関数とそのグラフについてそれぞれの要点を理解し学ぶ。	2 学期
3	2 次関数の 2 次関数とそのグラフについて,学習に取り組む手段を学ぶ。	2 次関数とそのグラフ,平行移動,平方完成についてそれぞれの要点を理解し学ぶ。	2 学期
テスト			
時期	試験範囲	内容	
1学期	1 章 数と式	文字と式,実数	
2学期	1 章 数と式 2 章 2 次関数	方程式と不等式, 2 次関数とそのグラフ	
3学期	2 章 2 次関数	2 次関数とそのグラフ	
評価の基準			
面接指導,学習指導,レポートへの取り組み,定期考察を,評価の観点別(知識・技能,思考・判断・表現,主体的に取り組む態度)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。			

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者	
選択履修	進学 1 年	数学	数学A	2	中西 浩三	
学習目標						
図形の性質，場合の数と確率について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。						
面接指導	2単位時間	合格時間数：2単位時間	教科書	「新編 数学 A」数研出版(714)		
レポート	6 回	合格通数：6 通	副教材	3TRIAL 数学Ⅰ＋A (数研出版)		
単位認定試験	年間 3 回	単位認定 3 0 点以上	評定	5 段階評価、観点別評価の実施		
メディア利用	なし					
添削課題（レポート）						
回	単元	学習内容			教科書ページ	提出締切り
1	準備 集合 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1. 集合の要素の個数 2. 場合の数 3. 順 列	場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。			p 6 ～ p 2 9	1 学期
2	4. 組合せ 第2節 確 率 5. 事象と確率	確率の意味や基本的な法則についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。			p 3 0 ～p 4 4	1 学期
3	6. 確率の基本性質 7. 独立な試行と確率 8. 条件付き確率 9. 期待値	確率の意味や基本的な法則についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。			p 4 5 ～ p 6 5	2 学期
4	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 1. 三角形の辺の比 2. 三角形の外心・内心・重心 3. チェバの定理 ・メネラウスの定理	平面図形の性質についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。			p 6 6 ～ p 8 1	2 学期
5	4. 円に内接する四角形 5. 円と直線	平面図形の性質についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。			p 8 2 ～ p 9 1	2 学期
6	6. 2つの円 7. 作 図 第2節 空間図形 8. 直線と平面 9. 空間図形と多面体	空間図形の性質についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。			p 9 2 ～ p 1 1 3	3 学期
面接指導						
回	目的	内容			実施時期	
1	準備の集合，そして，場合の数と確率の場合の数、確 率について，学習に取り組む手段を学ぶ。	集合，集合の要素の個数，場合の数，順 列，組合せ，事象と確率，確率の基本性質，独立な試行と確率，条件付き確率，期待値についてそれぞれの要点を理解し学ぶ。			1 学期	
2	図形の性質の平面図形，空間図形について，学習に取り組む手段を学ぶ。	三角形の辺の比，三角形の外心・内心・重心，チェバの定理・メネラウスの定理，円に内接する四角形，円と直線，2つの円，作 図，直線と平面，空間図形と多面体についてそれぞれの要点を理解し学ぶ。			2 学期	
テスト						
時期	試験範囲	内容				
1学期	準備 集合 第1章 場合の数と確率	集合，場合の数，確 率				
2学期	第1章 場合の数と確率 第2章 図形の性質	確率，平面図形				
3学期	第2章 図形の性質	平面図形，空間図形				
評価の基準	面接指導,学習指導,レポートへの取り組み,定期考察を,評価の観点別(知識・技能,思考・判断・表現,主体的に取り組む態度)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。					

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者	
必修	2	数学	数学Ⅰ	3	小林 健吾	
学習目標						
2次関数, 三角比,データの分析,集合と論証について理解させ、基礎的な知識の習得と技術の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにする。						
☒						
面接指導	3 単位時間	合格時間数 3 単位時間	教科書	「新数学Ⅰ」東京書籍(704)		
レポート	9 回	合格通数 9 通	副教材	なし		
単位認定試験	年間 3 回	単位認定30点以上	評定	5 段階評価、観点別評価の実施		
メディア利用	なし					
添削課題（レポート）						
回	単元	学習内容			教科書ページ	提出締切り
1	2 章 2 次関数 2 節 2 次関数の値の変化 1. 2 次関数の最大値・最小値☒	2次関数の最大値・最小値について理解し,それらの値を求めることができるようにする。☒			p92~p95	1 学期
2	2. 2次関数のグラフと2次方程式 3. 2次関数のグラフと2次不等式 4.いろいろな 2 次不等式☒	2次関数のグラフと2次方程式の解の関係を理解し,グラフとx軸の共有点のx座標を求めることができるようにする。また,2次関数のグラフと関連させて,2次不等式を解くことができるようにする。☒			p96~p101	1 学期
3	3 章 三角比 1 節 鋭角の三角比 1.三角形 2.タンジェント 3.サインとコサイン 4.三角比の利用 ☒	三平方の定理を理解し,直角三角形の辺の長さを求めることができるようにする。 タンジェント,サイン,コサインの意味を理解し,直角三角形の辺の長さからその値を求められるようにする。☒			p104~p113	1学期
4	5.三角比の相互関係 6. 90° -Aの三角比 2 節 三角比の応用 1.三角形の面積	三角比の相互関係について理解し,1つの三角比の値から他の2つの三角比の値を求められるようにする。 90° -Aの三角比の値を求められるようにする。 与えられた辺の長さとかの大きさから,三角形の面積を求められるようにする。			p114~p117	2 学期
5	2.正弦定理 3.余弦定理☒	正弦定理・余弦定理を理解し,図形の計量の際に活用する。☒			p118~p121	2 学期
6	4.鈍角の三角比 5.三角形の相互関係 6.鈍角の三角比の利用☒	座標を用いて定めることで0° から180° までの角に対する三角比を理解し,その値を求められるようにする。 鈍角の場合にも相互関係,正弦定理,余弦定理,三角形の面積の公式が成り立つことを理解し,図形の計量の際に活用する。☒			p122~p127	2 学期
7	4 章 1節データの分析 1.データにもとづいた問題解決の進め方 2.データの特徴の調べ方 3.代表値 4.四分位数と箱ひげ図☒	データにもとづいて問題解決の活動について理解し,目的やデータに応じた分析ができるようにする。データの特徴を1つの数値で表せることを理解し,代表値で表すことができるようにする。四分位数,四分位範囲を理解し,箱ひげ図に表すことができるようにする。☒			p130~p139	3学期
8	5.分散と標準偏差 6.相関関係 7.相関係数 8.データにもとづく考え方	分散,標準偏差を理解し,それを求められるようにする。 相関関係,相関係数について理解し,相関の強さが表せることの有用性を認識できるようにする。☒			p140~p147	3学期
9	5 章 集合と論証 1 節 集合と論証 1.集合 2.命題と集合 3.命題と証明☒	集合の表し方,用語等を理解し,記号を使って表すことができるようにする。 命題の真偽,必要・十分条件,逆,裏,対偶について理解する。また,証明法や背理法を学び,論理的思考を養うこととする。☒			p150~p160	3学期

面接指導			
回	目的	内容	実施時期
1	2次関数の2次関数の値の変化,三角比の鋭角の三角比について学習に取り組む手段を学ぶ。	2次関数の最大値・最小値,2次方程式,2次不等式,三角比についてそれぞれの要点を理解し学ぶ。	1学期
2	三角比の鋭角の三角比,三角比の応用について学習に取り組む手段を学ぶ。	三角比の相互関係,正弦・余弦定理についてそれぞれの要点を理解し学ぶ。また,角が鈍角の場合もそれらの公式や定理が成り立つことを学ぶ。	2学期
3	データの分析,集合と論証について学習に取り組む手段を学ぶ。	データにもとづいて問題解決,集合,命題と論証についてそれぞれの要点を理解し学ぶ。	2学期
テスト			
時期	試験範囲	内容	
1学期	2章 2次関数 3章 三角比	2次関数の値の変化,鋭角の三角比	
2学期	3章 三角比	鋭角の三角比,三角比の応用	
3学期	4章データの分析 5章集合と論証	データの分析,集合と論証	
評価の基準		面接指導,学習指導,レポートへの取り組み,定期考察を,評価の観点別(知識・技能,思考・判断・表現,主体的に取り組む態度)に評価します。 各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。	

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
選択履修	進学 2,3年	数学	数学Ⅱ	4	中西 浩三
学習目標					
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。					
面接指導	4単位時間	合格時間数：4単位時間	教科書	「新編 数学Ⅱ」数研出版(711)	
レポート	12回	合格通数：12通	副教材	3TRIAL 数学Ⅱ＋B (数研出版)	
単位認定試験	年間 3 回	単位認定 3 0 点以上	評定	5 段階評価、観点別評価の実施	
メディア利用	なし				
添削課題（レポート）					
回	単元	学習内容		教科書ページ	提出締切り
1	第1章 式と証明 第1節 式と計算 1. 3次式の展開と因数分解 2. 二項定理 3. 多項式の割り算 4. 分数式とその計算 5. 恒等式	多項式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにする。		p 6～p 24	1 学期
2	第2節 等式・不等式の証明 6. 等式の証明 7. 不等式の証明 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 1. 複素数とその計算 2. 2次方程式の解	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。 方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことができるようにする。		p 25～p 48	1 学期
3	3. 解と係数の関係 第2節 高次方程式 4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式	剰余の定理や因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。		p 49～p 65	1 学期
4	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係	座標や式を用いて、直線の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。		p 66～p 85	1 学期
5	第2節 円 5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2つの円 第3節 軌跡と領域 8. 軌跡と方程式	座標や式を用いて、円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識する。		p 86～p 100	2 学期
6	9. 不等式の表す領域 第4章 三角関数 第1節 三角関数 1. 角の拡張 2. 三角関数	不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質を理解する。		p 101～p 120	2 学期
7	3. 三角関数のグラフ 4. 三角関数の性質 5. 三角関数を含む 方程式、不等式 第2節 加法定理 6. 加法定理	三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。 加法定理を理解する。		p 121～p 137	2 学期
8	7. 加法定理の応用 第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 1. 指数の拡張 2. 指数関数	加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 指数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。		p 138～p 160	2 学期

9	第2節 対数関数 3. 対数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数	対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	p 1 6 1～p 1 7 5	2 学期
10	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 1. 微分係数 2. 導関数とその計算 3. 接線の方程式	微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	p 1 7 6～p 1 9 0	3 学期
11	第2節 関数の値の変化 4. 関数の増減と極大・極小 5. 関数の増減・グラフの応用	導関数の理解を深めるとともに、導関数の有用性を認識できるようにする。	p 1 9 1～p 2 0 1	3 学期
12	第3節 積分法 6. 不定積分 7. 定積分 8. 定積分と面積	積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	p 2 0 2～p 2 2 1	3 学期
面接指導				
回	目的	内容	実施時期	
1	式と証明の式と計算、等式・不等式の証明、そして、複素数と方程式の複素数と2次方程式の解、高次方程式について、学習に取り組む手段を学ぶ。	3次式の展開と因数分解、二項定理、多項式の割り算、分数式とその計算、恒等式、等式の証明、不等式の証明、複素数とその計算、2次方程式の解、解と係数の関係、剰余の定理と因数定理、高次方程式についてそれぞれの要点を理解し学ぶ。	1 学期	
2	図形と方程式の点と直線、円、軌跡と領域について、学習に取り組む手段を学ぶ。	直線上の点、平面上の点、直線の方程式、2直線の関係、円の方程式、円と直線、2つの円、軌跡と方程式、不等式の表す領域についてそれぞれの要点を理解し学ぶ。	1 学期	
3	三角関数の三角関数、加法定理、そして、指数関数と対数関数の 指数関数、対数関数について、学習に取り組む手段を学ぶ。	角の拡張、三角関数、三角関数のグラフ、三角関数の性質、三角関数を含む方程式・不等式、加法定理、加法定理の応用、指数の拡張、指数関数、対数とその性質、対数関数、常用対数についてそれぞれの要点を理解し学ぶ。	2 学期	
4	微分法と積分法の微分係数と導関数、関数の値の変化、積分法について、学習に取り組む手段を学ぶ。	微分係数、導関数とその計算、接線の方程式、関数の増減と極大・極小、関数の増減・グラフの応用、不定積分、定積分、定積分、定積分と面積についてそれぞれの要点を理解し学ぶ。	2 学期	
テスト				
時期	試験範囲	内容		
1学期	第1章 式と証明 第2章 複素数と方程式 第3章 図形と方程式	式と計算、等式・不等式の証明、複素数と2次方程式の解、等式・不等式の証明、複素数と2次方程式の解、高次方程式、点と直線		
2学期	第3章 図形と方程式 第4章 三角関数 第5章 指数関数と対数関数	円、軌跡と領域、三角関数、加法定理、指数関数、対数関数		
3学期	第6章 微分法と積分法	微分係数と導関数、関数の値の変化、積分法		
評価の基準	面接指導,学習指導,レポートへの取り組み,定期考察を,評価の観点別(知識・技能,思考・判断・表現,主体的に取り組む態度)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。			

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者	
選択履修	3	数学	数学A	4	小林 健吾	
学習目標						
場合の数と確率、図形の性質、数学と人間の活動について理解させ、基礎的な知識の習得と技術の習熟を図り,数学的な見方・考え方を働かせ,数学的活動を通して,数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。						
☒						
面接指導	4 単位時間	合格時間数 4 単位時間	教科書	「新数学A」東京書籍(704)		
レポート	1 2 回	合格通数 1 2 通	副教材	なし		
単位認定試験	年間 3 回	単位認定 3 0 点以上	評定	5 段階評価、観点別評価の実施		
メディア利用	なし					
添削課題（レポート）						
回	単元	学習内容			教科書ページ	提出締切り
1	1章 場合の数と確率 1節 場合の数 1.集合 2.集合の要素の個数 3.個数の数え方 4.和の法則と積の法則 5.順列 6.順列の利用	集合の用語,記号を理解し,記号を使って表すことができるようにする。補集合,和集合について,集合の要素の個数を求められるようにする。和の法則や積の法則について理解し,場合の数を効率よく求められるようにする。☒			p4~p11	1 学期
2	5.順列 6.順列の利用 7.いろいろな順列 8.組合せ 9.組合せの利用☒	順列,組合せの意味を理解し,その総数を求められるようにする。☒			p12~p21	1 学期
3	2 節 確率 1.事象と確率 2.確率の計算 3.排反事象の確率 4.余事象の確率☒	試行と事象,事象の確率の意味を理解し,確率を求められるようにする。また,確率の加法定理を理解し,排反事象の確率を求められるようにする。余事象の確率を求められるようにする。☒			p22~p29	1 学期
4	5.独立な試行の確率 6.反復試行の確率☒	独立な思考,反復思考について理解し,それらの確率を求められるようにする。☒			p30~p33	1 学期
5	7.条件つき確率 8.期待値☒	条件つき確率の意味を理解する。また,確率の乗法定理を理解し,活用できるようにする。期待値を意思決定に活用できるようにする。☒			p34~p37	1 学期
6	2 章 図形の性質 1 節 平面図形の基礎 1.直線と角 2.多角形の角 3.三角形の合同と相似 4 基本の作図☒作図の利用	平行線と角の関係,多角形の内角・外角の性質,三角形の合同・相似条件を理解し,角の大きさや辺の長さを求めることができるようにする。 垂直二等分線,垂線,角の二等分線の作図方法を理解し,その作図ができるようにする。また,図形の性質を利用し,目的に合った作図ができるようにする。☒			p40~p49	2 学期
7	2 節 三角形の性質 1.三角形と比 2.三角形の重心 3.三角形の外心と内心 4.角の二等分線と線分の比	三角形と比の性質や中線連結定理を理解し,それを用いて線分の長さを求められるようにする。また,三角形の重心,外心,内心の性質を利用し,線分の長さや角の大きさを求めることができるようにする。☒			p50~p57	2 学期
8	3 節 円の性質 1.円の接線 2.円周角の定理 3.円に内接する四角形	円の接線の性質,円周角の定理,円に内接する四角形の性質を理解し,それらを活用することができるようにする。☒			p58~p63	2 学期
9	4.接線と弦のつくる角 5.方べきの定理 6.2つの円☒	接線と弦のつくる角の定理,方べきの定理,2つの円の位置関係を理解し,それらを活用することができるようにする。☒			p64~p69	2 学期
10	4 節 空間図形 1.直線や平面の位置関係 2.多面体☒	2直線,2平面,直線と平面の位置関係を理解する。 多面体,正多面体を理解し,オイラーの多面体定理を活用できるようにする。☒			p70~p75	2 学期
11	3 章 数学と人間の活動 1 節 数や位置を表す 2 節 数のつくりを調べる	古代の記数法,漢数字による記数法について理解する。2進法と10進法の関係を理解し,2進法の計算ができるようにする。素因数分解を利用し,最大公約数,最小公倍数を求められるようにする。ユークリッドの互除法を用いて最大公約数を求められるようにする。☒			p78~p91	2 学期
12	3 節 はかる 4 節 数学で遊ぶ☒	長さ,面積,体積,重さの単位を調べ考察する。 魔方陣のしくみや解き方を理解し,魔方陣をつくることができるようにする。			p92~p107	3 学期

面接指導			
回	目的	内容	実施時期
1	場合の数,組合せ,確率について学習に取り組む手段を学ぶ。	集合,順列,組合せ,確率についてそれぞれの要点を理解し学ぶ。	1 学期
2	確率,平面図形の基礎について学習に取り組む手段を学ぶ。	確率,平面図形についてそれぞれの要点を理解し学ぶ。	1 学期
3	平面図形の基礎,三角形の性質,円の性質について学習に取り組む手段を学ぶ。	平面図形,三角形の性質,円の性質についてそれぞれの要点を理解し学ぶ。	2 学期
4	空間図形,数学と人間の活動について学習に取り組む手段を学ぶ。	空間図形,数学と人間の活動についてそれぞれの要点を理解し学ぶ。	2 学期
テスト			
時期	試験範囲	内容	
1学期	1章 場合の数と確率	場合の数,確率	
2学期	2 章図形の性質	平面図形の基礎,三角形の性質,円の性質,空間図形	
3学期	3 章数学と人間の活動	数や位置を表す,数のつくりを調べる,はかる,数学で遊ぶ	
評価の基準		面接指導,学習指導,レポートへの取り組み,定期考察を,評価の観点別(知識・技能,思考・判断・表現,主体的に取り組む態度)に評価します。 各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。	

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
選択履修	進学 2,3年	数学	数学 B	2	中西 浩三
学習目標					
面接指導	2単位時間	合格時間数：2単位時間	教科書	「新編 数学 B」数研出版(712)	
レポート	6 回	合格通数：6 通	副教材	3TRIAL 数学 II + B (数研出版)	
単位認定試験	年間 3 回	単位認定 3 0 点以上	評定	5 段階評価、観点別評価の実施	
メディア利用	なし				
添削課題（レポート）					
回	単元	学習内容		教科書ページ	提出締切り
1	第1章 数 列 第1節 等差数列と等比数列 1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和	数列やその一般項の表し方について理解する。また、基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。		p 6～p 2 2	1 学期
2	第2節 いろいろな数列 6. 和の記号Σ 7. 階差数列 8. いろいろな数列の和	和の記号Σの表し方や性質を理解し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。		p 2 3～p 3 4	1 学期
3	第3節 漸化式と数学的帰納法 9. 漸化式 10. 数学的帰納法	数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また、数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。		p 3 5～p 4 7	2 学期
4	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 1. 確率変数と確率分布 2. 確率変数の期待値と分散 3. 確率変数の和と積	確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。		p 4 8～p 6 5	2 学期
5	4. 二項分布 5. 正規分布	連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できるようにする。		p 6 6～p 8 0	3 学期
6	第2節 統計的な推測 6. 母集団と標本 7. 標本平均の分布 8. 推 定 9. 仮説検定	母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できるようにする。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。		p 8 1～p 1 0 1	3 学期
面接指導					
回	目的		内容		実施時期
1	数列の等差数列と等比数列、いろいろな数列、漸化式と数学的帰納法について、学習に取り組む手段を学ぶ。		数列と一般項、等差数列、等差数列の和、等比数列、等比数列の和、和の記号Σ、階差数列、いろいろな数列の和、漸化式、数学的帰納法についてそれぞれの要点を理解し学ぶ。		
2	統計的な推測の確率分布について、学習に取り組む手段を学ぶ。 第2章 統計的な推測		確率変数と確率分布、確率変数の期待値と分散、確率変数の和と積、二項分布、正規分布、母集団と標本、標本平均の分布、推定、仮説検定についてそれぞれの要点を理解し学ぶ。		
テスト					
時期	試験範囲		内容		
1学期	第1章 数 列		等差数列と等比数列、いろいろな数列		
2学期	第1章 数 列 第2章 統計的な推測		漸化式と数学的帰納法、確率分布		
3学期	第2章 統計的な推測		確率分布、統計的な推測		
評価の基準	面接指導,学習指導,レポートへの取り組み,定期考察を,評価の観点別(知識・技能,思考・判断・表現,主体的に取り組む態度)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。				

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
必修	1	理科	科学と人間生活	2	高橋 司 (高松校)
学習目標					
自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。 科学の発展に伴い、「地球環境が今後どのように変化するのか。」「さいがくはいつ、どのように発生するのか。」「ロボットや自動運転車の安全性はどのように保証するのか。」「生命については、どこまで人為的な操作が許されるのか。」などの新たな社会課題も生まれ、多くのグレーな部分と向き合っていくようになる。そこで、「科学と人間生活」を通して、生きていく社会には様々な課題があることをまず感じ取ってもらい、次にその解決の糸口を見つけて出す力を養ってほしい。そして、常に自分たちの周りの世界を主体的に科学的に捉える態度を涵養してほしい。					
面接指導	8	教科書	東京書籍 科学と人間生活		
レポート	5	副教材	東京書籍 ニューサポート 科学と人間生活		
単位認定試験	有	評価	5段階評価および観点別評価		
メディア利用	無				
添削課題（レポート）					
回	単元	学習内容	教科書ページ	提出締切り	
1	【科学技術の発展】 ・科学技術の歴史と発展	「科学技術の歴史と発展」、「エネルギーと情報技術の発展」、「持続可能な未来のために」について学習する。 ①日常生活や社会、未来と科学がどのようにつながっているかを考える。 ②科学技術の進歩が人間生活にもたらした影響をも考え、科学技術が人間生活を豊かにしてきたことや、人間生活に不可欠であることを理解する。	P6～P13 P208～221	令和7年5月指定日	
2	【4編 宇宙や地球の科学】 1章 太陽と地球	「太陽と月が作る暦」、「海水面の変動と海の満ち干をもたらす力」、「太陽の放射エネルギー」、「太陽がつくる大気と海洋の循環」、「1年を通じた大気の運動と気象災害」について学習する。 ①地球の自転や公転によって1日や1年が定義されていることを理解する。 ②月の見え方と一月、暦の関係を理解する。 ③潮の満ち干と月の引力の関係を理解する。 ④太陽、地球、月の位置関係と潮汐の変動の周期性について理解する。 ⑤高潮と大潮が重なると災害をもたらすことがあることを理解する。 ⑥太陽エネルギーを利用した太陽発電の利点と課題について考え、理解する。 ⑦太陽放射の熱収支を理解する。 ⑧地球温暖化について考える。 ⑨大気の構造と対流について理解する。 ⑩緯度による太陽の熱の入射量の違いと地球の自転によって大気の流れができることを理解し、大気の大循環を理解する。 ⑪海流が風によって生じることを理解する。 ⑫大気と海流の移動により低緯度の熱を高緯度に運ぶ結果、気候が形成されることを理解する。 ⑬地球の公転と自転軸の傾きにより季節が生じることを理解する。 ⑭気圧分布や大気の流れと各季節の気象の関係を理解する。 ⑮熱帯低気圧の経路図を基に、台風が発生場所と移動経路の特長について考察する。 ⑯台風や集中豪雨などによって災害が起こることがあることを理解する。	P158～P179		
	【4編 宇宙や地球の科学】 2章 自然景観と自然災害	「移り変わる地球の景観」、「山地や低地のでき方」、「火山が作る景観」、「太陽のエネルギーが作る景観」、「自然災害とは」、「地震による災害」、「火山による災害」、「気象災害・土砂災害と防災」、「自然災害との付き合い方」について学習する。 ①プレート運動により、プレート境界に海嶺や海溝、山脈などができることを理解する。 ②地表の景観は常に変化し続けており、長い時間をかけて少しずつ移り変わるものについての理解を深める。 ③断層運動により山地と低地ができることを理解する。 ④マグマの性質とそれによる火山の姿や噴火の形態について理解する。 ⑤山脈や火山をもたらす原動力は地球内部の熱であり、その熱が地表面に放出される過程でプレートが動いていることを理解する。 ⑥土壌は風化してよりなり、地滑りや土砂崩れ、土石流などが起こることがあることを理解する。 ⑦流水の三作用について理解する。 ⑧太陽エネルギーがもたらす様々な地形や景観について理解する。 ⑨自然災害と自然現象の違いについて理解する。 ⑩自然災害と人間生活との関わりについて理解を深める。 ⑪プレート境界で起こる地震と内陸で起こる地震のメカニズムと特徴について理解する。 ⑫火山の噴火による様々な災害について理解する。 ⑬台風や低気圧などの大雨による様々な災害について理解する。 ⑭自然災害を軽減するために自分たちにできることについて問題を見いだす。 ⑮天気予報の仕組みや気象観測の発達について理解する。 ⑯自然災害に対する防災・減災のための取り組みへの科学技術の重要性と限界について理解し、自分たちにできることを考える。	P180～P207	令和7年6月指定日	
3	【2編 物質の科学】 1章 材料とその再利用	「資源の再利用と3R」、「金属の性質」、「異なる金属の区別」、「金属の精錬と人間生活」、「金属の再生利用」、「プラスチックの性質と分類」、「プラスチックはどのように作るのか」、「プラスチックの再生利用」について学習する。 ①循環型社会を目指す必要性と3Rについて理解する。 ②ガラス瓶における3Rについて理解し、それぞれの利点について考える。 ③金属に特有の性質について理解する。 ④金属の構造について理解し、それを基に金属特有の性質について考える。 ⑤金属の分類について理解する。 ⑥金属の種類による物理的な性質および化学的な性質の違いについて理解する。 ⑦銅、鉄、アルミニウムの精錬方法と用途について理解する。 ⑧さびについて理解するとともに、さびを防ぐ方法と利用について理解する。 ⑨金属の再生利用の基本と、リサイクルマークについて理解する。 ⑩スチール缶、アルミニウム缶の再生利用方法を理解し、その重要性について考える。 ⑪プラスチックの種類や特徴、用途について理解する。 ⑫プラスチックの原料について理解する。 ⑬モノマーとポリマー、重合など、プラスチックの構造について理解する。 ⑭プラスチックの再生利用の重要性について考えとともに、プラスチックのマテリアルリサイクル、ケミカルリサイクル、サーマルリサイクルについて考える。	P66～P93		
	【2編 物質の科学】 2章 衣料と食品	「繊維の種類と性質」、「生物がつかつくれる天然繊維」、「石油がつかつくれる合成繊維」、「体に必要な栄養素」、「脂質の性質」、「炭水化物の性質」、「タンパク質の性質」について学習する。 ①繊維の種類とそれぞれの用途について理解する。 ②繊維の特徴、染色の仕組みを理解する。 ③植物繊維がセルロースから、動物繊維がタンパク質からできていることを理解する。 ④さまざまな天然繊維の特徴と用途について理解し、それぞれがなぜその用途で利用されているのかを考える。 ⑤合成繊維は石油を原料とすることや、モノマーとポリマー、重合について理解する。 ⑥再生繊維や半合成繊維の原料と用途について理解する。 ⑦栄養素とカロリーについて理解する。 ⑧無機質とビタミンのはたらきやそれに含まれる食品について理解する。 ⑨三大栄養素の体内への取り込まれ方について理解する。 ⑩油脂の構造と性質について理解する。 ⑪エステルの加水分解と油脂のけん化について理解する。 ⑫デンプンは多数のグルコースが重なった高分子化合物であること、ヨウ素デンプン反応で検出されることを理解する。 ⑬炭水化物は種類ともよばれ、単糖類、二糖類、多糖類に分類されることをりかひする。 ⑭マルトースやグルコースはフェーリング液の還元反応で確認されることを理解する。 ⑮デンプンの消化の進行をヨウ素デンプン反応やフェーリング液の還元反応で確かめる。 ⑯タンパク質は多数のアミノ酸分子が結合していることや、必須アミノ酸について理解する。 ⑰アミノ酸はペプチド結合で結合することを理解する。 ⑱タンパク質はペプチド反応やキヤンプロテイン反応で検出できることを理解する。 ⑲タンパク質の安定性について理解する。	P94～P115	令和7年10月指定日	
4	【1編 生命の科学】 1章 微生物とその利用	「身のまわりの微生物」、「生態系における微生物のはたらき」、「室素と微生物のはたらき」、「水中の微生物のはたらき」、「微生物の発見の歴史」、「食品と微生物」、「発酵のしくみ」、「医薬品と微生物」について学習する。 ①細菌、アーキナ、原生生物、菌類に属するさまざまな微生物について理解する。 ②生態系における微生物の役割について考え、微生物は有機物を分解する分解者としての役割を果たしていることを理解する。 ③生態系における微生物のはたらきと菌糸の構造について理解する。 ④根粒菌が大豆の根から窒素化合物を合成していることを理解する。 ⑤生態系における微生物のはたらきと窒素の循環について理解する。 ⑥微生物が分解者として水の浄化に関与していることを理解する。 ⑦微生物を利用して環境の浄化が行われていることを理解し、その利点を考える。 ⑧自然発酵説を否定した方法について考え、理解する。 ⑨微生物やウイルスの発見の歴史を理解する。 ⑩酸酵や腐敗が微生物のはたらきによっておこることを理解する。 ⑪発酵食品にはどのようなものがあるかを考え、微生物のはたらきによって、様々な発酵食品がつくられることを理解する。 ⑫アルコール発酵の仕組みとそれによって酒類やパンができることを理解する。 ⑬乳酸発酵の仕組みと乳製品や漬物の製造に利用されていることを理解する。 ⑭微生物によってつくられる抗生物質の発見の歴史について理解する。 ⑮抗生物質以外にも、微生物を利用して有用な医薬品がつけられていることを理解する。 ⑯バイオテクノロジーを用いた、新たな医薬品の開発などが期待されていることについて考える。	P14～P37		
	【1編 生命の科学】 2章 ヒトの生命現象	「視覚とは何か」、「眼の構造とはたらき」、「血糖とは何か」、「血糖濃度の調節」、「感染症から体を守るしくみ」、「免疫のしくみと日常生活」、「遺伝子とDNA」、「DNAの遺伝情報からタンパク質」、「体内ではたらくタンパク質」について学習する。 ①眼の網膜で受容した光の刺激を脳で処理することにより視覚が生じることを理解する。 ②ヒトの眼の構造を理解する。 ③近くを見るのと遠くを見るときの調節のしくみを理解する。 ④2種類の視細胞のはたらきを理解する。 ⑤周囲の明るさと瞳孔の大きさの変化との関係について理解する。 ⑥1日を周期とした生活リズムについて考え、体内時計と眼の関係について理解する。 ⑦デンプンの消化と吸収のしくみについて理解する。 ⑧血糖濃度とそれを維持するための体内でのグルコースの流れについて理解する。 ⑨血糖濃度を調節するための仕組みについて理解する。 ⑩免疫とリンパ球のはたらきについて理解する。 ⑪抗原抗体反応の仕組みと特徴について理解する。 ⑫免疫記憶について理解する。 ⑬予防接種の意味を考え、予防接種で感染症を予防する仕組みについて理解する。 ⑭免疫反応によってアレルギーが引き起こされることがあることを理解する。 ⑮DNAの構造と遺伝子とDNAとの関係について理解する。 ⑯タンパク質はアミノ酸がつながってできていること、タンパク質によってアミノ酸の並び方は決まっていることを理解する。 ⑰DNAの塩基配列からタンパク質がつけられる過程について考え、理解する。 ⑱ヒトの体内には多くの種類のタンパク質があり、それぞれ、さまざまなはたらきをもっていることを理解する。	P38～P65	令和7年11月指定日	
5	【3編 光や熱の科学】 1章 光の性質とその利用	「光の進み方とその見え方」、「光の波としての性質」、「さまざまなスペクトル」、「光の3原色と色」、「電磁波の利用」について学習する。 ①異なる物質や境界面で光が反射・屈折するときの法則を理解する。 ②透明な物が見える理由について理解する。 ③全反射について理解する。 ④光の分散とスペクトルについて理解する。 ⑤光の波長とスペクトルの関係について理解する。 ⑥偏光について理解する。 ⑦光は、解説と干渉という波特有の性質をもつことを理解する。 ⑧光速によって光のスペクトルに違いがあることを理解する。 ⑨物体の色がどのようにして生じているのかについて、光の3原色やヒトの視覚と関連付けて理解する。 ⑩物体の色は何に依って決まるのかを考え、物体から目に届く光には透過光と反射光があることを理解する。 ⑪電磁波という広い概念で、可視光線や赤外線、紫外線、電波、X線などの関係を理解する。 ⑫赤外線、紫外線、電波やX線、ガンマ線の性質とその利用について理解を深める。 ⑬放射線の種類としてのX線やガンマ線の生物への影響について理解するとともに、科学技術のあり方について判断するために必要な態度を身につける。	P116～P137		
	【3編 光や熱の科学】 2章 熱の性質とその利用	「原子や分子の熱運動」、「熱容量と比熱」、「熱の伝わり方」、「力学的エネルギーと熱エネルギー」、「他のエネルギーから熱エネルギーへ」、「熱エネルギーから仕事への変換」、「エネルギーの有効利用」について学習する。 ①原子や分子の熱運動と温度の関係について理解する。 ②温度の表し方である摂氏温度や絶対温度について理解する。 ③熱平衡、熱量、熱容量について理解する。 ④物質の種類や質量によって温まりやすさの違いがあることを捉え、比熱について理解する。 ⑤水の比熱が大きいことと人間生活との関わりについての理解を深める。 ⑥熱量の保存について理解する。 ⑦熱の伝わり方には、熱伝導、対流、放射があることを理解する。 ⑧魔法瓶の仕組みなど、伝導、対流、放射と人間生活との関わりについて考え、理解を深める。 ⑨力学的エネルギーから熱エネルギーへの変換について理解し、熱現象とエネルギーとの関係について考える。 ⑩化学エネルギーから熱エネルギーへの変換について理解する。 ⑪電気エネルギーから熱エネルギーへの変換について理解する。 ⑫熱現象の可逆変化と不可逆変化について理解する。 ⑬太陽エネルギーの特徴について考え、太陽光発電などへの理解を深める。 ⑭地球環境を保全するためのエネルギーの有効利用について考え、科学技術のあり方について判断するために必要な態度を身につける。	P138～P157	令和8年2月指定日	

面接指導			
回	目的	内容	実施時期
1	科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解し、人間生活との関わりについて、科学的に考察し、表現する。また、科学技術の発展と人間生活との関わりに関する事・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。	科学技術の発展と人間生活との関わりについて理解し、科学的に考察し表現する。また、科学技術の発展と人間生活との関わりに主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど科学的に探究する。	2025/4/25
	太陽などの身近に見られる天体の運動や太陽の放射エネルギーについて、人間生活と関連付けて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。太陽と地球について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験を行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察表現し、科学的に探究する態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。	太陽などの身近に見られる天体の運動や太陽の放射エネルギーについての基本的な概念や原理・法則などを人間生活と関連付けて理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本的な技能を身につける。また、太陽と地球について、人間生活と関連付けて科学的に考察・表現し、太陽と地球に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど科学的に探究する。	
2	身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、人間生活と関連付けて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。自然景観と自然災害について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験を行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察表現し、科学的に探究する態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。	身近な自然景観の成り立ちや自然災害についての基本的な概念や原理・法則などを人間生活と関連付けて理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本的な技能を身につける。また、自然景観と自然災害について、人間生活と関連付けて科学的に考察・表現し、自然景観と自然災害に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど科学的に探究する。	令和7年5月指定日
3	金属やプラスチックの種類、性質および用途と資源の再利用について、人間生活と関連付けて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。材料とその再利用について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験を行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察表現し、科学的に探究する態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。	金属やプラスチックの種類、性質および用途と資源の再利用についての基本的な概念や原理・法則などを人間生活と関連付けて理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本的な技能を身につける。また、材料とその再利用について、人間生活と関連付けて科学的に考察・表現し、材料とその再利用に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど科学的に探究する。	令和7年6月指定日
4	身近な衣料材料の性質や用途、食品中の主な成分の性質について、日常生活と関連付けて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。衣料と食品について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験を行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察表現し、科学的に探究する態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。	身近な衣料材料の性質や用途、食品中の主な成分の性質についての基本的な概念や原理・法則などを日常生活と関連付けて理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本的な技能を身につける。また、衣料と食品について、人間生活と関連付けて科学的に考察・表現し、衣料と食品に材料に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど科学的に探究する。	令和7年9月指定日
5	微生物のはたらきについて、人間生活と関連付けて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。微生物とその利用について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験を行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察表現し、科学的に探究する態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。	微生物のはたらきについての基本的な概念や原理・法則などを人間生活と関連付けて理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本的な技能を身につける。また、微生物とその利用について、人間生活と関連付けて科学的に考察・表現し、微生物とその利用に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど科学的に探究する。	令和7年10月指定日
6	ヒトの生命現象について、人間生活と関連付けて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。ヒトの生命現象について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験を行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察表現し、科学的に探究する態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。	ヒトの生命現象についての基本的な概念や原理・法則などを人間生活と関連付けて理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本的な技能を身につける。また、ヒトの生命現象について、人間生活と関連付けて科学的に考察・表現し、ヒトの生命現象に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど科学的に探究する。	令和7年11月指定日
7	光を中心とした電磁波の性質とその利用について、日常生活と関連付けて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。光の性質とその利用について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験を行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察表現し、科学的に探究する態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。	光を中心とした電磁波の性質とその利用についての基本的な概念や原理・法則などを人間生活と関連付けて理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本的な技能を身につける。また、光の性質とその利用について、人間生活と関連付けて科学的に考察・表現し、光の性質とその利用に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど科学的に探究する。	令和7年11月指定日
8	熱の性質、エネルギーの変換と保存および有効利用について、日常生活と関連付けて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。熱の性質とその利用について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験を行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察表現し、科学的に探究する態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。	熱の性質、エネルギーの変換と保存および有効利用についての基本的な概念や原理・法則などを日常生活と関連付けて理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本的な技能を身につける。また、熱の性質とその利用について、人間生活と関連付けて科学的に考察・表現し、材料とその再利用に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど科学的に探究する。	令和8年2月指定日
テスト			
時期	試験範囲	内容	
1学期	科学技術の発展 4編 宇宙や地球の科学	教科書の該当範囲、副読本「ニューサポート」P2～3、P48～59、P63	
2学期	2編 物質の科学 1編 生命の科学	教科書の該当範囲、副読本「ニューサポート」P20～33、P4～19、P60～61	
3学期	3編 光や熱の科学	教科書の該当範囲、副読本「ニューサポート」P34～47、P62	
評価の基準		基本的な概念や原理・法則などを理解しているかについて発言や記述の内容、ペーパーテストなどから把握する。 自然の事・現象の中に問題を見つけ考えたり、判断したり、表現したりしようとする態度について発言や記述の内容、ペーパーテストなどから把握する。 積極的、主体的に学習に取り組もうとしているかについて出欠状況、発言や記述の内容、ペーパーテストなどから把握する。	

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
必修修	進学2	理科	物理基礎	2	馬場 康弘（高松校）
学習目標					
物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。（２）観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。（３）物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。					
面接指導	8	合格時間数：3 単位時間		教科書	新編物理基礎（物基708）数研出版
レポート	8	合格通数：6 通		副教材	改訂版リット Light/ート物理基礎（数研出版）
単位認定試験	年間 3 回	単位認定 3 0 点以上		メディア利用	無
添削指導（レポート）					
回	単元	学習内容		教科書ページ	締切り
1	第 1 編 運動とエネルギー 第 1 章 運動の表し方（１）	1 速度 A 速さ B 等速直線運動 C 速度 D 変位 E 平均の速度 F 瞬間の速度 G 速度の合成 H 相対速度 2 加速度 A 加速度 B 等加速度直線運動 C 等加速度運動の式とグラフ		1 0 ～ 2 9	令和7年 5 月指定日
2	第 1 章 運動の表し方（２） 第 2 章 運動の法則（１）	3 落体の運動 A 自由落下 B 鉛直投射 C 水平投射 D 斜方投射 1 力とそのはたらき A 力 B いろいろな力 2 力のつりあい A 力の 合成・分解 B 力のつりあい C 佐用と反作用 3 A 慣性の法則 B 運動の法則 C 運動方程式 D 重さと質量 4 摩擦を受ける運動 A 静止摩擦力 B 動摩擦力		3 0 ～ 6 1	令和7年6月指定日
3	第 2 章 運動の法則（２） 第 3 章 仕事とエネルギー （１）	5 液体や気体から受ける力 A 圧力 B 浮力 C 空気の抵抗 1 仕 事 A 仕事 B 仕事の原理 C 仕事率 2 運動エネル ギー A エネルギー B 運動エネルギー C 運動エネルギーと仕事 の関係		6 2 ～ 7 5	令和7年 9 月指定日
4	第 3 章 仕事とエネルギー （２）	3 位置エネルギー A 重力による位置エネルギー B 弾性力による位 置エネルギー C 保存力と位置エネルギー 4 力学的エネルギーの保存 A 力学的エネルギー保存則 B 保存力以外の力が仕事をする場合		7 6 ～ 8 7	令和7年10月指定日
5	第 2 編 熱 第 1 章 熱とエネルギー	1 熱と物質の状態 A 温度 B 熱量 C 熱容量と比熱 D 熱量の保 存 E 物質の三態と潜熱 F 熱膨張 2 熱と仕事 A 熱 と仕事の関係 B 内部エネルギー C 熱力学第一法則 D 不可逆 変化 E 熱機関		9 2 ～ 1 0 3	令和7年11月指定日
6	第 3 編 波 第 1 章 波の性質 第 2 章 音	1 波と媒質の運動 A 波動 B 波の発生 C 波の表し方 D 横波と縦 波 2 重ね合わ せの原理 A 重ね合わせの原理 B 定在波 C 自由端による反射・ 固定端による反射 1 音の性質 A 音波 B 音の 速さ C 音の大きさ・音の高さ D 音の反射 E うなり 2 発音体の振動と共振・共鳴 A 弦の振動 B 気柱の振動 C 共振・		1 0 8 ～ 1 3 3	令和7年11月指定日
7	第 4 編 電気 第 1 章 物質と電気抵抗 第 2 章 磁場と交流	1 電気の性質 A 静電気 B 物質が帯電するしくみ C 導体と不 導体 2 電流と電気抵抗 A 電流 B 電圧 C オームの法則と電気抵抗 D 抵抗の接続 E 抵抗率 3 電気とエネル ギー A ジュール熱 B 電力量と電力 1 電流と磁場 A 磁場 B 電流のつくる磁場 C 電流が磁場から受ける力 D 電磁誘導 2 交流と電磁波 A 交流 B 電氣の利用 C 電磁波		1 3 8 ～ 1 6 3	令和8年2月指定日
8	第 5 編 物理学と社会 第 1 章 エネルギーの利用	1 エネルギーの利用 A いろいろなエネルギー B エネルギーの変換 と保存 2 エネル ギー資源と発電 A エネルギー資源 B 化石燃料と火力発電 C 原子 力と原子力発電 D 太陽光 E その他のエネルギー資源		1 6 6 ～ 1 7 5	令和8年 3 月指定日

面接指導			
回	目的	内容	時期
1	落下運動を総合的に理解する。	自由落下、鉛直投げ下ろし、鉛直投げ上げ、水平投射、斜方投射について、等加速度運動の応用として一括して理解する。	令和7年5月指定日
2	運動の法則を総合的に理解する。	運動方程式を使い方の手順を様々な運動の分析を通して身に付ける。①正の向きを決める ②力を図示する ③運動方程式を立てる ④運動方程式を解く	令和7年6月指定日
3	エネルギー、仕事について理解を深める。	運動方程式の数学的な変形（運動方程式を距離で積分）から出てくるエネルギー、仕事を身近な現象を通じて理解を深める。	令和7年9月指定日
4	力学的エネルギー保存則を総合的に理解する。	エネルギーの原理から導出される力学的エネルギー保存則について身近な現象（振り子、バランスポール、落下運動等）を通じて理解を深める。	令和7年10月指定日
5	熱についての理解を深める。	様々な熱機関の仕組みを理解するとともに、おもちゃの熱機関を自作し、熱についての理解を深める。	令和7年11月指定日
6	音波についての理解を深める。	実験「おんさの振動数の測定」の実験器具を自作し、それを使って実験することにより、音波についての理解を深める。	令和7年11月指定日
7	電流、電磁波について理解を深める。	身近に利用されている直流、交流について、発電方法や送電方法等の観察や実験を通して、それぞれの特性を理解する。さらに、電磁波について、簡易な観察器具・方法を活用して、様々な現象を観察して理解を深める。	令和8年2月指定日
8	原子力発電についての理解を深める。	2011年の東日本大震災では、福島第一原子力発電所で電源喪失により炉心の冷却機能が失われ、炉心溶融という重大事故に至った。さらに莫大な量の放射性物質が外部に放出された。この事故を防げなかった原因や、今後このような事故を防ぐためにどのようにすればよいかを、自分の問題として考察する。	令和8年3月指定日
認定試験			
回	内容		試験範囲
1	レポート1回、2回の内容		教科書10ページ～61ページ
2	レポート3回、4回、5回、6回の内容		教科書62ページ～87ページ 92ページ～103ページ 108ページ～133ページ
3	レポート7回の内容		教科書10ページ～61ページ
評価の基準		レポートの提出と評価、授業態度、認定試験の成績を総合的に判断して評価する。	

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者	
必修	2	理	化学基礎	2	渡辺 真士	
学習目標						
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。また、物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。						
面接指導	8単位時間		教科書	「新編化学基礎」東京書籍		
レポート	全6回		副教材	「ニューサポート新編化学基礎」東京書籍		
単位認定試験	年間3回	単位認定30点以上	評定	5段階評価、観点別評価の実施		
メディア利用	なし					
添削課題(レポート)						
回	単元	学習内容			教科書ページ	提出締切り
1	1編化学と人間生活 2章物質の成分と構成元素 2編物質の構成 1章原子の構造と元素の周期表	物質の成分や構成元素、三態、原子の構造、電子配置と周期表について理解する。			p.12～45	1学期
2	2章化学結合	イオン結合や金属結合・共有結合とそれぞれの特徴について理解する。			p.48～73	
3	3編物質の変化 1章物質と化学反応式 1節原子量・分子量・式量 2節物質	原子量や分子量・式量および物質について解法を確認しつつ演習問題に取り組み、理解する。			p.82～91	2学期
4	3節溶液の濃度 4節化学反応の表し方 5節化学反応式の表す量的関係	化学反応式の書き方を理解する。また、化学変化の反応物と生成物の量的関係について理解する。			p.92～99	
5	2章酸と塩基	酸と塩基の性質について理解する。また、価数と強弱についても理解する。中和反応について確認する。			p.106～131	
6	3章酸化還元反応	酸化と還元について理解する。イオン化傾向・電気分解・電池などについて理解する。			p.136～161	3学期
面接指導						
回	目的	内容				実施時期
1	物質と物体の違いについて知る。	身の回りの物を思い浮かべて物質と物体で表し方がどのように変わるかを理解する。				1学期
2	周期表にある元素記号や元素名を知る。	周期表を確認し、元素記号や元素名について理解を深める。				
3	物質の三態について知る。	物質には3つの状態があることを理解し、身の回りに起きる現象はどの状態からどの状態への変化なのかを考える。				
4	電子配置について知る。	原子の構造について理解する。電子殻には4種類あり、どのように電子が収容されていくのかを考える。				
5	有効数字や指数について確認する。	問題を解きながら、有効数字や指数について理解を深める。				2学期
6	物質量に関わる計算方法を知る。	問題を解きながら、物質量や物質量に関わる計算について理解を深める。				
7	酸化と還元について知る。	酸化と還元の定義について理解を深める。				3学期
8	電池について知る。	電池にはどのようなものがあるのか、発電はどのようにして行われるのかについて理解を深める。				
テスト						
時期	試験範囲	内容				
1学期	レポート①～② ニューサポートp.2～29	1編化学と人間生活 2章物質の成分と構成元素 2編物質の構成 1章原子の構造と元素の周期表 2章化学結合				
2学期	レポート③～⑤ ニューサポートp.30～57	3編物質の変化 1章物質と化学反応式 2章酸と塩基				
3学期	レポート⑥ ニューサポートp.58～72	3章酸化還元反応				
評価の基準	各学期の成績を100点満点として、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習する態度」をそれぞれ40点、30点、30点を満点とする。レポート評価、テスト点、出席点、授業態度点を総合的に判断して評価する。					

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
必修	1・3通信	理	生物基礎	2	渡辺 真士
学習目標					
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察などに関する基本的な知識技能を身に付けるようにする。また、生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を育む。					
面接指導	8単位時間		教科書	「新編生物基礎」東京書籍	
レポート	全6回		副教材	「ニューサポート新編生物基礎」東京書籍	
単位認定試験	年間3回	単位認定30点以上	評定	5段階評価、観点別評価の実施	
メディア利用	なし				
添削課題(レポート)					
回	単元	学習内容	教科書ページ	提出締切り	
1	1編生物の特徴 1章生物の多様性と共通性	生物の共通性と多様性について基本用語を確認する。プレパラートの作り方など観察・実験の方法について理解する。脊椎動物の特徴を比較して、考察し表現する。細胞の基本構造について理解する。真核細胞や原核細胞の構造の違いについて理解する。	p.10～23	1学期	
2	2章生物とエネルギー	生物とエネルギーについて基本用語を確認する。顕微鏡の使い方など実験の方法について理解する。光合成や呼吸など代謝とATPの関係について理解する。酵素のはたらきについて理解する。	p.6～7, 24～37		
3	2編遺伝子とそのはたらき 1章遺伝情報とDNA	遺伝情報とDNAについて基本用語を確認する。遺伝情報とDNAの基本的な概念や原理・法則などを理解する。	p.42～51		
4	1章遺伝情報とDNA 2章遺伝情報とタンパク質の合成 3編ヒトの体の調節 1章ヒトの体を調節するしくみ	遺伝情報とタンパク質の合成、ヒトの体を調節するしくみについて基本用語を確認する。タンパク質の構成単位や生体内での役割やはたらきについて理解する。 神経系による体内環境の調節について、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを理解する。	p.52～85	2学期	
5	1章ヒトの体を調節するしくみ 2章免疫のはたらき	内分泌系、免疫のはたらきについて基本用語を確認する。内分泌腺や分泌されるホルモン、その作用について理解する。血糖濃度の変化とインスリン、グルカゴンのはたらきとの関係について考察する。免疫のはたらきについて理解する。	p.86～115		
6	4編生物の多様性と生態系 1章植生と遷移 2章生態系と生物の多様性	植生と遷移、生態系と生物の多様性について基本用語を確認する。植生と遷移の基本的な概念や原理・法則などを理解する。生態系とその保全について、生態系と生物の多様性、ならびに生態系のバランスと保全のことを理解する。	p.122～163	3学期	
面接指導					
回	目的	内容	実施時期		
1	生物の特徴について、生物の共通性と多様性の基本的な概念を理解する。	地球上にすむ生物の種数が膨大であることに気づき、地球上に多様な種がみられるのはなぜかを考える。その後、日常に存在する「生物」と「非生物」を挙げて「生物」に共通するものは何かを考える。	1学期		
2	様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性をもっていることを見いだして理解する。また、生物の共通性と起源の共有を関連付けて理解する。	様々な脊椎動物を分類し、それぞれの分類の共通性を考える。また、それらの共通する特徴が現れた位置を推測し、系統樹を作成し、そこから進化との関連性を考える。			
3	生物とエネルギーに関する資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解する。生命活動に必要なエネルギーをATPや栄養素とも関連して考え、食生活との関連を理解する。	1日に必要なエネルギー量を計算して求める。5大栄養素について再度学習する。普段の食生活を見直して、栄養の取れ方が十分なのかを見直す。			
4	放射線の種類や性質、影響について正しく理解する。そのうえで、一人ひとりが放射線との向き合い方を考え、放射線に関する科学的な理解を深める。	放射線に関する資料を確認し、放射線とはどういうものなのか、どういうところで使われているのかなどの放射線についての基礎知識を学習する。また、原子力発電など発電についてもメリットやデメリットを合わせて理解する。	2学期		
5	ストレスがかかるときのところからだのサインを考えることで、からだところの健康についてつながりがあることを理解する。	ストレスチェックを行い、自分がどういうときにストレスがかかりやすいのかを理解する。ストレスを感じるときはどうか、その時にはからだところからどういうサインが出るかを考える。			
6	体内環境を一定に保つための重要な器官である脳についてののはたらきを考え、多彩な脳のトレーニング方法があることを理解する。	大脳にさまざまな役割があることを理解し、右脳と左脳にもそれぞれ特徴があることを理解する。それぞれの特徴を確認し、自分がどちらの脳が主体的に活動しているかを確認する。脳のトレーニング方法について触れる。			
7	人間の活動が生態系にどのような影響を与えるのかを考える。また、生態系の保全について、自分なりの考えをもつ。	過去絶滅した生物や現在絶滅危惧種に指定されている生物についてどうすれば絶滅を回避できたか、またはこれからどうしていけば絶滅せずに存続していけるのかについて考える。インターネットで絶滅に瀕している生物について調べ、その原因や対策についてまとめて理解する。	3学期		
8	年平均気温と年降水量のデータから整理し、そこからバイオームの違いについて考える。	気象庁から指定された場所のデータを記録し、そこから各場所のバイオームが何かを考える。			
テスト					
時期	試験範囲	内容			
1学期	レポート①～③ ニューサポートp.2～21	1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 2章 生物とエネルギー 2編遺伝子とそのはたらき 1章 遺伝情報とDNA			
2学期	レポート④～⑤ ニューサポートp.22～51	2編 遺伝子とそのはたらき 1章 遺伝情報とDNA 2章 遺伝情報とタンパク質の合成 3編 ヒトの体の調節 1章 ヒトの体を調節するしくみ 2章 免疫のはたらき			
3学期	レポート⑥ ニューサポートp.52～67	4編 生物の多様性と生態系 1章 植生と遷移 2章 生態系と生物の多様性			
評価の基準	各学期の成績を100点満点として、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習する態度」をそれぞれ40点、30点、30点を満点とする。レポート評価、テスト点、出席点、授業態度点を総合的に判断して評価する。				

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
必修	3通学	理	生物基礎	3	渡辺 真士
学習目標					
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察などに関する基本的な知識技能を身に付けるようにする。また、生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を育む。					
面接指導	12単位時間		教科書	「新編生物基礎」東京書籍	
レポート	全9回		副教材	「ニューサポート新編生物基礎」東京書籍	
単位認定試験	年間3回	単位認定30点以上	評定	5段階評価、観点別評価の実施	
メディア利用	なし				
添削課題(レポート)					
回	単元	学習内容	教科書ページ	提出締切り	
1	1編生物の特徴 1章生物の多様性と共通性	生物の共通性と多様性について基本用語を確認する。プレバートの作り方など観察・実験の方法について理解する。脊椎動物の特徴を比較して、考察し表現する。細胞の基本構造について理解する。真核細胞や原核細胞の構造の違いについて理解する。	p.10～23	1学期	
2	2章生物とエネルギー	生物とエネルギーについて基本用語を確認する。顕微鏡の使い方など実験の方法について理解する。光合成や呼吸など代謝とATPの関係について理解する。酵素のはたらきについて理解する。	p.6～7, 24～27		
3			p.28～37		
4	2編遺伝子とそのはたらき 1章遺伝情報とDNA	遺伝情報とDNAについて基本用語を確認する。遺伝情報とDNAの基本的な概念や原理・法則などを理解する。	p.42～51	2学期	
5	1章遺伝情報とDNA 2章遺伝情報とタンパク質の合成 3編ヒトの体の調節 1章ヒトの体を調節するしくみ	遺伝情報とタンパク質の合成、ヒトの体を調節するしくみについて基本用語を確認する。タンパク質の構成単位や生体内での役割やはたらきについて理解する。神経系による体内環境の調節について、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを理解する。	p.52～69		
6			p.76～85		
7	1章ヒトの体を調節するしくみ 2章免疫のはたらき	内分泌系、免疫のはたらきについて基本用語を確認する。内分泌腺や分泌されるホルモン、その作用について理解する。血糖濃度の変化とインスリン、グルカゴンのはたらきとの関係について考察する。免疫のはたらきについて理解する。	p.86～103		
8			p.102～115		
9	4編生物の多様性と生態系 1章植生と遷移 2章生態系と生物の多様性	植生と遷移、生態系と生物の多様性について基本用語を確認する。植生と遷移の基本的な概念や原理・法則などを理解する。生態系とその保全について、生態系と生物の多様性、ならびに生態系のバランスと保全のことを理解する。	p.122～163	3学期	
面接指導					
回	目的	内容	実施時期		
1	生物の特徴について、生物の共通性と多様性の基本的な概念を理解する。	地球上にすむ生物の種数が膨大であることに気づき、地球上に多様な種がみられるのはなぜか考える。その後、日常に存在する「生物」と「非生物」を挙げて「生物」に共通するものは何かを考える。	1学期		
2	様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性をもっていることを見いだして理解する。また、生物の共通性と起源の共有を関連付けて理解する。	様々な脊椎動物を分類し、それぞれの分類の共通性を考える。また、それらの共通する特徴が現れた位置を推測し、系統樹を作成し、そこから進化との関連性を考える。			
3	生物の生態について理解する。	生物の生態について動画を観て、理解を深める。			
4	生物とエネルギーに関する資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解する。生命活動に必要なエネルギーをATPや栄養素とも関連して考え、食生活との関連を理解する。	1日に必要なエネルギー量を計算して求める。5大栄養素について再度学習する。普段の食生活を見直して、栄養の取れ方が十分なのかを見直す。			
5	生物の生態について理解する。	生物の生態について動画を観て、理解を深める。			
6	放射線の種類や性質、影響について正しく理解する。そのうえで、一人ひとりが放射線との向き合い方を考え、放射線に関する科学的な理解を深める。	放射線に関する資料を確認し、放射線とはどういうものなのか、どこで使われているのかなどの放射線についての基礎知識を学習する。また、原子力発電など発電についてもメリットやデメリットを合わせて理解する。	2学期		
7	ストレスがかかるときのところから心のサインを考えることで、からだどこの健康についてつながりがあることを理解する。	ストレスチェックを行い、自分がどういときにストレスがかかりやすいのかを理解する。ストレスを感じるときはどういときか、その時にはからだどこのサインが出るかを考える。			
8	生物の生態について理解する。	生物の生態について動画を観て、理解を深める。			
9	体内環境を一定に保つための重要な器官である脳についてののはたらきを考え、多彩な脳のトレーニング方法があることを理解する。	大脳にさまざまな役割があることを理解し、右脳と左脳にもそれぞれ特徴があることを理解する。それぞれの特徴を確認し、自分がどちらの脳が主体的に活動しているかを確認する。脳のトレーニング方法について触れる。			
10	生物の生態について理解する。	生物の生態について動画を観て、理解を深める。			
11	人間の活動が生態系にどのような影響を与えるのかを考える。また、生態系の保全について、自分なりの考えをもつ。	過去絶滅した生物や現在絶滅危惧種に指定されている生物についてどうすれば絶滅を回避できたか、またはこれからどうしていけば絶滅せずに存続していけるのかについて考える。インターネットで絶滅に瀕している生物について調べ、その原因や対策についてまとめて理解する。	3学期		
12	年平均気温と年降水量のデータから整理し、そこからバイオームの違いについて考える。	気象庁から指定された場所のデータを記録し、そこから各場所のバイオームが何かを考える。			
テスト					
時期	試験範囲	内容			
1学期	レポート①～④ ニューサポートp.2～21	1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 2章 生物とエネルギー 2編 遺伝子とそのはたらき 1章 遺伝情報とDNA			
2学期	レポート⑤～⑧ ニューサポートp.22～51	2編 遺伝子とそのはたらき 1章 遺伝情報とDNA 2章 遺伝情報とタンパク質の合成 3編 ヒトの体の調節 1章 ヒトの体を調節するしくみ 2章 免疫のはたらき			
3学期	レポート⑨ ニューサポートp.52～67	4編 生物の多様性と生態系 1章 植生と遷移 2章 生態系と生物の多様性			
評価の基準	各学期の成績を100点満点として、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習する態度」をそれぞれ40点、30点、30点を満点とする。レポート評価。テスト点、出席点、授業態度点を総合的に判断して評価する。				

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
必履修	2	理科	地学基礎	2	白川 達章
学習目標					
日常生活や社会との関連を意識しながら、地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。					
面接指導	8単位時間		教科書	「地学基礎」啓林館	
レポート	全6回		副教材	「Navi & トレーニング地学基礎」啓林館	
単位認定試験	年間3回	単位認定30点以上	評定	5段階評価、観点別評価の実施	
メディア利用	なし				
添削課題(レポート)					
回	単元	学習内容		教科書ページ	提出締切り
1	第1部 固体地球とその活動 第1章 地球 第2章 活動する地球	プレートと地球の活動について理解し、地震や火山活動について学ぶ。		p.6～56	5/16
2	第1部 固体地球とその活動 第2章 活動する地球 第3節 火山活動と火成岩の形成 第3部 移り変わる地球 第3章 地球史の読み方	プレートと地球の活動について理解し、火成岩の形成について学ぶ。 堆積岩とその形成や地層と地質構造について学び、地球の歴史の組み立てについて理解する。		p.57～63, 166～184	6/27
3	第3部 移り変わる地球 第1章 地球の誕生	太陽系の誕生について理解し、太陽の活動や太陽系の天体の特徴について学ぶ。		p.118～137	9/18
4	第2部 大気と海洋	地球全体のエネルギー収支について理解し、日本で見られる冬から春、夏から秋への季節の気象について学ぶ。		p.68～116	10/10
5	第3部 移り変わる地球 第2章 地球と生命の進化	古生物の変遷と地球環境の変化について理解し、先カンブリア時代や顕生代について学ぶ。		p.139～163	11/28
6	第4部 自然との共生	地球環境に及ぼす人間活動の影響について理解し、日本の自然災害と防災について学ぶ。		p.188～217	2/13
面接指導					
回	目的	内容			実施時期
1	プレートの分布と運動及びプレート運動に伴う大地形の形成や火山活動・地震発生の仕組みについて理解させる。	プレートの運動と関連づけて、地震発生のメカニズムや火山活動について考えさせる。特に日本付近の4つのプレートの境界であることから、自然災害が多いこと意識させ、第4部の学習につなげる。			1学期
2	プレートの活動が原因となる火山活動に伴って生成する火成岩の形成と分類について理解させる。	中学校で学習した内容に加え、鉱物や結晶の自形・他形、色指数などについても学習させる。			
3	堆積岩の形成と分類について理解させる。	地層や地質構造との関係にも触れながら、堆積岩について学び、地球の歴史の組み立てについて理解させる。			
4	太陽と太陽系の天体の特徴について理解させる。	太陽系の誕生と、地球型・木星型に分類して太陽系の各天体の特徴について学習させる。			2学期
5	日本で見られる冬から春の気象について理解させる。	日本付近の季節ごとの特徴的な気圧配置にも注目して、日本の四季の気象について理解させる。			
6	地球の誕生から生物の出現にいたる地球の歴史について理解させる。	地球の誕生から生命の誕生、多細胞生物の出現までの地球の歴史を学ばせる。			
7	古生物の変遷に基づいて地質時代が区分されること及び地球環境がどのように移り変わってきたのかについて理解させる。	古生代カンブリア紀から新生代第四紀までの地球環境の変化と生物界の変遷について学ばせる。			3学期
8	人間生活が地球規模の環境の変化に及ぼす影響について考えさせる。 日本の自然災害について確認させる。	酸性雨やオゾンホールなど、地球環境に及ぼす人間活動の影響について理解させる。また日本で起こる自然災害と、防災への取り組みについて考えさせる。			

テスト		
時期	試験範囲	内容
1学期	レポート①・② Navi&トレーニング p.2～19, 64～69	第1部 固体地球とその活動 第3部 移り変わる地球 第3章 地球史の読み方
2学期	レポート③～⑤ Navi&トレーニング p.26～41, 48～63	第2部 大気と海洋 第3部 移り変わる地球 第1章 地球の誕生 第2章 地球と生命の進化
3学期	レポート⑥ Navi&トレーニング p.78～85	第4部 自然との共生
評価の基準		各学期の成績を100点満点として、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習する態度」をそれぞれ40点, 30点, 30点を満点とする。レポート評価. テスト点, 出席点, 授業態度点を総合的に判断して評価する。

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
必修	3	理科	地学基礎	2	白川 達章
学習目標					
日常生活や社会との関連を意識しながら、地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。					
面接指導	8単位時間		教科書	「地学基礎」啓林館	
レポート	全6回		副教材	「地学基礎の基本マスター」啓林館	
単位認定試験	年間3回	単位認定30点以上	評定	5段階評価、観点別評価の実施	
メディア利用	なし				
添削課題(レポート)					
回	単元	学習内容		教科書ページ	提出締切り
1	第1部 固体地球とその活動 第1章 地球 第2章 活動する地球	プレートと地球の活動について理解し、地震や火山活動について学ぶ。		p.6～56	5/16
2	第1部 固体地球とその活動 第2章 活動する地球 第3節 火山活動と火成岩の形成 第3部 移り変わる地球 第3章 地球史の読み方	プレートと地球の活動について理解し、火成岩の形成について学ぶ。 堆積岩とその形成や地層と地質構造について学び、地球の歴史の組み立てについて理解する。		p.57～63, 166～184	6/27
3	第2部 大気と海洋	地球全体のエネルギー収支について理解し、日本で見られる冬から春、夏から秋への季節の気象について学ぶ。		p.68～116	9/19
4	第3部 移り変わる地球 第1章 地球の誕生	太陽系の誕生について理解し、太陽の活動や太陽系の天体の特徴について学ぶ。		p.118～137	10/17
5	第3部 移り変わる地球 第2章 地球と生命の進化	古生物の変遷と地球環境の変化について理解し、先カンブリア時代や顕生代について学ぶ。		p.139～163	11/20
6	第4部 自然との共生	地球環境に及ぼす人間活動の影響について理解し、日本の自然災害と防災について学ぶ。		p.188～217	1/30
面接指導					
回	目的	内容			実施時期
1	プレートの分布と運動及びプレート運動に伴う大地形の形成や火山活動・地震発生の仕組みについて理解させる。	プレートの運動と関連づけて、地震発生のメカニズムや火山活動について考えさせる。特に日本付近の4つのプレートの境界であることから、自然災害が多いこと意識させ、第4部の学習につなげる。			1学期
2	プレートの活動が原因となる火山活動に伴って生成する火成岩の形成と分類について理解させる。	中学校で学習した内容に加え、鉱物や結晶の自形・他形、色指数などについても学習させる。			
3	堆積岩の形成と分類について理解させる。	地層や地質構造との関係にも触れながら、堆積岩について学び、地球の歴史の組み立てについて理解させる。			
4	日本で見られる冬から春の気象について理解させる。	日本付近の季節ごとの特徴的な気圧配置にも注目して、日本の四季の気象について理解させる。			
5	太陽と太陽系の天体の特徴について理解させる。	太陽系の誕生と、地球型・木星型に分類して太陽系の各天体の特徴について学習させる。			2学期
6	地球の誕生から生物の出現にいたる地球の歴史について理解させる。	地球の誕生から生命の誕生、多細胞生物の出現までの地球の歴史を学ばせる。			
7	古生物の変遷に基づいて地質時代が区別されること及び地球環境がどのように移り変わってきたのかについて理解させる。	古生代カンブリア紀から新生代第四紀までの地球環境の変化と生物界の変遷について学ばせる。			

8	人間生活が地球規模の環境の変化に及ぼす影響について考えさせる。 日本の自然災害について確認させる。	酸性雨やオゾンホールなど、地球環境に及ぼす人間活動の影響について理解させる。また日本で起こる自然災害と、防災への取り組みについて考えさせる。
テスト		
時期	試験範囲	内容
1学期	レポート①・② 基本マスター p.2～19, 52～57	第1部 固体地球とその活動 第3部 移り変わる地球 第3章 地球史の読み方
2学期	レポート③～⑤ 基本マスター p.24～35, 52～57	第2部 大気と海洋 第3部 移り変わる地球 第1章 地球の誕生 第2章 地球と生命の進化
3学期	レポート⑥ 基本マスター p.62～67	第4部 自然との共生
評価の基準	各学期の成績を100点満点として、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習する態度」をそれぞれ40点, 30点, 30点を満点とする。レポート評価・テスト点, 出席点, 授業態度点を総合的に判断して評価する。	

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者	
必修	2	理	化学	3	古川 勝博	
学習目標						
化学基礎を履修した上で、さらに化学分野全般にわたって学習していく。第1編の理論分野は固体、液体、気体について結合を中心に理解を深めていく。第2編では化学反応とエネルギー、電池・電気分解、化学班の速さ、化学平衡へと理解を深めていく。第3編、第4編、第5編の各論では武器物質、有機化合物、高分子化合物について学習し、幅広い知識を得られるように内容を掘り下げていきたい。						
面接指導	8単位時間		教科書	「化学」数研出版		
レポート	全6回		副教材	「セミナー化学基礎＋化学」第1学習社		
単位認定試験	年間3回	単位認定30点以上	評定	5段階評価、観点別評価の実施		
メディア利用	なし					
添削課題（レポート）						
回	単元	学習内容			教科書ページ	提出締切り
1	第1編 物質に状態 第1章 個体の構造	状態変化について学習、さらに結合と結晶についての学習。結晶の単位格子について説明と計算練習。①結晶とアモルファス ②金属結晶 ③イオン結晶 ④分子間力と分子結晶 ⑤共有結合の結晶			p 25	1 学期
2	第2章 物質の状態変化	熱運動と分子間力より状態変化の説明。気液平衡と蒸気圧。			p 37	
3	第3章 気体	①気体の体積（ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則） ②気体の状態方程式 ③混合気体の圧力（分圧と全圧） ④実在気体と理想気体			p 57、p 58	
4	第4章 溶液	①溶解のしくみ ②溶解度 ③希薄溶液の性質 ④コロイド溶液			p 87、p 88	2 学期
5	第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー	①化学反応と熱 ②ヘスの法則 ③化学反応と光			p 114、115	
6	第2章 電池と電気分解	①電池 ②電気分解			p 134、135	3 学期
面接指導						
回	目的		内容			実施時期
1	化学分野の学習の全体像をつかむと同時に学習の狙いを理解する。		物質を構成する最小粒子は 原子である。自然現象を化学の視線を持ってみると身近にある物質がより分かり易く・親近感を持って接することができるようになる。例えば食用の「酢」は酸の代表的なものであるが、3～4%の濃度で他は水である。その少しの量であの匂いは強い。身近のものから化学岸の内容に迫っていきたい。			1 学期
2	化学実験：同素体、硫黄Sの同素体（斜方硫黄、単斜硫黄、ゴム状硫黄）硫黄を加熱することで変わっていくことを実際に確認してもらう。		硫黄、炭素、酸素、リンの同素体の授業で加熱によって斜方硫黄、単斜硫黄、ゴム状硫黄が観察できる硫黄を題材にして、体験させる。			
3	化学実験：酸・塩基について万能試験紙を使って酸性の物質、塩基性の物質を調べる。		身近にある物質の酸性度を万能試験紙で測定することで、日常生活で酸・塩基の概念をもって物質に接することができるようにする。			
4	化学実験：酸・塩基について万能試験紙を使って酸性の物質、塩基性の物質を調べる。		万能試験紙で酸・塩基の物質を分類すると同時にそのおよその強さをpHによって理解する。普段の生活で何気なく使っている物質についてその酸性・塩基性を調べることで物質の性質・安全性を再確認する			
5	化学実験：酸化還元反応 銅線を使って加熱による酸化、エタノールによって、酸化銅を還元。		酸化還元反応を実際の現象から理解することを重点に置いて、中学校から習ってきた定義を復讐する。			

6	化学実験：各種電池の特徴と用途を書き出して、まとめる。	ボルタ電池、鉛蓄電池を作ってみて電池が化学反応からつくられていることを見て、電池の理解を深める。	2 学期
7	化学実験：電気分解で色んな物質がつくられてい折ることを学習する	アルミニウム、銅、水酸化ナトルウム、食塩などは代表的な電気分解生成物である。身近な物質から電気分解を理解する。	
8	化学実験：金属の性質と炎色反応	銅の炎色反応を実験で見て、映像教材で色んな金属の炎色反応を見てまとめる。	
テスト			
時期	試験範囲	内容	
1学期	第1編 物質の状態 第1章 個体の構造 第2章 物質の状態変化 第3章 気体 第4章 溶液	1.結晶とアモルファス 2. 金属結晶 3.イオン結晶 4.分子間力と分子結晶 5.共有結合の結晶 1.粒子の熱運動 2.三態の変化とエネルギー 3.木駅へ行こうと蒸気圧 1. 気体の体積 2.気体の状態方程式 3.混合気体の圧力 4.実在気体 1.溶解とその仕組み 2.溶解度 3.希薄溶液の性質 5.コロイド溶液	
2学期	第2編 物資の変化 第1章 化学反応とエネルギー 第2章 電池と電気分解	1.化学反応と熱 2. ヘスの法則 3.化学反応と光 1.電池 2.電気分解	
3学期	第2編 第3章 化学反応委の速さとしくみ 第4章 化学平衡	1.化学反応との速さ 2.反応条件と反応速度 3.化学反応のしくみ 1.可逆反応と化学平衡 2.平衡状態の変化 3.電解質水溶液の化学平衡	
評価の基準			
各学期の成績を100点満点として、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習する態度」をそれぞれ40点、30点、30点を満点とする。レポート評価、テスト点、出席点、授業態度点を総合的に判断して評価する。			

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者	
必修	3	理	化学	3	古川 勝博	
学習目標						
第1編の理論分野は固体、液体、気体について結合を中心に理解を深めていく。第2編では化学反応とエネルギー、電池・電気分解、化学班の速さ、化学平衡を2年次で学習した上で第3編、第4編、第5編の各論では武器物質、有機化合物、高分子化合物について学習し、幅広い知識を得られるように内容を掘り下げていきたい。						
面接指導	8単位時間		教科書	「化学」数研出版		
レポート	全6回		副教材	「セミナー化学基礎+化学」第1学習社		
単位認定試験	年間3回	単位認定30点以上	評価	5段階評価、観点別評価の実施		
メディア利用	なし					
添削課題（レポート）						
回	単元	学習内容			教科書ページ	提出締切り
1	第3編 無機物質	第1章 非金属元素 第2章 金属元素（Ⅰ）典型元素 第3章 金属元素（Ⅱ）遷移元素			p224	1学期
2	第3章 無機物質	第2章 金属元素（Ⅰ）典型元素			p239	
3	第3章 無機物質	第3章 金属元素（Ⅱ）遷移元素			p268	
4	第4章 有機化合物	第1章 有機化合物の分類と分析 第2章 脂肪族化合物			p281 p297	2学期
5	第4章 有機化合物	第3章 アルコールと関連化合物 第4章 芳香族化合物			p325 p350	
6	第5章 高分子化合物	第1章 高分子化合物の性質 第2章 天然高分子化合物 第3章 合成高分子化合物			p357 p394 p419	3学期
面接指導						
回	目的		内容			実施時期
1	化学分野の学習の全体像をつかむと同時に学習の狙いを理解する。		物質を構成する最小粒子は 原子である。自然現象を化学の視線を持ってみると身近にある物質がより分かり易く・親近感を持って接することができるようになる。例えば食用の「酢」は酸の代表的なものであるが、3～4%の濃度で他は水である。その少しの量であの匂いは強い。身近のものから化学岸の内容に迫っていきたい。			1学期
2	化学実験：同素体、硫黄Sの同素体（斜方硫黄、単斜硫黄、ゴム状硫黄）硫黄を加熱することで変わっていくことを実際に確認してもらう。		硫黄、炭素、酸素、リンの同素体の授業で加熱によって斜方硫黄、単斜硫黄、ゴム状硫黄が観察できる硫黄を題材にして、体験させる。			
3	化学実験：酸・塩基について万能試験紙を使って酸性の物質、塩基性の物質を調べる。		身近にある物質の酸性度を万能試験紙で測定することで、日常生活で酸・塩基の概念をもって物質に接することができるようにする。			
4	化学実験：酸・塩基について万能試験紙を使って酸性の物質、塩基性の物質を調べる。		万能試験紙で酸・塩基の物質を分類すると同時にそのおよその強さをpHによって理解する。普段の生活で何気なく使っている物質についてその酸性・塩基性を調べることで物質の性質・安全性を再確認する			2学期
5	化学実験：酸化還元反応 銅線を使って加熱による酸化、エタノールによって、酸化銅を還元。		酸化還元反応を実際の現象から理解することを重点に置いて、中学校から習ってきた定義を復讐する。			
6	化学実験：各種電池の特徴と用途を書き出して、まとめる。		各種電池の特徴と用途を書き出して、まとめることで電池についての理解を深める。			

7	化学実験：電気分解で色んな物質がつくられてい折ることを学習する	アルミニウム、銅、水酸化ナトリウム、食塩などは代表的な電気分解生成物である。身近な物質から電気分解を理解する。
8	化学実験：金属の性質と炎色反応	銅の炎色反応を実験で見て、映像教材で色んな金属の炎色反応を見てまとめる。
テスト		
時期	試験範囲	内容
1学期	第3編 無機物質	第1章 非金億元素 第2章 金属元素（Ⅰ）典型元素 第3章 金属元素（Ⅱ）遷移元素
2学期	第4編 有機化合物	第1章 有機化合物の分類と分析 第2章 脂肪族炭化水素 第3章 アルコールと関連化合物 第4章 芳香族化合
3学期	第5編 高分子化豪物	第1章 高分子化合物の性質 第2章 天然高分子化合物 第3章 合成高分子化合物
評価の基準	各学期の成績を100点満点として、「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習する態度」をそれぞれ40点，30点，30点を満点とする。レポート評価、テスト点、出席点、授業態度点を総合的に判断して評価する。	

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者	
必修	1	保健	体育	2	浅沼	
学習目標						
体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。						
(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。						
(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。						
面接指導	1単位時間		教科書	現代高等保健体育（大修館書店）【701】		
レポート	2枚		副教材			
単位認定試験	年間3回		評価	5段階評価、観点別評価の実施		
メディア利用	なし					
添削課題（レポート）						
回	単元	学習内容			教科書ページ	提出締切り
1	スポーツの始まりと変遷 文化としてのスポーツ	スポーツがどのように始まったのかを説明できる なぜスポーツが世界中に広まったのかを説明できる 運動との比較から文化としてのスポーツの特徴を説明できる 多様なかわり方によるスポーツ文化の姿容について例をあげて説明できる			P136～143	6/27（金）
2	オリンピックとパラリンピックの意義 スポーツが経済に及ぼす効果	オリンピズムとオリンピックの価値について説明できる パラリンピックの価値について具体例をあげながら、パラリンピックの意義について説明できる スポーツが経済活動でどのように重要な役割を果たしているかを説明できる スポーツにかかわる業種について例をあげて説明できる			P144～149	11/26（金）
3	スポーツの高潔さとドーピング スポーツと環境	スポーツの高潔さを脅かす要因について例をあげて説明できる ドーピングがなぜスポーツを破壊する行為になるのかを具体的に説明できる スポーツにおける環境問題について例をあげて説明できる スポーツは環境とどのように調和していけばよいのかせつめいできる			P150～156	1/30（金）
面接指導						
回	目的		内容			実施時期
1	スポーツの発祥と発展		スポーツの意義や歴史、文化的特徴や、現代スポーツを取り巻くさまざまな問題について学習する			1学期
テスト						
時期	試験範囲		内容			
1学期	P136～143		スポーツの始まりと変遷 文化としてのスポーツ			
2学期	P144～149		オリンピックとパラリンピックの意義 スポーツが経済に及ぼす効果			
3学期	P150～156		スポーツの高潔さとドーピング スポーツと環境			
評価の基準						
レポート・スクーリング・試験を①知識・技能②思考・判断・表現③主体的に取り組む態度、の3観点で総合的に判断して評価をする。						

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者	
必履修	2	保健	体育	2	浅沼 比呂樹	
学習目標						
体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。						
(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。						
(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。						
面接指導	1単位時間		教科書	現代高等保健体育（大修館書店）【701】		
レポート	2枚		副教材			
単位認定試験	年間3回		評価	5段階評価、観点別評価の実施		
メディア利用	なし					
添削課題（レポート）						
回	単元	学習内容			教科書ページ	提出締切り
1	スポーツにおける技能と体力 スポーツにおける技術と戦術	技能と体力の関係について説明できる 技能や体力を高めるときに気をつけるべき点をあげることができる 技能の型の違いやそれぞれの練習のしかたを説明できる 用具の改良やメディアの発達などによる技術や戦術、ルールの変化を説明できる			P158～163	6/13（金）
2	技能の上達過程と練習 効果的な動きのメカニズム	技能がどのようなステップを経て上達するか説明できる 練習によって技能が上達すると、どのような特徴がみられるかをあげることができる 体の動きはどのようなしくみで開発され、持続していくのか説明できる 良い動きを支える調整力について例をあげて説明できる			P164～171	11/21（金）
3	体力トレーニング 運動やスポーツでの安全の確保	目的に応じたさまざまなトレーニングの方法を説明できる 筋力、持久力、調整力、柔軟性を高める具体的な方法をあげることができる スポーツ外傷とスポーツ障害の違いを説明できる スポーツ活動中に起きる重大な事故をあげ、その発生原因と予防方法を説明できる			P172～180	2/13（金）
面接指導						
回	目的		内容			実施時期
1	運動・スポーツの学び方		合理的な動きを理解し、練習によって身に付け、必要な体力をトレーニングにより向上させ、生涯にわたって継続していくための基礎の効果的な学び方について学習する。			1学期
テスト						
時期	試験範囲		内容			
1学期	P158～163		スポーツにおける技能と体力 スポーツにおける技術と戦術			
2学期	P164～171		技能の上達過程と練習 効果的な動きのメカニズム			
3学期	P172～180		体力トレーニング 運動やスポーツでの安全の確保			
評価の基準 レポート・スクリーニング・試験を①知識・技能②思考・判断・表現③主体的に取り組む態度、の3観点で総合的に判断して評価をする。						

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者	
必修	3	保体	体育	2	浅沼	
学習目標						
体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。						
(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。						
(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。						
面接指導	1単位時間		教科書	現代高等保健体育（大修館書店）【701】		
レポート	2枚		副教材			
単位認定試験	年間3回		評定	5段階評価、観点別評価の実施		
メディア利用	なし					
添削課題（レポート）						
回	単元	学習内容			教科書ページ	提出締切り
1	生涯スポーツの見方・考え方	社会の変化にともなってスポーツの役割がどのように変化したのかを説明できる ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方を説明できる			P182～185	6/27（金）
2	ライフスタイルに応じたスポーツ	「する」スポーツライフスタイルについて例をあげ説明できる 現在の自分のスポーツライフの諸条件を整理し、今後の豊かな設計のための諸条件や工夫のしかたを例にあげられる			P186～189	11/28（金）
3	スポーツを推進する取り組み 豊かなスポーツライフの創造	国内でスポーツを推進してきた従来の取り組みを説明できる 自分が住んでいる身近な地域におけるスポーツ推進の取り組みについて例をあげられる これまでとこれからのスポーツライフの違いを説明できる 豊かなスポーツライフを創造していくための課題について例をあげて説明できる			P190～194	1/16（金）
面接指導						
回	目的		内容			実施時期
1	豊かなスポーツライフの設計		生涯にわたり、スポーツと豊かにかかわるためのスポーツライフの設計のしかたについて学習する。			1学期
テスト						
時期	試験範囲		内容			
1学期	P182～185		生涯スポーツの見方・考え方			
2学期	P186～189		ライフスタイルに応じたスポーツ			
3学期	P190～194		スポーツを推進する取り組み 豊かなスポーツライフの創造			
評価の基準						
レポート・スクーリング・試験を①知識・技能②思考・判断・表現③主体的に取り組む態度、の3観点で総合的に判断して評価をする。						

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者	
必修	1	保・体	保健	1	浅沼 比呂樹	
学習目標						
保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。						
(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。						
(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。						
(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。						
面接指導	1単位時間		教科書	現代高等保健体育（大修館書店）【701】		
レポート	3枚		副教材			
単位認定試験	年間3回		評定	5段階評価、観点別評価の実施		
メディア利用	なし					
添削課題（レポート）						
回	単元	学習内容			教科書ページ	提出締切り
1	1 単元 現代社会と健康 1.健康の考え方と成り立ち 2.私たちの健康のすがた 3.生活習慣病の予防と回復 4.がんの原因とよぼう 5.がんの治療と回復 6.運動と健康 7.食事と健康 8.休養・睡眠と健康 9.喫煙と健康 10.飲酒と健康 11.薬物乱用と健康	現代の健康問題に関して理解し、解決に向けて課題を発見し、対策ができるようになる。 運動・食事・休養の重要性和、飲酒・喫煙・薬物乱用が及ぼす影響について学び、生活習慣病の予防と回復ができるようになる。			P6～35	5/26（月）
2	12. 精神疾患の特徴 13. 精神疾患の予防 14. 精神疾患からの回復 15. 現代の感染症 16. 感染症の要望 17.性感染症・エイズとその予防 18. 健康に関する意思決定・行動選択 19. 健康に関する職場づくり	ストレスや不安について理解し、精神疾患の予防と回復や、心身の健康を保つための方法を学ぶ。 感染症への個人と社会の対策について例をあげて説明できるようになる。 健康を保つために必要な意思決定・行動選択について要因と課題について学び、適切に対処ができるようになる。 社会環境の健康への影響について学び、ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について説明できるようになる。			P36～59	10/6（月）
3	2 単元 安全な社会生活 1.事故の現状と発生要因 2.安全な社会の形成 3.交通における安全 4.応急手当の意義とその基本 5.日常的な応急手当 6.心肺蘇生法	交通事故、そのほかの自己、自然災害、犯罪などへの備えについて学び、被害を最小限におさえたり、安全な生活を送るための知識や技能を身に着ける。			P60～74	2/9（月）
面接指導						
回	目的		内容		実施時期	
1	健康の成り立ちについて考えさせ、健康で安全な生活を送るために必要な知識や技能の学習方法を指導する。		生活習慣病、精神疾患、感染症などを取り上げ、健康で安全な社会生活を送るための知識や技能を学ぶ。		1学期	
テスト						
時期	試験範囲		内容			
1学期	教科書P6～35		1 単元 現代社会と健康の1～11			
2学期	教科書P36～59		1 単元 現代社会と健康の12～19			
3学期	教科書P60～74		2 単元 安全な社会生活の1～6			
評価の基準 レポート・スクーリング・試験を①知識・技能②思考・判断・表現③主体的に取り組む態度、の3観点で総合的に判断して評価をする。						

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
必履修	2	保・体	保健	1	浅沼 比呂樹
学習目標					
保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。					
(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。					
(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。					
(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。					
面接指導	1単位時間		教科書	現代高等保健体育（大修館書店）【701】	
レポート	3枚		副教材		
単位認定試験	年間3回		評定	5段階評価、観点別評価の実施	
メディア利用	なし				
添削課題（レポート）					
回	単元	学習内容		教科書ページ	提出締切り
1	1 単元 現代社会と健康 1.健康の考え方と成り立ち 2.私たちの健康のすがた 3.生活習慣病の予防と回復 4.がんの原因とよぼう 5.がんの治療と回復 6.運動と健康 7.食事と健康 8.休養・睡眠と健康 9.喫煙と健康 10.飲酒と健康 11.薬物乱用と健康	現代の健康問題に関して理解し、解決に向けて課題を発見し、対策ができるようになる。 運動・食事・休養の重要性和、飲酒・喫煙・薬物乱用が及ぼす影響について学び、生活習慣病の予防と回復ができるようになる。		P6～35	5/26（月）
2	12. 精神疾患の特徴 13. 精神疾患の予防 14. 精神疾患からの回復 15. 現代の感染症 16. 感染症の要望 17.性感染症・エイズとその予防 18. 健康に関する意思決定・行動選択 19. 健康に関する職場づくり	ストレスや不安について理解し、精神疾患の予防と回復や、心身の健康を保つための方法を学ぶ。 感染症への個人と社会の対策について例をあげて説明できるようになる。 健康を保つために必要な意思決定・行動選択について要因と課題について学び、適切に対処ができるようになる。 社会環境の健康への影響について学び、ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について説明できるようになる。		P36～59	10/6（月）
3	2 単元 安全な社会生活 1.事故の現状と発生要因 2.安全な社会の形成 3.交通における安全 4.応急手当の意義とその基本 5.日常的な応急手当 6.心肺蘇生法	交通事故、そのほかの自己、自然災害、犯罪などへの備えについて学び、被害を最小限におさえたり、安全な生活を送るための知識や技能を身に着ける。		P60～74	2/9（月）
面接指導					
回	目的	内容			実施時期
1	健康の成り立ちについて考えさせ、健康で安全な生活を送るために必要な知識や技能の学習方法を指導する。	生活習慣病、精神疾患、感染症などを取り上げ、健康で安全な社会生活を送るための知識や技能を学ぶ。			1学期
テスト					
時期	試験範囲	内容			
1学期	教科書P6～35	1 単元 現代社会と健康の1～11			
2学期	教科書P36～59	1 単元 現代社会と健康の12～19			
3学期	教科書P60～74	2 単元 安全な社会生活の1～6			
評価の基準 レポート・スクーリング・試験を①知識・技能②思考・判断・表現③主体的に取り組む態度、の3観点で総合的に判断して評価をする。					

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
必履修	1	芸術	音楽Ⅰ（高松）	2	木村 勇貴
学習目標					
音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考えて方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成する。					
1 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。					
2 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。					
3 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。					
面接指導	全8回	合格時間数：2単位時間		教科書	教育芸術社MOUSA 1
レポート	全6通	合格通数：6通		副教材	教育芸術社高校生のための音楽研究ノート
単位認定試験	年間3回	単位認定30点以上		評定	5段階評価、観点別評価の実施
メディア活用	なし				
レポート					
回	単元	学習内容		教科書ページ	締切り
1	音楽とは何か？～音楽の役割と価値を考え、自分の「好き」を表現しよう～	この学習では、まず「音楽とは何か？」という問いをもとに、自分と音楽との関わりや、音楽が果たしている役割について考える。日常生活の中での音楽の存在や、心を動かされた経験を振り返りながら、音楽の価値について理解を深めていく。そのうえで、自分の好きな曲を選び、歌詞やメロディ、アーティストの思い、自分の感じたことを整理する。最後に、その曲の魅力をプレゼンテーション形式で伝える活動を通して、自分の感性や音楽の楽しさを他者と共有し、表現力や聴く力も高めていく。		14～17 112～113	4月
2	楽譜を読み解こう～音・リズム・記号の世界～	音部記号や五線、音階など楽譜の基本的な構造について理解を深め、音の高さと位置の関係を把握するとともに、四分音符や八分音符、休符などの記号を通して音の長さや間の感覚を身につけ、2拍子や3拍子などの拍子の違いを正しく理解することを目指す。また、リピート記号やD.C.、D.S.などの繰り返し記号の使い方を学び、楽譜全体の流れを読み解く力を養うことで、正確に楽譜を読み、演奏や歌唱へとつなげる基礎的な読譜力を育成する。		150～152	5月
3	作曲家の生涯と作品をたどろう	J.S.バッハやW.A.モーツァルトといった歴史的な作曲家の生涯や時代背景を調べながら、それぞれの作品に込められた特徴や魅力を味わう。作品を鑑賞する中で、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関係、また音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解を深める。さらに、曲や演奏に対する自分の感じたことをもとに意見を交換し、評価の根拠について考えることで、音楽のよさを主体的に捉えながら聴く力を育てる。		142～147	6月
4	・楽譜を読み解こう～音程と和音のひびきを感じて～ ・作曲やアレンジに挑戦しよう	楽譜に書かれた音程や和音の基本的なしくみを理解し、実際の音楽の中でそれらがどのように使われているかを聴き取りながら学ぶ。また、GarageBandを使って「星に願いを」のアレンジや、自分の名前から旋律を作る創作活動に取り組み、音の構造や響きに対する理解を深めながら、音楽を自分の感性で表現する楽しさを体験する。		46～47 112～113 116～117	9月
5	日本や諸外国の歌曲に親しみ、表現を工夫して独唱しよう	さまざまな言語による歌曲に親しみながら、それぞれの言語や文化の特徴を理解し、曲にふさわしい発声や言葉の発音、身体の使い方などの技能を身につける。さらに、歌詞や曲想、音楽の構造、文化的・歴史的背景との関わりを踏まえ、自己のイメージをもって表現を工夫し、創造的な独唱に取り組む。		48～50 26～29 76～77	11月
6	ボディー・パーカッションや“CUPS”に挑戦しよう	リズムを正確に捉え、音の重なりやつながりを意識して演奏する力を養う。曲想に応じた音色や奏法、パフォーマンスなどの技能を身につけ、仲間と共通のイメージをもちながら、表現を工夫する力を高める。演奏を通して協働的に意見交換や試行錯誤を重ね、音楽の表現力を深める。		19 30～33	1月

面接指導			
回	目的	内容	時期
1	日本のポップスの特徴を理解したり、歌詞や曲に込められた思いを味わったりしながら、表現を工夫して個性豊かに歌う	日本のポップスを演奏する中で、これまでに習得してきた歌唱に関する技能を高めたり応用したりしながら、自分の表現意図を的確に歌唱で表す力を養うとともに、歌詞の内容と曲想との関わりを歌唱や相互鑑賞・意見交換などを通して深く理解し、音楽を形づくる要素の働かせ方を工夫して個性豊かな表現を創造し、さらにポップスを鑑賞して音楽的特徴や演奏者・作品が社会に及ぼした影響についても考察しながら、表現力と鑑賞力を高める。	4 月
2	楽譜の基本的な記号や仕組みを理解し、音やリズムを正確に読み取る力と、記譜全体を的確に読み解く力を養う	音部記号や五線、音階など楽譜の基本的な構造について理解を深め、音の高さと位置の関係を把握するとともに、四分音符や八分音符、休符などの記号を通して音の長さや間の感覚を身につけ、2拍子や3拍子などの拍子の違いを正しく理解することを目指す。また、リビート記号やD.C.、D.S.などの繰り返し記号の使い方を学び、楽譜全体の流れを読み解く力を養うことで、正確に楽譜を読み、演奏や歌唱へとつなげる基礎的な読譜力を育成する。	5 月
3	作曲家や作品について学びながら、音楽の構造や表現、文化・歴史との関わりを理解し、その魅力を味わう力を育てる。	バッハやモーツァルトの作品を鑑賞し、その曲想や構造、文化的・歴史的背景について理解を深めるとともに、生徒同士の意見交換を通して曲や演奏の感じ方や評価の根拠を言葉にし、音楽の魅力を主体的に味わう力を育てる。	6 月
4	音楽における音程や和音の基礎を理解し、楽譜から音の関係や響きを読み取る力を育て、実際の楽曲の中でそれらがどのように使われているかを学び、音楽をより深く味わう視点を身につける	音程や和音のしくみと名称を学んだあと、身近な曲の楽譜を使って音の関係を分析し、実際に聴いたり演奏したりしながら音の響きの違いを体感する。	9 月
5	GarageBandを使って楽曲のアレンジや簡単な作曲に取り組み、音楽を自分の感性で表現する楽しさや創造力を育てる	GarageBandの基本的な操作方法を学んだうえで、既存曲「星に願いを」を自分なりにアレンジし、和音やリズム、楽器の選び方による雰囲気の違いを体験する。	1 0 月
6	GarageBandを使って楽曲のアレンジや簡単な作曲に取り組み、音楽を自分の感性で表現する楽しさや創造力を育てる	自分の名前を音名に変換して旋律を作り、簡単な伴奏をつけてひとつの作品として仕上げることで、音楽表現の自由さと創造性を実感する。	1 0 月
7	様々な言語の歌曲を通して、文化や発声・表現の工夫を学び、自分らしく歌う力を養う。	異なる言語の歌曲を通して文化的背景や発声・発音の違いを体感し、自分らしい表現を工夫して歌唱に取り組む。	1 1 月
8	リズムや音色、奏法を工夫しながら、曲の特徴に合った表現を仲間と共有・協力して創り上げる力を養う。	リズムや音のつながりを意識して演奏し、曲想に合った音色や奏法、パフォーマンスの技能を高めながら、共通のイメージをもって表現を工夫し、仲間と意見を交わし試行錯誤しながら演奏に取り組む。	1 月
評価の基準	【知識・技能】音楽の構造や曲想、文化的・歴史的背景、そして多様性についての理解を深めながら、創意工夫を生かした歌唱・器楽・創作表現に必要な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】音楽を形づくる要素の関わりや働きを感受し、演奏における表現方法を考えるとともに、音楽を評価しながらそのよさや美しさを味わっている。 【主体的に学習に取り組む態度】音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。		

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
必履修	1	英語	英語コミュニケーションⅠ	3	後藤千華
学習目標					
日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、 1. 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 2. 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 3. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。 4. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。 5. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる					
面接授業	全12回		教科書	「All Aboard!Ⅰ」東京書籍	
レポート	全9通		副教材	All AbordⅠⅠ Workbook	
単位認定試験	年間3回	単位認定30点以上		評定	5段階評価、観点別評価の実施
メディア利用	なし				
レポート					
回	単元	学習内容		教科書ページ	締切り
1	pre-lesson1 pre-lesson2 Communication1 英文のしくみ1 Lesson1	新出語句の意味や正しい使い方を知る。概要から細部への本文理解をイラスト選択、並び替え、true or falseから情報の概要や要点を聞き取ったり、読み取ったりして情報をまとめ理解できるようにする。本文から、言語材料（過去形）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。自己紹介、好きな食べ物について英作文をする。		p.8~27	令和7年5月指定日
2	Lesson2	新出語句の意味や正しい使い方を知る。概要から細部への本文理解をイラスト選択、並び替え、true or falseから情報の概要や要点を聞き取ったり、読み取ったりして情報を理解できるようにする。本文から言語材料（進行形）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。好きな動物、ある場所への行き方とそこでできることについて英作文をする。		p.28~37	令和7年6月指定日
3	Lesson3 Lesson4	新出語句の意味や正しい使い方を知る。概要から細部への本文理解をイラスト選択、並び替え、true or falseから情報の概要や要点を聞き取ったり、読み取ったりして情報を理解できるようにする。言語材料（助動詞、不定詞）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。行ってみたい場所について英作文をする。		p.38~59	令和7年6月指定日
4	Lesson5 Reading 1	新出語句の意味や正しい使い方を知る。概要から細部への本文理解をイラスト選択、並び替え、true or falseから情報の概要や要点を聞き取ったり、読み取ったりして情報を理解できるようにする。言語材料（動名詞）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。将来の夢について英作文をする。		p.60~77	令和7年6月指定日
5	Lesson6	新出語句の意味や正しい使い方を知る。概要から細部への本文理解をイラスト選択、並び替え、true or falseから情報の概要や要点を聞き取ったり、読み取ったりして情報を理解できるようにする。言語材料（受動態）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。好きな絵について英作文する。		p.78~87	令和7年10月指定日
6	Lesson7	新出語句の意味や正しい使い方を知る。概要から細部への本文理解をイラスト選択、並び替え、true or falseから情報の概要や要点を聞き取ったり、読み取ったりして情報を理解できるようにする。言語材料（比較）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。関心のある人物について英作文する。		p.88~97	令和7年10月指定日
7	Lesson8	新出語句の意味や正しい使い方を知る。概要から細部への本文理解をイラスト選択、並び替え、true or falseから情報の概要や要点を聞き取ったり、読み取ったりして情報を理解できるようにする。言語材料（現在完了形）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。人の生活を豊かにするロボットについて英作文する。		p.98~111	令和7年11月指定日
8	Lesson9	新出語句の意味や正しい使い方を知る。概要から細部への本文理解をイラスト選択、並び替え、true or falseから情報の概要や要点を聞き取ったり、読み取ったりして情報を理解できるようにする。言語材料（分詞）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。観光を守るためにできることについて英作文をする。		p.112~121	令和7年11月指定日
9	Lesson10 reading 2	新出語句の意味や正しい使い方を知る。概要から細部への本文理解をイラスト選択、並び替え、true or falseから情報の概要や要点を聞き取ったり、読み取ったりして情報を理解できるようにする。言語材料（関係代名詞）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。海外の文化や社会に対する理解を深める活動について英作文をする。		p.122~132	令和8年2月指定日
面接指導					
回	目的	内容			時期
1	英語コミュニケーションのオリエンテーション。品詞の理解。be動詞、一般動詞を使って自己紹介活動をする。	英語コミュニケーションの導入。新出語句の意味や正しい使い方を知る。本文の音読と文法確認し、教科書の自己紹介導入例を参考にペアで自己紹介、他己紹介し、話し手、聞き手の意図を的確に理解したり、表現したり、伝え合ったりする。			令和7年4月指定日
2	世界の朝食についての内容を理解する。be動詞、一般動詞の過去形から肯定文、否定文、疑問文の組み立てを押さえる。	新出語句の意味や正しい使い方を知る。be動詞と一般動詞の過去形について理解し、肯定文・否定文・疑問文の組み立て方を押さえる。動詞の過去形を用いて、自分が過去にしたことについて述べられるようになる。本文内容を確認し、世界で食べられている朝食について知り。普段の朝食や理想的な朝食について英語で述べるための表現を学習し、話し手、聞き手の意図を的確に理解したり、表現したり、伝え合ったりする。			令和7年4月指定日

3	オーストラリアに棲息する野生動物についての内容を理解する。進行形（be動詞＋動詞の-ing形）の理解を図る。	新出語句の意味や正しい使い方を知る。進行形について理解を深め、肯定文、否定文、疑問文の組み立て方を押さえる。本文内容を確認し、オーストラリアに生息するクオッカについてやロットネスト島が観光客に案内している規則について学ぶ。クオッカに会った時にしたいことや好きな動物について進行形を用いて述べる表現を学習し、話し手、聞き手の意図を的確に理解したり、表現したり、伝え合ったりする。	令和7年5月指定日
4	三陸鉄道の運転手が仕事について語る内容を理解する。助動詞can, willの理解を図る。	新出語句の意味や正しい使い方を知る。助動詞の理解を深め、それを用いて情報や考えを伝え合う技術を身に付ける。本文内容を確認し、三陸鉄道の運転士が仕事の内容について語る英文を理解する。自分の働き方や働きたい場所、目的について考え助動詞を用いて述べる表現を学習し、話し手、聞き手の意図を的確に理解したり、表現したり、伝え合ったりする。	令和7年 5月指定日
5	ウユニ塩原について英語で書かれたメールの内容をを理解する。to不定詞（to＋動詞の原形）の理解を図る。	新出語句の意味や正しい使い方を知る。不定詞の理解を深め、不定詞の用法について学び、情報や考え、気持ちを伝え合う技術を身に付ける。本文内容を確認し、ウユニ塩原について英語で書かれたメールの内容を理解する。気候についてや情景を描写する英語表現やまた行ってみたい場所について英語で述べる際に役立つ表現を学習し、話し手、聞き手の意図を的確に理解したり、表現したり、伝え合ったりする。	令和7年 6月指定日
6	長浜高校水族館部について書かれた英文を理解する。動名詞（動詞の-ing形）の理解を図る。	新出語句の意味や正しい使い方を知る。動名詞の理解を深め、それを用いて自分ができることについて述べる技術を身に付け、表現できるようにする。本文内容を確認し、長浜港徳水族館部について書かれた英文を理解し、クラブ活動や学校生活、将来の夢について役立つ英語表現を身に付ける。それを踏まえて好きなことや将来実現したいことについて英語で述べる時に役立つ表現を学習し、話し手、聞き手の意図を的確に理解したり、表現したり、伝え合ったりする。	令和7年 6月指定日
7	浮世絵について書かれた英文を理解する。受け身（be動詞＋過去分詞）の理解を図る。	新出語句の意味や正しい使い方を知る。受け身の理解を深め、それを用いて好きな絵の紹介とその理由について、表現できるようにする。本文内容を確認し、歌川国芳の浮世絵に関して書かれた英文を理解し、好きなものについて自分の考えを話したり、書いたりする時に役に立つ表現を学習し、話し手、聞き手の意図を的確に理解したり、表現したり、伝え合ったりする。	令和7年 9月指定日
8	アンネ・フランクについて書かれた英文を理解する。比較表現を用いた文の形・意味・用法の理解を図る。	新出語句の意味や正しい使い方を知る。比較表現の理解を深め、それを用いて、2つ以上のものを比べて説明する技術を身に付け、表現できるようにする。本文内容を確認し、アンネ・フランクについて書かれた英文を理解し、関心のある人物について自分の考えをや気持ちを伝える表現を学習し、学習し、話し手、聞き手の意図を的確に理解したり、表現したり、伝え合ったりする。	令和7年 9月指定日
9	ロボットカフェについて書かれた英文を理解する。現在完了形を用いた文の形・意味・用法を理解する。	新出語句の意味や正しい使い方を知る。現在完了形の理解を深め、それを用いて、ロボットについて自分が理解していることを表現できるようにする。本文内容を確認し、ロボットカフェについて書かれた英文を理解する。人の生活を豊かにするロボットについて自分の考えを伝える表現を学習し、話し手、聞き手の意図を的確に理解したり、表現したり伝え合ったりする。	令和7年 1 0月指定日
10	環境汚染問題について書かれたブログの英文を理解する。名詞を後ろから説明する分詞（後置修飾）を用いた文の形・意味・用法の理解を図る。	新出語句の意味や正しい使い方を知る。名詞を後ろから説明する分詞の理解を深め、それを用いて、環境汚染の問題に関して環境を守るためにできることについて描写することができるようにする。本文内容を確認し、プラスチックごみの問題についての事柄を整理・理解・学習し、話し手、聞き手の意図を的確に理解したり、表現したり伝え合ったりする。	令和7年 1 1月指定日
11	戦時中の沖縄とハワイについて書かれた英文を理解する。関係詞（関係代名詞）を用いた文の形・意味・用法の理解を図る。	進出語句の意味や正しい使い方を知る。関係詞（関係代名詞）の理解を深め、それを用いて、沖縄とハワイの両地域の現在の交流について考えたことを表現できるようにする。本文内容を確認し、戦時中の沖縄とハワイについての交流や文化・社会に対する理解を深める活動について考え学習し、話し手、聞き手の意図を的確に理解したり、表現したり、伝え合ったりする。	令和8年1月指定日
12	これまでの文法の基本的な使い方を理解し、それぞれのルールを確認し、実際に使えるように技能を身に付ける。	文法の文の形・意味・用法を理解し、正しい使い方を知る。コミュニケーションできる技能の定着を図るために相手の意図を的確に理解し、背景を意識し、簡潔で明確な言葉ぶ方法を理解できるようにする。	令和8年2月指定日

テスト			
時期	試験範囲	内容	
1学期	教科書pp.14～76	新出単語、本文理解、文法、英作文	
2学期	教科書pp.78～121	新出単語、本文理解、文法、英作文	
3学期	教科書pp.122～141,まとめ	新出単語、本文理解、文法、英作文	
評価の基準		知・技：言語材料を理解している。言語材料に留意して内容を把握する技能を身に付けている。内容について情報や考えなどを理由とともに伝える技能を身に付けている。 思・判・表：内容について詳細を整理して捉えている。聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考えなどを伝えあったり、発表したり、書いて伝えたりしている。 主体的：内容について詳細を整理して捉えている。聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考えなどを伝えあったり、発表したり、書いて伝えたりしている。	

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
必履修	2	英語	英語コミュニケーションⅠ	3	後藤千華
学習目標					
1.必要な情報を聞き取り,話し手の意図を把握したり,概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 2.必要な情報を読み取り,書き手の意図をを把握したり,概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 3.基本的な語句や文を用いて,情報や考え,気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり,論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。 4.基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持などを論理性に注意して話して伝えることができる。 5.基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。					
面接授業	全12回	合格時間数:		教科書	「AmityⅠ」開隆堂
レポート	全9通	合格通数:		副教材	「AmityⅠワークブック」開隆堂
単位認定試験	年間3回	単位認定30点以上		評定	5段階評価、観点別評価の実施
メディア利用	なし				
レポート					
回	単元	学習内容		教科書ページ	締切り
1	Lesson 6 Our School	新出語句の意味や正しい使い方を 知る。概要から細部への本文理解をイラスト選択、並び替え、true or falseから情報の概要や要点を書き取ったり、読み取ったりして情報を理解できるようにする。本文から言語材料（比較表現）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。自分の学校の特長や学校生活でしたいことについて英作文をする。		p.54～p.61	令和7年5月指定日
2	FOCUS+2、 COMMUNICATE+1	言語材料（不定詞/動名詞/比較）の理解を深めるために、Lesson5、6で扱った内容を確認する。さらにそれぞれの文法事項を用い、自分の考えを文章にまとめる。買い物の場面で の客と店員とのやり取りの技能を身に付け、様々な場面でも活用できる表現を身に付ける。		p.62～p.65	令和7年5月指定日
3	Lesson 7 Serendipity	新出語句の意味や正しい使い方を 知る。概要から細部への本文理解をイラスト選択、並び替え、true or falseから情報の概要や要点を書き取ったり、読み取ったりして情報を理解できるようにする。本文から言語材料（現在完了）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。世の中にあるセレ ンディピティを調べ英作文をする。		p.66～p.73	令和7年6月指定日
4	Lesson8① Sapeurs	新出語句の意味や正しい使い方を 知る。概要から細部への本文理解をイラスト選択、並び替え、true or falseから情報の概要や要点を書き取ったり、読み取ったりして情報を理解できるようにする。本文から言語材料（受動態）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。自分の宝物について英作文をする。		p.74～p.81	令和7年10月指定日
5	Lesson 8② Sapeurs	新出語句の意味や正しい使い方を 知る。概要から細部への本文理解をイラスト選択、並び替え、true or falseから情報の概要や要点を書き取ったり、読み取ったりして情報を理解できるようにする。本文から言語材料（受動態）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。サプールの人々の考えについて自分の考えを英作文をする。		p.74～p.81	令和7年10月指定日
6	Lesson 9① Special Makeup Effects	新出語句の意味や正しい使い方を 知る。概要から細部への本文理解をイラスト選択、並び替え、true or falseから情報の概要や要点を書き取ったり、読み取ったりして情報を理解できるようにする。本文から言語材料（分詞の形容詞的用法）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。自分が好きな映画やテレビ番組についての考えを英作文をする。		p.82～p.91	令和7年11月指定日
7	Lesson9② Special Makeup Effects	新出語句の意味や正しい使い方を 知る。概要から細部への本文理解をイラスト選択、並び替え、true or falseから情報の概要や要点を書き取ったり、読み取ったりして情報を理解できるようにする。本文から言語材料（分詞の形容詞的用法）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。世界で活躍するカズ・ヒロさんの生き方について自分が思うことを英作文をする。		p.82～p.91	令和7年11月指定日
8	Lesson10 Clean Water ①	新出語句の意味や正しい使い方を 知る。概要から細部への本文理解をイラスト選択、並び替え、true or falseから情報の概要や要点を書き取ったり、読み取ったりして情報を理解できるようにする。本文から言語材料（関係代名詞）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。自分の生活を振り返り、水のありがたさについて自分が考えることを英作文をする。		p.92～p.101	令和8年2月指定日
9	Lesson10 Clean Water ② FOCUS 3 COMMUNICATE 2	言語材料（現在完了/受動態/分詞/関係代名詞/関係副詞/仮定法）の理解を深めるために、Lesson7,8,9,10で扱った内容を確認する。関係副詞および仮定法については、教科書の例文で理解を深める。さらにそれぞれの文法事項を用い、自分の考えを文章にまとめる。道案内の場面での客やり取りの技能を身に付け、様々な場面でも活用できる表現を身に付ける。		p.102～p.105	令和8年2月指定日
面接指導					
回	目的	内容			時期
1	比較表現（原級）を学び、様々な場面で活用する。日本の特長ある高校の魅力を知らるとともに学校生活の話題やクラブについて意見交換する。	比較表現（原級）について形と意味を正確に把握し、様々な場面で活用する。好きな教科や学科、クラブ活動について、質問する、理由を述べる、説明する、提案する、共感するをペアでやり取りをする。本文内容を確認し、特長をもつ高校について内容と魅力について理解を深める。その内容の表現を学習し、話し手、聞き手の意図を的確に理解したり、表現したり伝え合ったりする。			令和7年4月指定日
2	比較表現（比較級、最上級）を学び、様々な場面で活用する。日本の特長ある高校の理解を深め、自校の誇れる点についてや高校生活についての考えのやりとりをする。	比較表現（比較級、最上級）について形と意味を正確に把握し、様々な場面で活用する。好きな教科や学科、クラブ活動について、質問する、理由を述べる、説明する、提案する、共感するをペアでやり取りをする。特長をもつ高校についての授業内容とその魅力について理解を深め、自校の誇れる点について紹介したり、高校生活でどんなことをしてみたいか、進んで話合う。			令和7年4月指定日
3	不定詞/動名詞/比較を理解の確認を行い、それらを用いて行う発表活動・対話活動を行う。	不定詞/動名詞/比較について形と意味を正確に把握し、文型の確認を行いそれを使って対話活動ができる。買い物の場面で使われる独特の言い回しや表現を理解し、対話練習し積極的にコミュニケーションを図る。			令和7年5月指定日

4	現在完了（継続）を学び、様々な場面で活用する。セレンディビティとは何かを理解し、偶然の大切さを理解する。	現在完了（継続）について形と意味を正確に把握し、様々な場面で活用する。本文読解では、セレンディビティとは何かを理解し本文の内容から偶然の大切さを学び、自分の考えを伝える学習から話し手、聞き手の意図を的確に理解したり、表現したり伝え合ったりする。	令和7年5月指定日
5	現在完了（経験）を学び、様々な場面で活用する。セレンディビティの事例から失敗作がどのようなきっかけでヒット商品になったのかを理解する。	現在完了（経験）について形と意味を正確に把握し、様々な場面で活用する。現在完了形を使い、アミューズメントパークに行ったことのある回数について、ペアでやり取りをする。本文読解では、セレンディビティの事例の1つとして、失敗作がどのようなきっかけでヒット商品になったのかを読み取り、自分の考えを伝える学習から話し手、聞き手の意図を的確に理解し、表現したり伝え合ったりする。	令和7年6月指定日
6	受動態を学び、様々な場面で活用する。サブールと呼ばれる人たちの日常生活や価値について理解する。	受動態の形と意味を正しく理解し、be動詞＋過去分詞の形になることと不規則変化をする動詞の確認する。身に着けているものがどの国で作られ、売られているかを受動態を用いてペアでやり取りをする。本文読解では、コンゴ共和国のサブールと呼ばれる人たちの日常生活や価値について理解を深め、自分の考えを伝える学習から話し手、聞き手の意図を的確に理解し、表現したり、伝え合ったりする。	令和7年6月指定日
7	受動態を学び、様々な場面で活用する。サブールがおしゃれをする理由について、彼らの現状と歴史的背景を理解する。	受動態の形と意味を正しく理解し、どのような文脈で受動態が用いられるかについて理解を深める。国の内外を問わず、平和の象徴になっているものについて受動態を用いてペアでやり取りをする。本文読解では、サブールがおしゃれをする理由について、彼らの現状と歴史的背景をから理解を深め、自分の考えを伝える学習から話し手、聞き手の意図を的確に理解し、表現したり、伝え合ったりする。	令和7年9月指定日
8	分詞の形容詞的用法を学び、様々な場面で活用する。特殊メイク技術の重要性とそれに対する情熱を理解する。	分詞の形容詞的用法（現在分詞の形容詞的用法）の形と意味を正しく理解する。分詞の形容詞的用法を使い、写真に写るものをペアに伝える活動をする。本文読解では、カズ・ヒロさんの特殊メイク技術の高さとすばらしさを知る中で、特殊メイクの重要性と彼の情熱を知り、それをもとに自分の考えを伝える学習から話し手、聞き手の意図を的確に理解し、表現したり、伝え合ったりする。	令和7年9月指定日
9	分詞の形容詞的用法を学び、様々な場面で活用する。カズ・ヒロさんのアカデミー賞受賞までのいきさつを知り、時系列で書かれた英文を読み解く。	分詞の形容詞的用法（現在分詞の形容詞的用法）の形の特徴と意味を知る。分詞の形容詞的用法を使い、写真に写るものをペアに伝える活動をする。本文読解では、カズ・ヒロさんがアカデミー賞を受賞するまでのいきさつを理解し、年号に着目し、時系列で書かれた英文を理解し、表現したり、伝え合ったりする。	令和7年10月指定日
10	関係代名詞を学び、様々な場面で活用する。水資源について学び理解する。	関係代名詞の目的格的用法について形の特徴と意味を知る。自分が何かを飲んでいる状況を想像し、関係代名詞を用いて、その状況をペアでやり取りする。本文読解は世界では水が貴重な資源であることを理解し、併せて具体的な数字を手掛かりに客観的な情報を得て、そこから自分の考えを伝えるため話し手、聞き手の意図を的確に理解し、表現したり伝え合ったりする。	令和7年11月指定日
11	関係代名詞を学び、様々な場面で活用する。バングラディッシュで活動する著者の活動内容を理解し、メッセージを理解する。	関係代名詞の主格的用法、thatの使い方について形の特徴と意味を知る。有名な偉人を知っているか、「学校を作るとしたらどんな学校をつくりたいか」を関係代名詞を使いペアでやり取りする。本文読解は小田兼利さんがバングラデシュで活動することになった経緯と若者に向けたメッセージを理解し、理解したことを伝えるため話し手、聞き手の意図を的確に理解し、表現したり伝え合ったりする。	令和8年1月指定日
12	完了形/受動態/分詞/関係代名詞/関係副詞/仮定法の理解の確認を行い、それらを用いて行う発表活動・対話活動を行う。	完了形/受動態/分詞/関係代名詞/関係副詞/仮定法の理解と文型の確認を行い、会話の中に利用する。理由を述べるを学ぶ。道案内の場面で使われる独特の言い回しや表現を理解する中で、場面に合った言語の使い方を知る。Reading教材の絵本の読み聞かせをペアやグループで行う。	令和8年2月指定日
テスト			
時期	試験範囲	内容	
1学期	教科書pp.54～73	新出単語、本文理解、英文法、英作文	
2学期	教科書pp.74～91	新出単語、本文理解、英文法、英作文	
3学期	教科書pp.92～105	新出単語、本文理解、英文法、英作文	
評価の基準		知・技：言語材料を理解している。言語材料に留意して内容を把握する技能を身に付けている。内容について情報や考えなどを理由とともに伝える技能を身に付けている。 思・判・表：内容について詳細を整理して捉えている。聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考えなどを伝えあったり、発表したり、書いて伝えたりしている。 主体的：内容について詳細を整理して捉えている。聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考えなどを伝えあったり、発表したり、書いて伝えたりしている。	

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者	
選択履修	2	英語	英語コミュニケーションⅡ	2	金谷 美砂子（高松校 進学2年）	
学習目標						
日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、 1. 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 2. 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 3. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。 4. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。						
面接指導	全8回		教科書	LANDMARK English Communication Ⅱ 啓林館		
レポート	全6通		副教材	サブノート、ワークブック		
単位認定試験	年間3回		評定	5段階評価、観点別評価の実施		
メディア利用	なし					
添削課題（レポート）						
回	単元	学習内容			教科書ページ	提出締切り
1	Lesson 1	新出語句の意味や正しい使い方を知る。概要から細部への本文理解をイラスト選択、並び替え、あるいは情報をまとめるなどしながら理解する。言語材料（分詞構文、SVO＋分詞、SV＋分詞、形式主語）を理解し、概要や要点をとらえる技能を身に付ける。			p.8～23	令和7年5月 指定日
2	Lesson 2	新出語句の意味や正しい使い方を知る。概要から細部への本文理解をイラスト選択、並び替え、あるいは情報をまとめるなどしながら理解する。言語材料（比較級＋than any other＋単数名詞、be seen doing、with＋O＋C、will have＋過去分詞、the＋比較級＋S＋V～、the＋比較級＋S＋V…）を理解し、概要や要点をとらえる技能を身に付ける。			p.24～39	令和7年6月 指定日
3	Lesson 3	新出語句の意味や正しい使い方を知る。概要から細部への本文理解をイラスト選択、並び替え、あるいは情報をまとめるなどしながら理解する。長文教材を用い、言語材料（前置詞句、名詞節、否定語を文頭に置く倒置、形式目的語、分詞構文、）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。			p.40～57	令和7年9月 指定日
4	Lesson 4	新出語句の意味や正しい使い方を知る。概要から細部への本文理解をイラスト選択、並び替え、あるいは情報をまとめるなどしながら理解する。言語材料（現在完了形の受動態、仮定法、enough to do、have＋O＋過去分詞）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。			p.64～79	令和7年11月 指定日
5	Lesson 5	新出語句の意味や正しい使い方を知る。概要から細部への本文理解をイラスト選択、並び替え、あるいは情報をまとめるなどしながら理解する。言語材料（非限定用法の関係代名詞、間接疑問のhow＋形容詞＋S＋V、疑問詞＋do you think＋S＋V、同格のthat節、）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。			p.80～95	令和7年11月 指定日
6	Lesson 6	新出語句の意味や正しい使い方を知る。概要から細部への本文理解をイラスト選択、並び替え、あるいは情報をまとめるなどしながら理解する。言語材料（分詞構文、仮定法、現在完了進行形、関係代名詞の省略）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。			p.96～113	令和8年2月 指定日
面接指導						
回	目的		内容		実施時期	
1	オリエンテーション・自己紹介		科目の概要を説明を聞いて理解し、英語コミュニケーションの重要性を理解する。基本的な自己紹介（名前、趣味、好きなものなど）を英語で行い、簡単な挨拶を練習する。		令和7年4月 指定日	
2	日常会話の基本表現を学ぶ		あいさつ、買い物、道案内など、日常的な場面で使う表現を学ぶ。リスニング練習を行い、実際の会話での使い方を確認する。ペアワークで短い会話のやり取りを行う。		令和7年5月 指定日	
3	好きなことや経験を伝える練習		「好きな食べ物」「最近の出来事」などのトピックで、自分の考えをシンプルな文章で伝える練習を行う。リーディング教材を用い、簡単な情報を読み取る練習も行う。		令和7年6月 指定日	
4	過去の出来事を伝える（過去形の活用）		旅行や思い出など、自分の過去の経験を話したり書いたりする練習を行う。リスニングでは、短いストーリーを聞いて要点をまとめる練習をする。		令和7年9月 指定日	
5	未来の予定や計画について話す（未来形の活用）		「週末の予定」「将来の夢」について話し、未来形（will、be going to）を活用した表現を学ぶ。リーディングでは、未来について書かれた文章を読んで要点をまとめる。		令和7年10月 指定日	
6	相手の意見を聞いて応答する練習		「あなたは犬派？猫派？」などの簡単な意見交換を通じて、相手の意見に対して自分の意見を述べる練習をする。リスニングでは、短い会話を聞き、質問に答える練習を行う。		令和7年11月 指定日	
7	実践的な会話練習（ロールプレイ）		これまで学んだ表現を使い、「レストランでの注文」「電話での予約」などのシナリオを想定したロールプレイを行う。スピーキングの実践力を高める。		令和7年11月 指定日	
8	総まとめ・発表		これまで学んだことを活かし、短いスピーチを行う（例：「私の好きなこと」「将来の夢」など）。教員からフィードバックを受け、今後の学習の方向性を確認する。		令和8年1月 指定日	
テスト						
時期	試験範囲		内容			
1学期	教科書p8～39		新出語、重要表現、本文読解問題、長文総合問題			
2学期	教科書p40～95		新出語、重要表現、本文読解問題、長文総合問題			
3学期	教科書p96～113		新出語、重要表現、本文読解問題、長文総合問題			
評価の基準	①知識・技能：英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた文章を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。 ②思考・判断・表現：コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取り文章の展開や書き手の意図、概要、要点、詳細を捉えている。 ③主体的に学習に取り組む態度：外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的、自律的に英語を読もうとしたり、書こうとしたりしている。					

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者	
選択履修	3	英語	英語コミュニケーションⅡ	4	金谷 美砂子（高松校 進学3年）	
学習目標						
日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、 1. 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 2. 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 3. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。 4. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。						
面接指導	全16回		教科書	LANDMARK English Communication II 啓林館		
レポート	全12通		副教材	サブノート、ワークブック		
単位認定試験	年間3回		評定	5段階評価、観点別評価の実施		
メディア利用	なし					
添削課題（レポート）						
回	単元	学習内容			教科書ページ	提出締切り
1	Lesson 1	新出語句の意味や正しい使い方を知る。概要から細部への本文理解を、並び替え、あるいは情報をまとめるなどしながら理解する。言語材料（分詞構文、SVO＋分詞、SV＋分詞、形式主語）を理解し、概要や要点をとらえる技能を身に付ける。			p.8～23	令和7年5月 指定日
2	Lesson 2	新出語句の意味や正しい使い方を知る。概要から細部への本文理解を、並び替え、あるいは情報をまとめるなどしながら理解する。言語材料（比較級＋than any other＋単数名詞、be seen doing、with＋O＋C、will have＋過去分詞、the＋比較級＋S＋V…）を理解し、概要や要点をとらえる技能を身に付ける。			p.8～23	令和7年5月 指定日
3	Lesson 3	新出語句の意味や正しい使い方を知る。概要から細部への本文理解を、並び替え、あるいは情報をまとめるなどしながら理解する。長文教材を用い、言語材料（前置詞句、名詞節、否定語を文頭に置く倒置、形式目的語、分詞構文、）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。			p.40～57	令和7年6月 指定日
4	Lesson 4	新出語句の意味や正しい使い方を知る。概要から細部への本文理解をイラスト選択、並び替え、あるいは情報をまとめるなどしながら理解する。言語材料（現在完了形の受動態、仮定法、enough to do、have＋O＋過去分詞）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。			p.64～79	令和7年6月 指定日
5	Lesson 5	新出語句の意味や正しい使い方を知る。概要から細部への本文理解をイラスト選択、並び替え、あるいは情報をまとめるなどしながら理解する。言語材料（非限定用法の関係代名詞、間接疑問のhow＋形容詞＋S＋V、疑問詞＋do you think＋S＋V、同格のthat節、）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。			p.80～95	令和7年9月 指定日
6	Lesson 6	新出語句の意味や正しい使い方を知る。概要から細部への本文理解を、並び替え、あるいは情報をまとめるなどしながら理解する。言語材料（分詞構文、仮定法、現在完了進行形、関係代名詞の省略）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。			p.96～113	令和7年9月 指定日
7	Lesson 7	新出語句の意味や正しい使い方を知る。概要から細部への本文理解を、並び替え、あるいは情報をまとめるなどしながら理解する。長文教材を用い、言語材料（if節の代わりにwithoutを使った仮定法、with＋O＋C）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。			p.114～131	令和7年10月 指定日
8	Lesson 8	新出語句の意味や正しい使い方を知る。概要から細部への本文理解を、並び替え、あるいは情報をまとめるなどしながら理解する。言語材料（enough＋to do、have＋O＋過去分詞、）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。			p.132～149	令和7年10月 指定日
9	Lesson 9 part 1,2,3	新出語句の意味や正しい使い方を知る。概要から細部への本文理解をイラスト選択、並び替え、あるいは情報をまとめるなどしながら理解する。言語材料（完了形の分詞構文、That is why～、prove（that）～、前置詞＋関係代名詞）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。			p.150～157	令和7年11月 指定日
10	Lesson 9 part 4,5	新出語句の意味や正しい使い方を知る。概要から細部への本文理解をイラスト選択、並び替え、あるいは情報をまとめるなどしながら理解する。言語材料（強調構文It is～that…、付帯状況を表す分詞構文、This is because～）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。			p.158～169	令和7年11月 指定日
11	Lesson 10 part 1,2,3	新出語句の意味や正しい使い方を知る。概要から細部への本文理解を、並び替え、あるいは情報をまとめるなどしながら理解する。言語材料（助動詞＋have＋過去分詞、as if＋仮定法過去、仮定法過去完了）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。			p.170～177	令和7年12月 指定日
12	Lesson 10 part 4,5	新出語句の意味や正しい使い方を知る。概要から細部への本文理解を、並び替え、あるいは情報をまとめるなどしながら理解する。言語材料（call＋O＋C、be expected to do、関係代名詞what、形式主語it）を理解し、概要や要点を捉える技能を身に付ける。			p.178～187	令和8年1月 指定日
面接指導						
回	目的		内容		実施時期	
1	オリエンテーション・自己紹介		シラバスの説明を聞いて理解し、論理的に英語を書く・話すポイントを学ぶ。簡単な自己紹介をし、意見を述べる練習を行う。		令和7年4月 指定日	
2	日常会話の基本表現を学ぶ		あいさつ、感謝、謝罪、依頼などの基本表現を学び、ロールプレイで実践練習を行う。リスニングでは簡単な会話を聞いて要点をつかむ練習をする。		令和7年4月 指定日	
3	好きなことや趣味について話す		「好きな食べ物・音楽・映画」「休日の過ごし方」などのトピックで、自分の考えを伝える練習をする。リーディングでは、自分の趣味について書かれた短い文章を読んで理解する練習を行う。		令和7年5月 指定日	
4	場所の説明・道案内をする		「学校までの行き方」「近所のお店の紹介」などをテーマに、道案内や場所の説明をする練習を行う。リスニングでは、道案内の会話を聞いて理解する練習を行う。		令和7年5月 指定日	
5	過去の出来事を伝える（過去形の活用）		「昨日の出来事」「楽しかった思い出」などのトピックで、過去の出来事を話す練習を行う。リーディングでは、短い物語を読んで内容を理解する練習をする。		令和7年6月 指定日	
6	未来の予定や計画を話す（未来形の活用）		「来週の予定」「将来の夢」などのトピックで、未来の出来事を話す練習を行う。リスニングでは、未来についての会話を聞いて理解する練習を行う。		令和7年6月 指定日	
7	買い物や注文の英会話		「レストランでの注文」「お店での買い物」などの場面を想定し、英語でやりとりする練習を行う。ロールプレイを通じて実践力を高める。		令和7年9月 指定日	
8	依頼や申し出の表現を学ぶ		「お願いをする」「申し出をする」などの表現を学び、会話の中で自然に使えるようにする。リスニングでは、依頼の表現が使われた会話を聞いて内容を理解する。		令和7年9月 指定日	
9	感想や意見を述べる練習		「最近読んだ本・観た映画」「お気に入りの場所」などについて、自分の意見や感想を述べる練習を行う。リーディングでは、他の人の感想文を読んで要点をまとめる。		令和7年10月 指定日	
10	電話での会話練習		「予約をする」「問い合わせをする」など、電話での英会話表現を学ぶ。リスニングでは、電話での会話を聞いて情報を聞き取る練習を行う。		令和7年10月 指定日	
11	相手の意見を聞いて応答する練習		相手の意見を聞き、賛成・反対・追加の意見を述べる練習を行う。「あなたは犬派？猫派？」などの簡単なディスカッションを行う。		令和7年10月 指定日	
12	ロールプレイで実践練習		「ホテルでのチェックイン」「病院での受診」など、実際の場面を想定してロールプレイを行い、実践的な英語力を鍛える。		令和7年11月 指定日	

13	スピーチ練習①（短いスピーチ）	2～3文で簡単なスピーチを作り、人前で話す練習を行う。発音やイントネーションに注意しながら話すことを意識する。	令和7年11月 指定日
14	スピーチ練習②（発展）	5～7文程度のスピーチを作成し、聞き手を意識した話し方を練習する。表情やジェスチャーの使い方も意識しながら発表する。	令和7年11月 指定日
15	総まとめ・会話練習	これまで学んだ表現を使って自由会話をを行い、実際のコミュニケーションの中で表現を活用できるようにする。	令和7年11月 指定日
16	発表と振り返り	これまでの学習を振り返り、短いスピーチを発表する。教員からフィードバックを受け、今後の学習の方向性を確認する。	令和8年1月 指定日
テスト			
時期	試験範囲	内容	
1学期	教科書p8～79	新出語、重要表現、本文読解問題、長文総合問題	
2学期	教科書p80～169	新出語、重要表現、本文読解問題、長文総合問題	
3学期	教科書p170～187	新出語、重要表現、本文読解問題、長文総合問題	
評価の基準		①知識・技能：英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について書かれた文章を読んで、その内容を捉える技能を身に付けている。 ②思考・判断・表現：コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を読み取り文章の展開や書き手の意図、概要、要点、詳細を捉えている。 ③主体的に学習に取り組む態度：外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的、自律的に英語を読もうとしたり、書こうとしたりしている。	

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
選択履修	1	英語	論理・表現Ⅰ	2	金谷 美砂子（高松校 進学1年）
学習目標					
「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図るために必要な発信能力を育成するとともに、論理の構成や展開を考察することで、情報や考えなどを論理的に工夫しながら伝える能力を養う。					
(1) 話すこと[やり取り] 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や考えを伝え合ったり、意見や主張などの論理の構成や展開を工夫して伝え合うことができるようにする。					
(2) 話すこと[発表] 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や考え、また意見や主張などの論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。					
(3) 書くこと 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や考え、また意見や主張などの論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。					
面接授業	全8回	合格時間数：	教科書	「Standard Vision Quest English Logic and ExpressionⅠ」啓林館	
レポート	全6通	合格通数：	副教材	ワークブック	
単位認定試験	年間3回	単位認定30点以上	評定	5段階評価、観点別評価の実施	
メディア利用	なし				
添削課題（レポート）					
回	単元	学習内容		教科書ページ	提出締切り
1	Lesson 1, 2	様々な疑問文や命令文、感嘆文を適切に作り、それに応答する。また、単文、重文、複文の構成を理解し、まとまりのある文で表現する。5つの文型と〈There＋be動詞＋主語〉の構文を理解し、文を組み立てる。また自動詞と他動詞を使い分ける。学校のルールや好きな科目について書いて伝える。普段の生活や自分の部屋にあるものについて書いて説明する。		p.7~24	令和7年5月指定日
2	Lesson 3, 4	基本時制の構造と概念、また、現在・過去・未来の完了形の概念を理解し、伝えたいことを適切な時制を用いて伝える。最近の休日や予定していることについて書く。行ったことのある場所や初めて何かを経験した時のことについて書いて伝える。		p.25~42	令和7年6月指定日
3	Lesson 5, 6	様々な助動詞の意味と用法、また受動態を用いた様々な文の構造や意味を理解し、適切に使い分けて表現する。家のルールや小学生の頃のこと、いつかしてみたいことについて書く。お薦めの小説や最近驚いたことについて書く。p53,54を読んで、文章をパラグラフに発展させる方法を学ぶ。		p.43~62	令和7年9月指定日
4	Lesson 7, 8	様々な不定詞の用法、また動名詞の様々な用法を学び、詳細な情報を伝える。感謝・謝罪・弁解する際や、相手を誘ったり、申し出たりする時に使用される表現を学ぶ。自分の夢、高校生が日常生活で行うべき大切なこと、また、得意なスポーツや活動、楽しみにしていることについて書く。		p.63~84	令和7年11月指定日
5	Lesson 9, 10	名詞を修飾したり補語になる分詞の用法や分詞構文、また関係詞の様々な用法を学ぶ。人や物事について情報を加えて説明したり、言い換えや要約をしたりする。家族や友だちと撮った写真や日本人の一般的な特徴について、また家族や友だちの紹介、どんな国に住みたいかについて書く。		p.85~104	令和7年11月指定日
6	Lesson 11, 12	比較に関する様々な用法を学習し、仮定法を用いて、事実と違うことを述べる練習をする。提案や称賛する表現、また助言や願望を表す表現を学ぶ。本と映画のどちらに興味があるか、またタイムマシンがあったら過去と未来のどちらに行きたいかについて書いて伝える。		p.105~122	令和8年2月指定日
面接指導					
回	目的	内容			実施時期
1	オリエンテーション・基本文型の確認	科目の概要を説明し、英語論理・表現の学習の進め方を理解する。基本文型（SVC、SVO、SVOOなど）を確認し、例文を使って理解を深める。			令和7年4月指定日
2	時制（現在・過去・未来）の活用	現在形・過去形・未来形の違いを理解し、文の組み立て方を学ぶ。簡単な文章を作成し、時制の使い分けを練習する。			令和7年5月指定日
3	助動詞の使い方（can, must, should など）	助動詞の役割と使い方を学び、義務・許可・推量などの表現を練習する。自分の意見を述べる短い文章を書いてみる。			令和7年6月指定日
4	不定詞・動名詞・分詞の使い方（to do / doing / done）	「～すること」「～するために」のような表現を学び、目的や理由を表す文章を作る。自分の目標や趣味について書いてみる。			令和7年9月指定日
5	関係詞を使った表現（who, which, that）	関係詞を使い、より詳しい情報を加えた文章を作る。「私の好きな場所」「尊敬する人」などのテーマで文章を書き、表現を豊かにする。			令和7年10月指定日
6	比較表現を学ぶ（原級・比較級・最上級）	原級・比較級・最上級を用いた表現を学び、物事を比較する文章を作成する。「映画と本、どちらが好き？」などのテーマで文章を書いてみる。			令和7年11月指定日

7	仮定法の活用 (If I were ~, I would ~.)	仮定の表現を学び、現実と異なる状況を想定して表現する。「もし宝くじに当たったら」「もし〇〇に行けたら」などのテーマで文章を書いてみる。	令和 7 年11月指定日
8	総まとめ・意見を述べる文章を書く	これまで学んだ文法を活用し、自分の考えをまとめた文章を書く。自分の夢や目標について短いエッセイを作成し、発表する。	令和 8 年1月指定日
時期	試験範囲		内容
1学期	教科書p7～42		文の種類・文型と動詞・時制・完了形
2学期	教科書p43～104		助動詞・受動態・不定詞・動名詞・分詞・関係詞
3学期	教科書p105～122		比較・仮定法
評価の基準	①知識・技能：外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。外国語の技能について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。 ②思考・判断・表現：場面、目的、状況等に応じて、日常的や社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度：他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。		

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
選択必修	2	英語	論理・表現Ⅰ	2	後藤 千華
学習目標					
「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」「書くこと」を中心とした言語活動を通して、情報や考えなどを論理的に工夫しながら伝える能力を養う。					
(1) 話すこと〔やり取り〕 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。					
(2) 話すこと〔発表〕 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする					
面接授業	全8回	合格時間数：	教科書	「VISTA English Logic and ExpressionⅠ」三省堂	
レポート	全6通	合格通数：	副教材	「VISTA English Logic and ExpressionⅠワークブック」三省堂	
単位認定試験	年間3回	単位認定30点以上	評定	5段階評価、観点別評価の実施	
メディア利用	なし				
レポート					
回	単元	学習内容		教科書ページ	締切り
1	Let's start Lesson1	品詞や語順等を理解するために例文、文の並び替えなどから理解を深める。現在形（be動詞、一般動詞）の文に慣れる。自己紹介にあった自分の気持ちや考えを整理し平易な語句や文を用いて表現できるようになる。		p.6～p.16	令和7年5月指定日
2	Lesson2 Lesson3	過去形（be動詞・一般動詞）、進行形（現在・過去）の文に慣れる。自分の選んだ歴史上の人物について考えをまとめ、表現する。出かける場所や行動などの日常表現を確認し、自分の言いたいことを伝えるSNSでのメッセージに慣れる。		p.17～p.28	令和7年6月指定日
3	Gトレ やり取りのコツ 「買い物」の表現 Lesson4	L1～L3までの学んだ文法事項の確認する。「やり取り」に役立つ表現を学ぶ。未来表現（will/be going to）の文に慣れ、夏休みの予定を伝える表現を理解する。買い物で用いられる基本的な会話を確認する。		p.29～p.36	令和7年9月指定日
4	Lesson5 Lesson6	現在完了形（経験/継続/完了/現在完了進行形）の文に慣れる。今までに見たり、聞いたりした忘れられない経験について表現する。また、ホストファミリーへ自分の言いたいことを伝えるメールでの表現に慣れる。		p.37～p.48	令和7年10月指定日
5	Gトレ ライティングのコツ 「レストラン」「カフェ」の表現 Lesson7	L4～L6までの学んだ文法事項の確認する。ライティングのための「パラグラフの型」を学ぶ。比較級の文に慣れる。「レストラン」や「カフェ」で用いられる基本的な会話を確認する。		p.49～p.56	令和7年11月指定日
6	Lesson8	助動詞の文に慣れる。また、すぐれた発明品について、選んだ理由を添えて説明する表現に慣れる。		p.57～p.62	令和8年2月指定日
面接指導					
回	目的	内容			時期
1	ガイダンス。基礎事項の復習、動詞の現在の形の用法に慣れる。 自分のことを表現する。	品詞や文型の基礎を理解する。be動詞・一般動詞の現在形を理解し、学んだ表現を使い、英語で自分の情報を伝え、相手の発言にも英語で共感を示しながらやり取りをする。自己紹介を通して、自分の気持ちや考えを整理し、伝えたり、相手の事を尋ねたりする表現を学ぶ。			令和7年4月指定日
2	be動詞・一般動詞の過去形の用法に慣れる。 歴史上の人物について紹介する。	be動詞・一般動詞の過去形を理解し、Key Expressionsのモデル文から用法に慣れる。教科書を参考に興味のある歴史上の人物について発表できるよう、語句や表現を学んで構成しスピーチしようとする。			令和7年4月指定日
3	現在・過去進行形の用法に慣れる。 状況を伝える表現を学ぶ。	現在・過去進行形を理解し、Key Expressionsのモデル文から用法に慣れる。教科書を参考に自分の日常の場面を想定しSNSでの英語のやりとりを行う活動を目指す。SNSで使われる短縮語についても学習する。L1～L3までの文法事項を確認し、表現力を磨く。			令和7年6月指定日
4	買い物をする際の表現を学び、やり取りする。未来表現に慣れる。	未来表現を理解し、Key Expressionsのモデル文から用法に慣れる。教科書を参考に未来表現を使い、ペアやグループ間でやり取りする。「買い物」で使われる基本的な表現に慣れ、ペアやグループでロールプレイする。			令和7年9月指定日
5	現在完了形（経験/継続）の用法に慣れる。 自分の経験について発表する。	現在完了形を理解し、Key Expressionのモデル文から用法に慣れる。教科書を参考に今までの経験を一つ選び、自分の経験を表現し、ペア、グループでのスピーチを行おうとする。			令和7年10月指定日
6	現在完了形（完了/現在完了進行形）の用法に慣れる。 e-mailの作成に取り組む。	現在完了形を理解し、Key Expressionsのモデル文から用法に慣れる。世界の国々とその文化を確認し、その国を訪問する期待をホームステイ先の相手にe-mailを書く定型表現を学び、教科書を参考に作成しようとする。L4～6までの文法事項を確認し、表現力を磨く。			令和7年11月指定日
7	レストランやカフェでの表現を学び、やり取りする。比較表現に慣れる。	比較を理解し、Key Expressionsのモデル文から用法に慣れる。様々なものの高さ、長さ、大きさなどの比較の表現をゲームを通じて比較を表す表現力を磨く。レストランやカフェで使われる基本的な表現に慣れ、ペアやグループでロールプレイする。			令和7年11月指定日
8	助動詞の用法に慣れる。 発明品について発表する。	助動詞を理解し、Key Expressionsのモデル文から用法に慣れる。すぐれた発明品について学び、教科書を参考に発表したい発明品について平易な英語でスピーチ原稿を作り、スピーチを行おうとする。			令和8年2月指定日
テスト					
時期	試験範囲	内容			
1学期	教科書pp.6～32、110、111、121、122	Let's start、L1～3 動詞の現在形、動詞の過去形、現在・過去進行形、「買い物」の表現			
2学期	教科書pp.33～56、111～113、122、123	L4～7 未来表現、現在完了形、比較、ライティングのコツ、「レストラン」「カフェ」での表現			
3学期	教科書pp.57～62、113	L8 助動詞			
評価の基準		知識・技能：適切な言語材料を用いて、論理の構成や展開を工夫して、情報や考えを伝える技能を身に付けている。 思考・判断・表現：適切な表現を用いて、論理の構成や展開を工夫して、情報や考えを表現する力を身に付けている。 主体的：適切な表現を用いて、論理の構成や展開を工夫して、話して伝え合ったり、発表したりしようとしている。また、書いて伝えようとしている。			

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
選択履修	3	英語	論理・表現Ⅰ	2	後藤千華
学習目標					
「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」「書くこと」を中心とした言語活動を通して、情報や考えなどを論理的に工夫しながら伝える能力を養う。					
(1) 話すこと〔やり取り〕 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。					
(2) 話すこと〔発表〕 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする					
面接授業	全8回	合格時間数：	教科書	『VISTA English Logic and ExpressionⅠ』三省堂	
レポート	全6通	合格通数：	副教材	『VISTA English Logic and ExpressionⅠワークブック』三省堂	
単位認定試験	年間3回	単位認定30点以上	評定	5段階評価、観点別評価の実施	
メディア利用	なし				
レポート					
回	単元	学習内容		教科書ページ	締切り
1	Lesson9 Gトレ	助動詞（must/have to / should)の文に慣れる。今、地球上で起きている環境問題について理解し、それを解決するために自分の考えを表現する。L7～9までの学んだ文法事項を確認する。		p.63～p.69	令和7年5月指定日
2	スピーチとプレゼンテーション 「道案内」表現 Lesson10	スピーチとプレゼンテーションについて学び、それぞれの「型」に慣れる。道案内に必要な表現を理解し、確認する。受動態の文に慣れる。		p.70～p.76	令和7年6月指定日
3	Lesson11	不定詞（名詞的用法）／動名詞の文に慣れる。将来、自分がなりたい職業について理由を順序だてて書く。		p.77～p.82	令和7年9月指定日
4	Lesson12 Gトレ ディスカッションのコツ	不定詞（副詞的用法/形容詞的用法）の文に慣れる。自分の選んだ世界遺産を紹介するために、出展・引用を示す表現に慣れる。L10～12までの学んだ文法事項の確認をする。 ディスカッションのポイント、例、必要となる表現を学ぶ。		p.83～p.91	令和7年10月指定日
5	「病気やけがをしたとき」の表現 Lesson13 Lesson14	病気やけがをしたときによく使う表現を学ぶ。分詞の文に慣れる。ピクトグラムの意味を理解しそれを説明する表現を学ぶ。 関係代名詞の文に慣れる。		p.92～p.102	令和7年11月指定日
6	Lesson15 ディベートのコツ	仮定法の文に慣れる。日本文化について紹介するために、例を挙げる表現に慣れる。SDGsについて学び、意見、考えをまとめる。ディベートのポイント、例、必要となる表現を学ぶ。		p.103～p.109	令和8年1月指定日
面接指導					
回	目的	内容			時期
1	地球上でおきている環境問題について理解し、それを解決するためのホームページを作成する。	助動詞（must/have to / should)を理解し、用法に慣れる。ホームページを用いて何かを不特定多数の人に訴えるためには客観的事実と強いメッセージ、写真、文字のスタイルなど視覚的な用法が必要であることを理解し、ヒントのホームページを参考に考えを深めていく。L7～9までの文法を確認する。			令和7年4月指定日
2	道案内の表現を学ぶ。さまざまな芸術作品を学び、それが誰によって制作されたかを受動態を使って表現する。	受動態を理解し、用法に慣れる。受動態の形を理解しゲーム形式で正しい文章を作る練習をする。ロールプレイを取り入れ、道案内の表現を理解できるようにする。			令和7年5月指定日
3	職業について学び、将来自分がなりたい職業についてスピーチを作り発表する。	不定詞（名詞的用法）／動名詞を理解し、用法に慣れる。なりたい職業を考え、教科書を参考にスピーチ原稿を書き上げられるよう目指す。スピーチに使う独特な言い回しや、ことわざについても学習する。			令和7年6月指定日
4	観光地として人気の高い世界遺産の歴史や特徴を学び、自分の選んだ世界遺産を紹介するホームページを作成する。	不定詞（副詞的用法/形容詞的用法）を理解し、用法に慣れる。第1回目に学んだホームページの作成方法をもとに紹介したい世界遺産を選び、HINTSを参考に内容を考える。世界遺産についても理解し、見識を広げる。L10～12までの文法を確認する。			令和7年9月指定日
5	病気やけがをした時の表現を学び、実際に使えるようにする。駅や公共施設でよく見るピクトグラムについて説明する表現を学ぶ。	分詞を理解し、用法に慣れる。ピクトグラムや図、表の説明をクイズ形式で学び、理解する。本課で学習する分詞による名詞を修飾する表現を学ぶ。病気やけがをしたときに使う表現を確認し、ロールプレイを行う。			令和7年9月指定日
6	日本文化について学び、紹介したい日本を選んでスピーチをする。	関係代名詞を理解し、用法を慣れる。日本の文化を確認し、HINTSを参考に説明する文化を選び、ペアーでプレゼンテーションしあう。			令和7年10月指定日
7	SDGsについて理解し、英語で自分の意見を書く。	仮定法を理解し、用法に慣れる。SDGsの17の目標を理解し、その内容について表現する。ICTを用い、地球が抱える問題を動画等で確認し、17の目標のどれに関連しているかグループ、全体で確認する。			令和7年11月指定日
8	ディベートに取り組む 2年間の論理・表現のまとめ	ディベートはどのような活動であるかを理解し、役立つ表現を確認し、簡単なテーマでクラス全体で取り組む。L13～15までの学習のまとめ。			令和8年1月指定日

テスト		
時期	試験範囲	内容
1学期	教科書pp.63～82、114、115	L 9～1 1 助動詞、スピーチとプレゼンテーション、「道案内」、受動態、不定詞（名詞的用法）/ 動名詞
2学期	教科書pp.83～102、115、116	L 1 2～1 4 不定詞（副詞的用法/ 形容詞的用法）、ディスカッションのコツ、「病氣やけが」、分詞、関係代名詞
3学期	教科書pp.103～109、117	L 1 5 仮定法
評価の基準		知識・技能：適切な言語材料を用いて、論理の構成や展開を工夫して、情報や考えを伝える技能を身に付けている。 思考・判断・表現：適切な表現を用いて、論理の構成や展開を工夫して、情報や考えを表現する力を身に付けている。 主体的：適切な表現を用いて、論理の構成や展開を工夫して、話して伝え合ったり、発表したりしようとしている。また、書いて伝えようとしている。

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
選択履修	2	英語	論理・表現Ⅱ	2	金谷 美砂子（高松校 進学2年）
学習目標					
「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図るために必要な発信能力を育成するとともに、論理の構成や展開を考察することで、情報や考えなどを論理的に工夫しながら伝える能力を養う。					
(1) 話すこと[やり取り] 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や考えを伝え合ったり、意見や主張などの論理の構成や展開を工夫して伝え合うことができるようにする。					
(2) 話すこと[発表] 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や考え、また意見や主張などの論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。					
(3) 書くこと 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や考え、また意見や主張などの論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。					
面接授業	全8回	合格時間数：	教科書	「Standard Vision Quest English Logic and ExpressionⅡ」啓林館	
レポート	全6通	合格通数：	副教材	ワークブック	
単位認定試験	年間3回	単位認定30点以上	評定	5段階評価、観点別評価の実施	
メディア利用	なし				
添削課題（レポート）					
回	単元	学習内容		教科書ページ	提出締切り
1	Lesson 1	主語の選択や主語になる名詞句、形式主語の概念を理解し、適切な文を組み立てる。自分の目標と達成のために必要なことについて、書いて伝える。様々な「つなぎの言葉」の用法を理解し、論理構成が分かりやすく、まとまりのある文章を書く。		p.8～11	令和7年5月指定日
2	Lesson 2	自動詞と他動詞の使い分けたり、群動詞を適切に用いたりして文を組み立てる。留学生のために開催するイベントについて英文で書いてまとめる。パラグラフの基本構成を学び、列挙・順序のパターンを用いた論理的な構成やつなぎの言葉を適切に用いて、書いて伝える。		p.12～15	令和7年6月指定日
3	Lesson 3	現在・過去・未来を表すために、適切な動詞の形や文の構造を用いる。自分の好きなアスリートと実績について、例示・追加を表すための、適切なつなぎの言葉を用いた、論理的なパラグラフの構成を意識して書く。		p.18～21	令和7年9月指定日
4	Lesson 4	義務・必要・推量を表す助動詞を用いた適切な文の形や構造を理解し、文を組み立てる。ソーシャルメディアの使用について、比較・対象のパターンを用いた論理的なパラグラフの構成を意識して、自分の意見や主張を書く。		p.22～25	令和7年11月指定日
5	Lesson 5	形容詞・分詞・前置詞句や不定詞による名詞の修飾を用いた適切な文の構造を理解して、文を組み立てる。環境問題の原因とその影響、およびそれに対する自分の意見や主張を、原因・理由・結果について述べる論理的なパラグラフの構成やつなぎの言葉を適切に用いて、書いて伝える。		p.28～31	令和7年11月指定日
6	Lesson 6	関係代名詞や関係副詞を用いた文の構造を理解し、文を組み立てる。外国人観光客が最も訪れる日本の場所について、主張や理由の根拠となる情報を示し、引用や出典を表す表現を適切に用いて書いて伝える。		p.32～35	令和8年2月指定日
面接指導					
回	目的	内容			実施時期
1	導入：英語での論理的表現とは？	本科目の概要を説明を聞いて理解し、論理的に英語を書く・話す際のポイントを学ぶ。自己紹介を通じて簡単な意見を述べる練習を行う。			令和7年4月指定日
2	比較表現の復習と活用	比較級・最上級の使い方を確認し、身近なもの（例：映画と本の比較）について英語で意見を書く・話す。			令和7年5月指定日
3	関係詞を用いた説明	関係代名詞・関係副詞を用いた複文を作成し、家族・友人・住みたい町について説明する練習を行う。			令和7年6月指定日
4	提案・称賛の表現を学ぶ	提案（How about ～? Why don't you ～?）や称賛（That's amazing! You did a great job!）の表現を学び、会話形式で実践する。			令和7年9月指定日
5	意見文の構成（序論・本論・結論）	意見文の基本構成を学び、「あなたが今一番大切にしていること」について英語で書く練習を行う。			令和7年10月指定日
6	ディスカッション練習（賛成・反対）	"Online learning is better than traditional learning."などのテーマで、簡単な賛成・反対の意見を述べる。			令和7年11月指定日
7	実践的なスピーキング演習	これまで学んだ表現を使い、2～3分間のスピーチや会話練習を行う。聞き手を意識した表現の工夫を学ぶ。			令和7年11月指定日

8	総まとめ・発表	これまでの学習を振り返り、短いエッセイやスピーチを発表する。教員からフィードバックを受け、今後の課題を確認する。	令和8年1月指定日
時期	試験範囲		内容
1学期	教科書p8～15		主語、動詞
2学期	教科書p18～31		時制・完了形、助動詞、形容詞句・形容詞の用法
3学期	教科書p32～35		関係詞
評価の基準	①知識・技能：外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。外国語の技能について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。 ②思考・判断・表現：場面、目的、状況等に応じて、日常的や社会的な話題について、情報や考えなどを外国語での確に理解したり適切に伝え合ったりしている。聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度：他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。		

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
選択履修	3	英語	論理・表現Ⅱ	2	金谷 美砂子（高松校 進学3年）
学習目標					
「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図るために必要な発信能力を育成するとともに、論理の構成や展開を考察することで、情報や考えなどを論理的に工夫しながら伝える能力を養う。					
(1) 話すこと[やり取り] 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や考えを伝え合ったり、意見や主張などの論理の構成や展開を工夫して伝え合うことができるようにする。					
(2) 話すこと[発表] 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や考え、また意見や主張などの論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。					
(3) 書くこと 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、情報や考え、また意見や主張などの論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。					
面接授業	全 8 回	合格時間数：	教科書	「Standard Vision Quest English Logic and Expression Ⅱ」啓林館	
レポート	全 6 通	合格通数：	副教材	ワークブック	
単位認定試験	年間 3 回	単位認定 3 0 点以上	評定	5 段階評価、観点別評価の実施	
メディア利用	なし				
添削課題（レポート）					
回	単元	学習内容		教科書ページ	提出締切り
1	Lesson 1, 2	主語になる名詞句、形式主語、また自動詞と他動詞および群動詞を適切に用いて文を組み立てる。パラグラフの基本構成を学び、論理的な構成やつなぎの言葉を適切に用いて、まとまりのある文章を書く。		p.8~17	令和 7 年5月指定日
2	Lesson 3, 4	現在・過去・未来を表すために、また義務・必要・推量を表すための助動詞を用いた適切な文の形や構造を理解する。自分の好きなアスリートと実績について、また高校生のソーシャルメディアの使用について、パラグラフの構成に意識して、自分の意見や主張を書いて伝える。		p.18~27	令和 7 年6月指定日
3	Lesson 5, 6	形容詞・分詞・前置詞句や不定詞による名詞の修飾、および関係代名詞や関係副詞を用いた文の構造を理解する。環境問題、および訪れたい国と文化についてパラグラフの構成やつなぎの言葉を適切に用いて、書いて伝える。		p.28~37	令和 7 年 9 月指定日
4	Lesson 7, 8	不定詞の副詞的用法や分詞を使った副詞句の修飾を用いた文の形や構造を理解する。直接話法と間接話法、また様々な伝達表現を用いて適切な文の形や構造を組み立てる。また、文章全体の構成と要点・要約をまとめる手順を理解する。		p.38~47	令和7年11月指定日
5	Lesson 9,10, 11	条件や仮定を用いた文の構造、原級・比較級・最上級、また可算名詞と不可算名詞の使い分けや数量を表す表現、割合・数量の変化を表す表現や文の構造を理解し、文を組み立てる。スピーチやプレゼンテーションの構成や伝え方を意識して原稿を作成する。		p.48~61	令和7年11月指定日
6	Lesson 12	否定を表す表現や文の構造を理解し、文を組み立てる。ディベートやディスカッションのルールや手順を理解し、意見や主張をまとめる練習をする。		p.62~67	令和 8 年1月指定日
面接指導					
回	目的	内容			実施時期
1	導入：英語での論理的表現とは？	本科目の概要を説明を聞いて理解し、論理的に英語を書く・話す際のポイントを学ぶ。自己紹介を通じて簡単な意見を述べる練習を行う。			令和7年4月指定日
2	比較表現の復習と活用	比較級・最上級の使い方を確認し、身近なもの（例：映画と本の比較）について英語で意見を書く・話す。			令和7年5月指定日
3	関係詞を用いた説明	関係代名詞・関係副詞を用いた複文を作成し、家族・友人・住みたい町について説明する練習を行う。			令和7年6月指定日
4	提案・称賛の表現を学ぶ	提案（How about ~? Why don't you ~?）や称賛（That's amazing! You did a great job!）の表現を学び、会話形式で実践する。			令和 7 年9月指定日
5	意見文の構成（序論・本論・結論）	意見文の基本構成を学び、「あなたが今一番大切にしていること」について英語で書く練習を行う。			令和 7 年10月指定日
6	ディスカッション練習（賛成・反対）	"Online learning is better than traditional learning."などのテーマで、簡単な賛成・反対の意見を述べる。			令和7年11月指定日
7	実践的なスピーキング演習	これまで学んだ表現を使い、2～3分間のスピーチや会話練習を行う。聞き手を意識した表現の工夫を学ぶ。			令和 7 年11月指定日
8	総まとめ・発表	これまでの学習を振り返り、短いエッセイやスピーチを発表する。教員からフィードバックを受け、今後の課題を確認する。			令和 8 年1月指定日

時期	試験範囲	内容
1学期	教科書p8～27	主語、動詞、時制・完了形、助動詞
2学期	教科書p28～61	形容詞句・形容詞的用法、関係詞、副詞・副詞句、話法・伝達表現、原級・比較級・最上級、
3学期	教科書p62～67	仮定法、数量を表す表現、否定
評価の基準	①知識・技能：外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。外国語の技能について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。 ②思考・判断・表現：場面、目的、状況等に応じて、日常的や社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。聞いたり読んだりしたことなど ③主体的に学習に取り組む態度：他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりし	

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
必修	2	家庭	家庭総合	2	前田 美樹
学習目標					
生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次の通り育成することを目指す。					
(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的、総合的に身に付けるようにする。					
(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。					
(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。					
面接指導	4回		教科書	「家庭総合 自立・共生・創造」東京書籍	
レポート	全4通		副教材	無	
単位認定試験	年間3回	単位評定30点以上	評定	5段階評価、観点別評価の実施	
メディア利用	無				
添削課題（レポート）					
回	単元	学習内容		教科書ページ	提出締切り
1	第2章 人生をつくる	生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。 よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結びつきを理解する。 社会制度としての家族や家族と法律を理解する。 誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるよう、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて理解する。		P20～P43	1学期レポート 提出最終日
2	第6章 食生活をつくる	よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。 自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。		P104～P121	2学期レポート 提出最終日
3	第5章 共に生き、共に支える	誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。 私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たし、つながっていけばよいか、考える。		P94～P103	2学期レポート 提出最終日
4	第9章 経済生活を営む	自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。 毎日の生活におけるさまざまな契約について理解する。 販売方法や支払方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう、契約の重要性について理解する。 消費者には権利と責任があることを理解する。 消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者保護制度について理解する。 生涯を見通して家計をマネジメントする力をつけるため、家計の構造やリスクを踏まえた金融資産のマネジメントについて理解する。		P230～P251	3学期レポート 提出最終日
面接指導					
回	目的		内容		実施時期
1	誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造するには、どのような社会を実現すればよいかを学ぶ。		生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題について理解する。 家族・家庭の機能と意義について理解を深める。 家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深める。		1学期
2	自分と家族の食生活を計画・管理できるようになるために、食生活の特徴や課題を理解し、「健康によい、栄養バランスのよい食事」とはどのようなものかを学ぶ。		食生活を取り巻く課題など、食と人との関わりについて理解する。 栄養の特徴や食品の栄養的特質について理解する。		2学期
3	地域の防災について理解し、家庭や地域及び社会の一員として災害時に共に支え合う重要性について学ぶ。		地域の防災について理解を深める。 家庭や学校周辺の防災マップを確認し、連絡方法や避難方法について理解する。 災害に備えての自宅の備蓄について、必要な内容や量を理解する。		2学期
4	消費行動における意思決定について学ぶ。		責任ある消費の重要性について理解を深める。 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう、消費者問題や消費者の自立と支援などについて理解する。		3学期
テスト					
時期	試験範囲		内容		
1学期	教科書P20～P43 レポート①		第2章人生をつくる		
2学期	教科書P104～P121 レポート② 教科書P94～P103 レポート③		第5章共に生き、共に支える 第6章食生活をつくる		
3学期	教科書P230～P251 レポート④		第9章経済生活を営む		
評価の基準		●下記の（1）～（3）の項目を、評価の観点別（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）に評価する。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断する。 （1）授業への取り組み 授業に対する姿勢、学習態度、出席状況を総合的に判断し評価する。評価の観点のうち、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 （2）レポートへの取り組み 授業内容を理解し適切にまとめているか、提出期限は守られているかなどを評価する。評価観点のうち、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 （3）期末・学年末考査 学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現の項目を評価する。			

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者	
必修	2	家庭	家庭総合	2	前田 美樹	
学習目標						
生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次の通り育成することを目指す。						
(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的、総合的に身に付けるようにする。						
(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。						
(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。						
面接指導	4回		教科書	「家庭総合 自立・共生・創造」東京書籍		
レポート	全4通		副教材	無		
単位認定試験	年間3回	単位評定30点以上	評定	5段階評価、観点別評価の実施		
メディア利用	無					
添削課題（レポート）						
回	単元	学習内容			教科書ページ	提出締切り
1	第2章 人生をつくる	生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。 よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結びつきを理解する。 社会制度としての家族や家族と法律を理解する。 誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるよう、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて理解する。			P20～P43	1学期レポート 提出最終日
2	第6章 食生活をつくる	よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。 自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。			P104～P121	2学期レポート 提出最終日
3	第5章 共に生き、共に支える	誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。 私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たし、つながっていけばよいか、考える。			P94～P103	2学期レポート 提出最終日
4	第9章 経済生活を営む	自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。 毎日の生活におけるさまざまな契約について理解する。 販売方法や支払方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう、契約の重要性について理解する。 消費者には権利と責任があることを理解する。 消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者保護制度について理解する。 生涯を見通して家計をマネジメントする力をつけるため、家計の構造やリスクを踏まえた金融資産のマネジメントについて理解する。			P230～P251	3学期レポート 提出最終日
面接指導						
回	目的		内容			実施時期
1	誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造するには、どのような社会を実現すればよいかを学ぶ。		生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題について理解する。 家族・家庭の機能と意義について理解を深める。 家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深める。			1学期
2	自分と家族の食生活を計画・管理できるようになるために、食生活の特徴や課題を理解し、「健康によい、栄養バランスのよい食事」とはどのようなものを学ぶ。		食生活を取り巻く課題など、食と人との関わりについて理解する。 栄養の特徴や食品の栄養的特質について理解する。			2学期
3	地域の防災について理解し、家庭や地域及び社会の一員として災害時に共に支え合う重要性について学ぶ。		地域の防災について理解を深める。 家庭や学校周辺の防災マップを確認し、連絡方法や避難方法について理解する。 災害に備えての自宅の備蓄について、必要な内容や量を理解する。			2学期
4	消費行動における意思決定について学ぶ。		責任ある消費の重要性について理解を深める。 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう、消費者問題や消費者の自立と支援などについて理解する。			3学期

テスト		
時期	試験範囲	内容
1学期	教科書P20～P43 レポート①	第2章人生をつくる
2学期	教科書P104～P121 レポート② 教科書P94～P103 レポート③	第5章共に生き、共に支える 第6章食生活をつくる
3学期	教科書P230～P251 レポート④	第9章経済生活を営む
評価の基準		●下記の（１）～（３）の項目を、評価の観点別（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）に評価する。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断する。 （１）授業への取り組み 授業に対する姿勢、学習態度、出席状況を総合的に判断し評価する。評価の観点のうち、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 （２）レポートへの取り組み 授業内容を理解し適切にまとめているか、提出期限は守られているかなどを評価する。評価観点のうち、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 （３）期末・学年末考査 学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現の項目を評価する。

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
必修	3	家庭	家庭総合	4	前田 美樹
学習目標					
面接指導	8単位時間		教科書	「家庭総合 自立・共生・創造」東京書籍	
レポート	全8通		副教材	なし	
単位認定試験	年間3回	単位評定30点以上	評定	5段階評価、観点別評価の実施	
メディア利用	なし				
添削課題（レポート）					
回	単元	学習内容		教科書ページ	提出締切り
1	第3章 子どもと共に育つ	新生児の身体の特徴や生まれつき持っている能力について理解する。		P44～P75	1学期レポート 提出最終日
2		子どもや子育てに対する理解を深めるために、乳幼児期の心身の発達や生活習慣について理解する。			1学期レポート 提出最終日
3		子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの衣食住について理解する。			1学期レポート 提出最終日
4		子供どもを取り巻く社会環境の変化や課題及び子供の福祉について理解を深めている。			1学期レポート 提出最終日
5	第10章 持続可能な生活を営む	持続可能なライフスタイルの実現に向けて、身近な生活と環境との関わりについて理解する。 誰もが生涯を通して自分の力を生か、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくりについて理解する。		P252～P259	2学期レポート 提出最終日
6	ホームプロジェクト	自己の生活を主体的に営むために必要な家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などから課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践する。また、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。		P4～P9	2学期レポート 提出最終日
7	第9章 経済生活を営む	生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性やライフスタイルについて理解する。		P230～P251	2学期レポート 提出最終日
8	第5章 共に生き、共に支える	生涯を通して家族・家庭生活を支える福祉や社会的支援や家庭と地域との関わりについて理解する。		P94～P103	3学期レポート 提出最終日
面接指導					
回	目的		内容		実施時期
1	社会の一員として次世代を育むために、命に対する責任や親となることについて考え、理解する。		命の誕生や子どもが生まれつき持っている能力について学び、親だけでなく、社会全体で子育てをすることの必要性を学ぶ。		1学期
2	絵本や紙芝居の読み聞かせを通して、子どもや子育てに対する理解を深める。		絵本や紙芝居が子どもの豊かな心や言葉の発達を育む上で大切であることを理解し、読み聞かせや語り聞かせに必要な技能について学ぶ。		1学期
3	子どもの発達に応じて適切に関わるための技能を身に付ける。		子どもの発達に応じて、どのような関わり方をすればよいか、声かけや遊び方の違いを学ぶ。		1学期
4	持続可能な消費や生活について理解し、自分のライフスタイルを見直す。		一人の主体者として、持続可能な社会を構築するために身近な生活で実践できることを考える。		2学期
5	ホームプロジェクトの意義と実施方法について理解し、取り組む。		生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。		2学期
6	ホームプロジェクトについてまとめ、発表する。		実践を論理的に評価し、考察したことを他者に分かりやすく発表する。また、他者の発表を聞き、自分の生活に当てはめて考える。		2学期
7	自立した消費者として、よりよい意思決定ができるよう、消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解を深める。		販売方法や支払い方法が多様化する中で、責任ある消費行動が取れるよう、消費者信用、多重債務問題などについて、正しく理解し活用できるように学ぶ。		2学期
8	自らの安全を確保するための行動がとれるように、防災について理解を深める。		災害が起こった時の避難場所や避難方法を具体的に考えることで、被害を最小限にとどめ、適切に意思決定し、行動選択ができるように、防災について理解を深める。		3学期
テスト					
時期	試験範囲		内容		
1学期	P44～P60、P62～P75		第3章 子どもと共に育つ		
2学期	P252～P259、P4～P9、P230～P251		第10章 持続可能な生活を営む、ホームプロジェクト、第9章 経済生活を営む		
3学期	P94～P103		第5章 共に生き、共に支える		
評価の基準		●下記の（１）～（３）の項目を、評価の観点別（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）に評価する。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断する。 （１）授業への取り組み 授業に対する姿勢、学習態度、出席状況を総合的に判断し評価する。評価の観点のうち、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 （２）レポートへの取り組み 授業内容を理解し適切にまとめているか、提出期限は守られているかなどを評価する。評価観点のうち、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 （３）期末・学年末考査 学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち、知識・技能、思考・判断・表現の項目を評価する。			

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
必履修	1	情報	情報Ⅰ	2	浅沼 比呂樹
学習目標					
情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。					
面接指導	全4回	合格時間数：2単位時間		教科書	東京書籍 新編「情報Ⅰ」
レポート	全4通	合格通数：4通		副教材	
単位認定試験	年間3回	単位認定30点以上		評定	5段階評価、観点別評価の実施
メディア活用	なし				
レポート					
回	単元	学習内容		教科書ページ	締切り
1	情報で問題を解決する	情報技術や社会における情報の特性を理解し、問題解決の流れや発想法を学ぶ。また、SNSやソーシャルエンジニアリングによる情報流出や盗難、著作権、引用方法を理解する。そして、新技術（画像処理、AIなど）の影響や健康問題、サイバー犯罪対策について考える。		P6～32	5/26（月）
2	情報を伝える	メディアとコミュニケーションの変遷や特性、ソーシャルメディアでのつながり、ネットの記録性・匿名性を学ぶ。また、デジタルデータのメリット・デメリット、2進法、デジタル表現（文字、音、画像、動画）や色の原理、データ圧縮を理解する。さらに情報デザイン、ユニバーサルデザイン、ユーザインタフェース、デザイン思考を活用し、分かりやすい文書作成やデザインプロセスを学ぶ。		P34～60	6/23（月）
3	コンピュータを活用する	コンピュータの基本構成やハードウェア、ソフトウェアの仕組みを理解し、プログラムの動作や演算方法、基本的な回路について学ぶ。アルゴリズムの必要性や表現方法、プログラム作成と制御構造を学び、配列やリスト、関数の利用方法を理解する。また、モデル化の考え方やシミュレーションによる評価を学び、表計算ソフトでシミュレーションを行う。		P62～88	10/6（月）
4	データを活用する	情報通信ネットワークやLANとWANの違い、プロトコル（TCP/IP）について学び、ネットワークを構成するハードウェアやサーバの役割を理解する。インターネットでのIPアドレス、DNS、認証後に使えるサービスを学び、WWWや電子メールの仕組みを理解する。また、情報セキュリティの機密性・完全性・可用性を学び、データベースやデータ分析の活用法、解釈方法も学習する。		P90～116	2/9（月）
面接指導					
回	目的	内容			時期
1	情報で問題を解決する	情報技術や社会における情報の特性を理解し、問題解決の流れや発想法を学ぶ。また、SNSやソーシャルエンジニアリングによる情報流出や盗難、著作権、引用方法を理解する。そして、新技術（画像処理、AIなど）の影響や健康問題、サイバー犯罪対策について考える。			1学期
2	情報を伝える	メディアとコミュニケーションの変遷や特性、ソーシャルメディアでのつながり、ネットの記録性・匿名性を学ぶ。また、デジタルデータのメリット・デメリット、2進法、デジタル表現（文字、音、画像、動画）や色の原理、データ圧縮を理解する。さらに情報デザイン、ユニバーサルデザイン、ユーザインタフェース、デザイン思考を活用し、分かりやすい文書作成やデザインプロセスを学ぶ。			
3	コンピュータを活用する	コンピュータの基本構成やハードウェア、ソフトウェアの仕組みを理解し、プログラムの動作や演算方法、基本的な回路について学ぶ。アルゴリズムの必要性や表現方法、プログラム作成と制御構造を学び、配列やリスト、関数の利用方法を理解する。また、モデル化の考え方やシミュレーションによる評価を学び、表計算ソフトでシミュレーションを行う。			2学期
4	データを活用する	情報通信ネットワークやLANとWANの違い、プロトコル（TCP/IP）について学び、ネットワークを構成するハードウェアやサーバの役割を理解する。インターネットでのIPアドレス、DNS、認証後に使えるサービスを学び、WWWや電子メールの仕組みを理解する。また、情報セキュリティの機密性・完全性・可用性を学び、データベースやデータ分析の活用法、解釈方法も学習する。			3学期
評価の基準	【知識・技能】効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。 【主体的に学習に取り組む態度】情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。				

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
必履修	1	情報	情報Ⅰ	2	木村 勇貴
学習目標					
情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。					
面接指導	全4回	合格時間数：2単位時間		教科書	東京書籍 新編「情報Ⅰ」
レポート	全4通	合格通数：4通		副教材	東京書籍 新編「情報Ⅰ」資料ノート ライフイズテックLESSON（プログラミング教材）
単位認定試験	年間3回	単位認定30点以上		評定	5段階評価、観点別評価の実施
メディア活用	なし				
レポート					
回	単元	学習内容		教科書ページ	締切り
1	情報で問題を解決する	情報技術や社会における情報の特性を理解し、問題解決の流れや発想法を学ぶ。また、SNSやソーシャルエンジニアリングによる情報流出や盗難、著作権、引用方法を理解する。そして、新技術（画像処理、AIなど）の影響や健康問題、サイバー犯罪対策について考える。		P6～32	5月
2	情報を伝える	メディアとコミュニケーションの変遷や特性、ソーシャルメディアでのつながり、ネットの記録性・匿名性を学ぶ。また、デジタルデータのメリット・デメリット、2進法、デジタル表現（文字、音、画像、動画）や色の原理、データ圧縮を理解する。さらに情報デザイン、ユニバーサルデザイン、ユーザインタフェース、デザイン思考を活用し、分かりやすい文書作成やデザインプロセスを学ぶ。		P34～60	6月
3	コンピュータを活用する	コンピュータの基本構成やハードウェア、ソフトウェアの仕組みを理解し、プログラムの動作や演算方法、基本的な回路について学ぶ。アルゴリズムの必要性や表現方法、プログラム作成と制御構造を学び、配列やリスト、関数の利用方法を理解する。また、モデル化の考え方やシミュレーションによる評価を学び、表計算ソフトでシミュレーションを行う。		P62～88	10月
4	データを活用する	情報通信ネットワークやLANとWANの違い、プロトコル（TCP/IP）について学び、ネットワークを構成するハードウェアやサーバの役割を理解する。インターネットでのIPアドレス、DNS、認証後に使えるサービスを学び、WWWや電子メールの仕組みを理解する。また、情報セキュリティの機密性・完全性・可用性を学び、データベースやデータ分析の活用法、解釈方法も学習する。		P90～116	11月
面接指導					
回	目的	内容			時期
1	情報で問題を解決する	情報技術や社会における情報の特性を理解し、問題解決の流れや発想法を学ぶ。また、SNSやソーシャルエンジニアリングによる情報流出や盗難、著作権、引用方法を理解する。そして、新技術（画像処理、AIなど）の影響や健康問題、サイバー犯罪対策について考える。			4月
2	情報を伝える	メディアとコミュニケーションの変遷や特性、ソーシャルメディアでのつながり、ネットの記録性・匿名性を学ぶ。また、デジタルデータのメリット・デメリット、2進法、デジタル表現（文字、音、画像、動画）や色の原理、データ圧縮を理解する。さらに情報デザイン、ユニバーサルデザイン、ユーザインタフェース、デザイン思考を活用し、分かりやすい文書作成やデザインプロセスを学ぶ。			6月
3	コンピュータを活用する	コンピュータの基本構成やハードウェア、ソフトウェアの仕組みを理解し、プログラムの動作や演算方法、基本的な回路について学ぶ。アルゴリズムの必要性や表現方法、プログラム作成と制御構造を学び、配列やリスト、関数の利用方法を理解する。また、モデル化の考え方やシミュレーションによる評価を学び、表計算ソフトでシミュレーションを行う。			9月
4	データを活用する	情報通信ネットワークやLANとWANの違い、プロトコル（TCP/IP）について学び、ネットワークを構成するハードウェアやサーバの役割を理解する。インターネットでのIPアドレス、DNS、認証後に使えるサービスを学び、WWWや電子メールの仕組みを理解する。また、情報セキュリティの機密性・完全性・可用性を学び、データベースやデータ分析の活用法、解釈方法も学習する。			10月
評価の基準	【知識・技能】効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。 【主体的に学習に取り組む態度】情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。				

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
選択履修	1	家庭	FD（高松）	2	前田 美樹、松山 明代
学習目標					
1. 多種多様な食品について、栄養的価値、調理上の特徴を体験的に理解し、各自の食生活に生かせる力を養う。 2. 栄養バランスのよい食事計画が作成でき、それらを調理するための知識と技術を養う。 3. 年中行事における食事を理解し、日本の伝統食についての知識と技術を習得し、後世へ伝承できるようにする。 4. 食事作りの喜びや集団での食事の楽しみを知る。 5. 輸入食品によって支えられている食糧事情を理解し、食物を大切にすることを養う。					
面接指導	4回		教科書	無	
レポート	全4通		副教材	無	
単位認定試験	無		評定	5段階評価、観点別評価の実施	
メディア利用	無				
添削課題（レポート）					
回	単元	学習内容		教科書ページ	提出締切り
1	調理の基本	計量器による食品の容量と重量について、計量の方法や計算方法を学ぶ。 食品の切り方について、具体的な知識と技術を学ぶ。			1学期レポート 提出最終日
2	食品の選択と取り扱い	食中毒の種類や原因について学ぶ。 食中毒の危険性について知り、正しい予防の方法を学ぶ。			2学期レポート 提出最終日
3	行事食	日本の行事食について地域ごとに異なる特徴があることを学ぶ。 日本の伝統行事の継承や和風料理を伝承する能力を培う。			2学期レポート 提出最終日
4	様式別の献立と調理・食卓作法	各様式別料理の特徴を理解する。 各様式の献立構成、食卓構成、作法を理解する。 各様式に適した献立作成や供応に伴うマナーを身に付ける。			3学期レポート 提出最終日
面接指導					
回	目的		内容		実施時期
1	計量の方法、食品の切り方について、基本的な知識を習得させる。		計量器による食品の計量の方法を学ぶ。 食品の切り方について、具体的な知識と技術を学ぶ。		1学期
2	食中毒や衛生についての知識を深め、衛生と安全に配慮した調理ができるようにさせる。		食中毒の種類、原因、症状、予防方法を確認する。 最近ニュースになった食中毒と原因を調べさせる。 自分や家族の生活の中でできる食中毒予防方法をまとめさせる。		2学期
3	日本の行事食などのよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を確認する。		日本の行事食について興味を持たせる。 日本の行事食である雑煮について、地域ごとの異なる特徴を知り、情報を収集しまとめさせる。		2学期
4	和風・洋風・中国風ごとのテーブルコーディネートの特徴を知り、手順やサービス、マナーについて理解させる。		日本料理・西洋料理・中国料理など代表的な料理様式についての、食卓構成や食卓作法、供応に伴うマナーを学ぶ。		3学期
テスト					
時期	試験範囲		内容		
1学期					
2学期					
3学期					
評価の基準		●下記の（１）～（２）の項目を、評価の観点別（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）に評価する。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断する。 （１）授業への取り組み 授業に対する姿勢、学習態度、出席状況、実技試験を総合的に判断し評価する。評価の観点のうち、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 （２）レポートへの取り組み 授業内容を理解し適切にまとめているか、提出期限は守られているかなどを評価する。評価観点のうち、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。			

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者	
選択履修	2	家庭	FD	2	前田 美樹	
学習目標						
・ 多種多様な食品について、栄養的価値、調理上の特徴を体験的に理解し、各自の食生活に生かせる力を養う。						
・ 栄養バランスのよい食事計画が作成でき、それらを調理するための知識と技術を養う。						
・ 年中行事における食事を理解し、日本の伝統食についての知識と技術を習得し、後世へ伝承できるようにする。						
・ 食事作りの喜びや集団での食事の楽しみを知る。						
・ 輸入食品によって支えられている食糧事情を理解し、食物を大切にする心を養う。						
面接指導	4回		教科書	無		
レポート	全4通		副教材	無		
単位認定試験	無		評定	5段階評価、観点別評価の実施		
メディア利用	無					
添削課題（レポート）						
回	単元	学習内容			教科書ページ	提出締切り
1	献立作成	栄養バランス、年齢、性、目的を考慮した食事の献立作成について学ぶ。 お弁当の特徴を理解したうえで、お弁当作りの注意点について学ぶ。				1 学期レポート 提出最終日
2	味の相互作用	味の相互作用について学ぶ。 素材の違いによる出汁の取り方や特徴について理解する。				2 学期レポート 提出最終日
3	世界の主食	各国で主食として食べられている米の種類や特徴について理解する。 米の調理法について学ぶ。				2 学期レポート 提出最終日
4	郷土食	日本各地の郷土食について学ぶ。 郷土食のよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を理解する。				3 学期レポート 提出最終日
面接指導						
回	目的		内容		実施時期	
1	献立を作成するための留意点を理解し、のぞましい献立作成ができる能力を身につける。		食事のテーマに応じた献立作成、食品材料の選択と調理など、一連の流れを計画する方法について理解する。 具体的な食事テーマを設定し、その目的に応じた献立を考える。		1 学期	
2	素材の違いによる出汁の取り方を学ぶ。 出汁の特徴について理解を深める。		実験を通して、素材の違いによる出汁の特徴や調理上の性質を理解する。 それぞれの出汁がどのような料理に適するのかを考える。		2 学期	
3	世界の食文化に関心を持つ。 世界各国の主食を知り、その特徴について理解を深める。		米を使った諸国の料理を知り、それぞれの国の食文化を理解する。		2 学期	
4	日本の食文化である郷土食について学ぶ。 郷土食が地域やライフスタイルに合わせて作り上げられたことを理解する。		日本各地の郷土食について知る。 郷土食は生活と密着したものであり、地域やライフスタイルに合わせて多様な文化を作り上げてきたことを理解する。		3 学期	
テスト						
時期	試験範囲		内容			
1学期						
2学期						
3学期						
評価の基準		●下記の（１）～（２）の項目を、評価の観点別（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）に評価する。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断する。 （１）授業への取り組み 授業に対する姿勢、学習態度、出席状況、実技試験を総合的に判断し評価する。評価の観点のうち、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。 （２）レポートへの取り組み 授業内容を理解し適切にまとめているか、提出期限は守られているかなどを評価する。評価観点のうち、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の項目を評価する。				

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
選択履修	全		総合探究	1～2	塚原 竜一（高松校）
総合探究課題					
水と言葉と人間の暮らし～水と観光～					
総合的な探究の時間の目標					
探究で培った観点・考え方のもと、人の存在・社会の存在・社会的機能を理解し、様々な社会的問題に取り組んで行く為に、以下の資質・能力を育成する。					
(1)体験・経験を知識として蓄積し、活用する力					
(2)様々な事例を比較対照し、あらゆる角度から分析する力					
(3)様々な出来事・事象に関心を持ち、あらゆる年代の人たちと意見交換や情報伝達ができる力					
探究学習目標					
前年、大分県竹田市直入町で水についての意識調査を行った。豊富な湧き水が人々を集め、そして、地域の経済活動においても影響を及ぼしていることも理解できた。水が人を動かし、生活に潤いを与えている状況を目の当たりにした。湧き水が生活をしていく上で、重要なものであり、大切なライフラインであることを当たり前のこととして生活している、直入地域の人々は、水を守ろうという意識的な動きではなく、生活習慣の中に水を守るという動きが存在している。お祭りの前だから、湧き水の周囲を清掃しているという動きこそがその証左であると思われる。だからといって、水を自分達だけでという発想ではなく、水を求めてくる多くの人々に供給しているのである。水を使いながら、守るという典型的な形ではないだろうか。このような、地域性を外にアピールしながら、観光への展開を考えてみたい。また、自然と人との繋がり、また人と人との繋がりを学び、故郷である高松の地域特性をも考える契機とする。					
面接指導	7		共同指導	大分県竹田市直入支所	
レポート	2		副教材		
単位認定試験	なし		評定	5段階で評価	
メディア利用	なし				
面接指導					
回	目的	学習内容			実施予定日
1	前年度、探究活動を行って復習を行う。	1 直入小津留の湧水近辺での取材・調査活動について (1)高松市を出発してから、直入町までの行程・動向の確認をする。 (2)水に関する意識調査（アンケート）についての確認 (3)コミュニケーションの取り方・アンケート調査における人との接し方についての確認			5月指定日
2	観光資源について	5月23日全校で、校外学習で大阪万博に行くことになっている。万博のどういうところが、人を呼び寄せるものになっているのか。どのようなところが、観光資源なのか、考えさせる。 事前に課題を与え、万博の見学の際に、その課題に対しての解答を、映像として残しておく。 観光の専門家に、観光についてのお話をしていただく。			6月指定日
3	おづるの湧水に集まる人々の特徴を、前回アンケート調査結果からみていく。	3 おづるの湧水に集う人々の特徴 (1) 世代別の特徴 (2)地域別の特徴(3)おづる湧水に集う人々の特徴 (4)竹田市の観光施策について工藤氏講演竹田市から工藤氏をお迎えし、観光行政についてお話をいただく。その後、水と観光についての研究討議にはいる。			7月指定日
4	現地取材	・湧水地取材（様々な湧水地を取材） ・アンケート調査（各箇所に別れて行う） ・地元の方々と懇談（昨年と同様） コミュニケーション能力、対話力、対人関係を学ぶ			8月指定日
5	文化祭で中間発表	5 中間報告（文化祭発表会） ・水と観光というテーマ（場合によっては生徒それぞれにテーマ）で、竹田市（特に直入）の観光の在り方を考える。 ・様々な映像を利用しながら、直入のイメージ映像を作成する。			9月指定日
6	観光という視点を考える	非日常的体験ができるものを観光資源であると考えられるのではないだろうか。もし、観光資源を湧水とそれに関連する施設等にすれば、どのようなことが考えられるのだろうか。全体で検討する。もしくは、観光の考え方において、外部の人に協力をいただく。（未定）			10月指定日
7	観光という視点を考える	日常に体験できないことが、直入でできるとすれば、それは何か。そこを見つめなおすことで、非日常体験プログラムを作成する。			11月指定日
8	探究発表会での成果発表	これまでの体験や経験、また、専門的な知識や考察によって得たものを、いかに効果的に周囲に伝えるか前提として文章表現を考え、視聴覚機器を駆使して目的を果たす。最終的には、高松の地域特性を分析することを忘れない。			12月指定日
9					

レポート・発表指導

回	目的	内容	実施時期
1	中間報告を発表する	これまで、経験したこと、実践したことの感想を中心に、この探究によって得た知識の発表	9月指定日
2	最終成果報告	それぞれ学んだ専門的な知識・経験から、高松をどうとらえるか。この問いに関して、それぞれが答えをもっていること。タブレットや、パワーポイントなどのソルトを活用して、効果的な発表を行うこと。感想だけで終わらずに、それぞれが分析した客観的資料を用いること。	12月指定日
評価の基準			
評価項目		内容	
知識及び技能		それぞれに違う視点・価値観を評価し、協働して取り組む。	
思考力、判断力、表現力等		物事を、それぞれの知識から分析し、総合的にまとめる。 データを分析し、原因と結果を導きだす。	
学びに向かう力、人間性等		探究を通して、あらためて地域社会の存在と自身との関係を捉え、積極的に社会問題に取り組む。	
評価方法	時間ごとの経過報告書、中間発表の内容、最終発表会での内容を中心に評価する。外部の協力者の評価も参考にする。		

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
選択履修	全		総合探究	1～2	塚原 竜一（高松校）
総合探究課題					
鉄配筋から見た香川（高松）の街並み					
総合的な探究の時間の目標					
探究で培った観点・考え方のもと、人の存在・社会の存在・社会的機能を理解し、様々な社会的問題に取り組んで行く為に、以下の資質・能力を育成する。					
(1)体験・経験を知識として蓄積し、活用する力					
(2)様々な事例を比較対照し、あらゆる角度から分析する力					
(3)様々な出来事・事象に関心を持ち、あらゆる年代の人たちと意見交換や情報伝達ができる力					
探究学習目標					
日常みかける住宅などの建築物や、橋梁や高速道路などの構造物の中には、耐震性を維持し、地盤沈下や建造物の傾きを防ぐために、基礎配筋工事が行われて、鉄の骨組みが構造物の内部に広がっている。構造物を支える基礎配筋を学び、社会におけるそのテクノロジーの重要性を学ぶとともに、特に耐震性にすぐれた構造物や建築物を学び、理想的な社会の街並みを創造する。 ・社会におけるこのテクノロジーの役割を理解し、それを自身に置き換え、自分がどのようなことにおいて、社会的責任を果たすことができるか、もしくは、どのような方面においてその責任を果たすことができる人材となり得るか、考える契機とする。 ・地元を中心として、企業展開しているその活動の中で、どのような面において地域貢献ができているのかが理解できる。 ・限りなく研鑽をすすめていくことが、テクノロジーの進歩や発展につながるともに、ともに働く仲間に対しての相互扶助であり、地域貢献につながる事がわかる。					
面接指導	7		共同指導	創興業株（株）	
レポート	2		副教材	なし	
単位認定試験	なし		評定	5段階で評価	
メディア利用	なし				
面接指導					
回	目的	学習内容			実施予定日
1	撤去を考えた基礎配筋の存在を知る	5月23日に、村上学園全校で、大阪国際博覧会を見学に行くことが決定している。恒久的な展示スペースではなく、一時的なイベントスペースとしての「パビリオン」は、どんな基礎工事を行っているのだろうか。この視点を軸として、大阪万博博覧会内にある建造物を分析した結果を提示する。 恒久的に建造物を維持していくための基礎配筋もテクノロジーであり、一時的なイベントスペースとして維持し、後の撤去のことを考えた基礎配筋もテクノロジーである。 同時に二つの建造物の見方を楽しめると同時に、目的に応じた基礎配筋の在り方を学ぶことができる。			5月指定日
2	基礎配筋の在り方を学ぶ	大阪万博での経験を基に、大きさに対してのあるべき基礎配筋の在り方を学ぶ。具体的な建造物を通じて、年数に対して、どれくらいの配筋が必要であるのかを、具体的な数値計算のもと学んで行く。 ・現実の建造物（パビリオン）の映像を利用しながら、実生活の中に存在している、あるいはなくてはならないテクノロジーの存在を学ぶ。			6月指定日
3	基礎配筋の模型をつくる。	基礎配筋の考え方と構造を学び、実際に模型を作成する。文化祭において展示するために、8/6、8/20に実技補助員が2名つき完成させる。（二級建築施工管理技師の資格相当） ・模型を展示する。配筋模型の機能を説明できるようになる。 ・ここまで学んだ基礎配筋についての感想や、また、建築構造物についての自分の考えをまとめる。			7月指定日
4	文化祭で中間発表	文化祭において、展示・中間報告を行う。これまでの活動を振り返り、鉄配筋の重要性や、テクノロジーについての自分の考えをまとめ、中間報告という形で発表をする。個人がからグループ全体という形で発表内用や原稿とまとめる作業を行う。			9月指定日
5	高松の街並を散策して配筋を考える。	今まで学んだ配筋の知識を活用して、高松の街並みを散策しながら、実際の建築構造物を見て、配筋の大きさを想定する。理想的な社会の街並みを、鉄配筋の構造から考える。			10月指定日
6	実際の現場を見学	実際の現場を見学して、いかに我々の日常生活の中で鉄配筋というテクノロジーが重要な役割を担っているのかを理解する。社会とテクノロジーとの関係性を考える。タブレット等を活用して、発表会での資料映像なども作成する。			11月指定日
7	探究発表会での成果発表	これまでの体験や経験、また、専門的な知識の吸収によって得たものを、いかに効果的に周囲に伝えるか考え、文章表現を考え、視聴覚機器を駆使して目的を果たす。最終的には、鉄配筋を通して、高松を分析した内容を忘れない。			12月指定日
8					
9					

レポート・発表指導			
回	目的	内容	実施時期
1	中間報告を発表する	これまで、経験したこと、実践したこと感想を中心に、この探究によって得た知識の発表	9月指定日
2	最終成果報告	それぞれ学んだ専門的な知識・経験から、高松をどうとらえるか。この問いに関して、それぞれが答えをもっていること。タブレットや、パワーポイントなどのソルトを活用して、効果的な発表を行うこと。感想だけで終わらずに、それぞれが分析した客観的資料を用いること。	12月指定日
評価の基準			
評価項目		内容	
知識及び技能		それぞれに違う視点・価値観を評価し、協働して取り組む。	
思考力、判断力、表現力等		物事を、それぞれの知識から分析し、総合的にまとめる。 データを分析し、原因と結果を導きだす。	
学びに向かう力、人間性等		探究を通して、あらためて地域社会の存在と自身との関係を捉え、積極的に社会問題に取り組む。	
評価方法	時間ごとの経過報告書、中間発表の内容、最終発表会での内容を中心に評価する。外部の協力者の評価も参考にする。		

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者
選択履修	全		総合探究	1～2	塚原 竜一（高松校）
総合探究課題					
防災からみる香川（高松）の暮らし					
総合的な探究の時間の目標					
探究で培った観点・考え方のもと、人の存在・社会の存在・社会的機能を理解し、様々な社会的問題に取り組んで行く為に、以下の資質・能力を育成する。 (1)体験・経験を知識として蓄積し、活用する力 (2)様々な事例を比較対照し、あらゆる角度から分析する力 (3)様々な出来事・事象に関心を持ち、あらゆる年代の人たちと意見交換や情報伝達ができる力					
探究学習目標					
防災とは自然現象による災害から、人間の行為による災害、および住宅内における日常災害まで、種々の災害があるが、それぞれの災害の発生機構を明らかにし、人命および財産の安全を図ることを目的として対策を行うことの総称である。高松(香川)で、どのような災害が起きたのか、歴史学的にまた、地理学的に分析する。また、専門家の指導を受け、災害時においてとるべき行動を学び、日常生活において常に意識すべきことを探求していく。その防災の観点から見えてくる、香川(高松)の暮らしについて考察をする。					
面接指導	7		共同指導	自衛隊	
レポート	2		副教材	なし	
単位認定試験	なし		評定	5段階で評価	
メディア利用	なし				
面接指導					
回	目的	学習内容			実施予定日
1	災害の種類について調べる	・地震・津波・水害・豪雨・大雪・火災・一次(二次)災害の特徴を調べる。タブレットを使用。 ・それぞれに、自分の論を成すための、テーマを設定する。それぞれのテーマには香川(高松)全体の状況を考えるということをはずさない。			5月指定日
2	高松市でおきた災害について調べる	・災害に関する位置づけを行い「防災」という観点から考察をする。 ・「防災」という観点で考察をすすめていくにあたって、他の観点で考察する必要性、また、他の観点との繋がりを考える。 例えば、歴史的観点、地理学的観点、社会的条件など。			6月指定日
3	自衛隊の活動を見学	・陸上自衛隊善通寺駐屯地を訪問し、災害が起きた際の取り組みや、またその対策について講義を受ける。実際に災害時に使用する機材等を見学する。 ・自衛隊は災害に対してどのような定義をしているのか、という点について講演をしていただき、討論をする。 ・発表等で使用する資料等を、タブレットなど使って保存する。 ・事前に、自衛隊側から、いわゆる災害発生時の緊急時の対応について、指導がある予定。			7月指定日
4	文化祭で中間発表	・文化祭において、中間報告を行う。 ・具体的に、高松の街中を散策し、災害が起きそうな場所を調査する。そこの地理的特色から考察をすすめ、各自、グループの発表へと繋げていく。 ・それぞれの個人のテーマから、グループ全体のテーマ設定を行うので、グループ内での議論が、客観的な資料をもとに行われることを注意する。			9月指定日
5	高松市の地理的・歴史的に分析する	・高松市の地理的状况を分析する。 ・歴史的に、災害の起きている場所と、地理的条件と重ねて考察をする。 ・現在に至るまで行われている、「防災」という観点での社会的取り組みについて、調べる。			10月指定日
6	「災害」と「防災」についてまとめる	・これまでの活動を通じて、日常生活でできることは何かを考察する。 ・高松で生活するにあたって、「災害」や「防災」という観点から、共通認識として必要だと考えられる知識や技術を考察し、その内容を的確に言葉で表現し、効果的に伝達する。・「災害」や「防災」という観点から、香川(高松)を捉え、考察をする。			11月指定日
7	探究発表会での成果発表	これまでの体験や経験、また、専門的な知識の吸収や考察によって得たものを、いかに効果的に周囲に伝えるか考え、文章表現を考え、視聴覚機器を駆使して目的を果たす。最終的には、「災害」・「防災」を通して、香川（高松）を分析した内容を忘れない。			12月指定日
8					
9					

レポート・発表指導			
回	目的	内容	実施時期
1	中間報告を発表する	これまで、経験したこと、実践したこと感想を中心に、この探究によって得た知識の発表	9月指定日
2	最終成果報告	それぞれ学んだ専門的な知識・経験から、高松をどうとらえるか。この問いに関して、それぞれが答えをもっていること。タブレットや、パワーポイントなどのソルトを活用して、効果的な発表を行うこと。感想だけで終わらずに、それぞれが分析した客観的資料を用いること。	12月指定日
評価の基準			
評価項目		内容	
知識及び技能		それぞれに違う視点・価値観を評価し、協働して取り組む。	
思考力、判断力、表現力等		物事を、それぞれの知識から分析し、総合的にまとめる。 データを分析し、原因と結果を導きだす。	
学びに向かう力、人間性等		探究を通して、あらためて地域社会の存在と自身との関係を捉え、積極的に社会問題に取り組む。	
評価方法	時間ごとの経過報告書、中間発表の内容、最終発表会での内容を中心に評価する。外部の協力者の評価も参考にする。		

履修区分	学年	教科	科目	単位数	担当者	
選択履修	全		総合探究	1～2	塚原 竜一（高松校）	
総合探究課題						
様々な職業から見た香川（高松）						
総合的な探究の時間の目標						
探究で培った観点・考え方のもと、人の存在・社会の存在・社会的機能を理解し、様々な社会的問題に取り組んで行く為に、以下の資質・能力を育成する。						
(1)体験・経験を知識として蓄積し、活用する力						
(2)様々な事例を比較対照し、あらゆる角度から分析する力						
(3)様々な出来事・事象に関心を持ち、あらゆる年代の人たちと意見交換や情報伝達ができる力						
探究学習目標						
働くということはどういうことであろうか。 ただ、単に生きていくために、あるいはお金を得るために働くのであろうか。単純に日々の生活を過ごしていくために必要なお金を得るためだけならば、ただ、お金をえ得ることができればそれで良いということになる。しかしながら、人間は、社会を形成し、その社会の役割のなかで一つの責任を担うことで、お金を得ることになる。その責任を担うところに、人生の生きがいを見つけることになるのかもしれない。 そのように考えるならば、故郷の高松で働くことは、高松という社会で暮らす人間としての役割を果たすことであり、その責任を担うことなのである。ということは、働くことによって見えてくる高松の姿や形があると考えられるのである。 将来生きがいのある生活を送っていくために、自分は何の為に働いているのか、それぞれの目的と職業観を育成、創造させ、大きくは社会に対しての自分の役割が果たせるように、また、同じ社会に暮らす人たちのフォローアップができる人材になりたい。						
面接指導	7		共同指導			
レポート	2		副教材			
単位認定試験	なし		評定	5段階で評価		
メディア利用	なし					
面接指導						
回	目的	学習内容				実施予定日
1	何の為に働くのかを知る	・それぞれの分野における職種を紹介。 ・何の為に働くのかをそれぞれに考えさせる。発表する。 ・それぞれの職業における社会的役割を考える				5月指定日
2	飲食業から見た高松の姿を知る①	・なぜ高松ではたらくのか ・高松に暮らす人々の特徴は（例えば、こういうところが多い） ・「うどん」ではなくなぜ「ラーメン」なのか。 ・働くことの意義・社会的役割について。 ・飲食業で働くことにおいて必要な資質は。以上の点にちて講演をしていたき、その後、ディスカッションを予定				6月指定日
3	飲食業から見た高松の姿を知る②	本校主催のキャリアガイダンスに参加して、さまざまな職業を知る。 飲食業見学体験。 接客の際に、どんなことに気を付けているか。働くこと（ラーメン作り）から見えてくる高松とは。 飲食業で働くことにおいて必要な資質は。 以上の点から理解できる高松の姿についてまとめる。				7月指定日
4	文化祭での中間発表	飲食業という分野の経験と知識から、「高松で働く」というテーマで、それぞれがどのような職業観をもっているのかを発表する。				9月指定日
5	自動車販売業から見た高松の姿を知る	「自動車販売業から見た高松」というテーマで講演をしていただき、その後意見交換会を行う。 ・「新車」ではなくなぜ「中古車」なのか。 ・働くことについて、注意していること、気を付けていること。 ・自動車販売業で働くことにおいて必要な資質は 以上に三つをはずさずに意見交換をしたい。				9月指定日
6	介護職から見た高松	介護職として働く ・介護職の需要 ・介護職の役割 ・介護職に就くにあたって必要な資質 以上の点において、考えをまとめさせる。				10月指定日
7	介護職から見た高松	実際の介護の現場を見学し、高松の介護の実情を知るとともに、現在の社会における介護の状況を考え、まとめる。実際に高松において、どのような介護が必要であるのかを考える。				11月指定日
8	探究発表会での成果発表	これまでの体験や経験、また、専門的な知識の吸収によって得たものを、いかに効果的に周囲に伝えるか考え、文章表現を考え、視聴覚機器を駆使して目的を果たす。最終的には、職業を通して、高松を分析した内容を忘れない。				12月指定日
9						

レポート・発表指導			
回	目的	内容	実施時期
1	中間報告を発表する	これまで、経験したこと、実践したこと感想を中心に、この探究によって得た知識の発表	9月13日
2	最終成果報告	それぞれ学んだ専門的な知識・経験から、高松をどうとらえるか。この問いに関して、それぞれが答えをもっていること。タブレットや、パワーポイントなどのソルトを活用して、効果的な発表を行うこと。感想だけで終わらずに、それぞれが分析した客観的資料を用いること。	12月12日
評価の基準			
評価項目		内容	
知識及び技能		それぞれに違う視点・価値観を評価し、協働して取り組む。	
思考力、判断力、表現力等		物事を、それぞれの知識から分析し、総合的にまとめる。 データを分析し、原因と結果を導きだす。	
学びに向かう力、人間性等		探究を通して、あらためて地域社会の存在と自身との関係を捉え、積極的に社会問題に取り組む。	
評価方法	時間ごとの経過報告書、中間発表の内容、最終発表会での内容を中心に評価する。外部の協力者の評価も参考にする。		

教科名	特別活動(LHR)	学年	1年生
-----	-----------	----	-----

目標	ホームルームや学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、ホームルームでの話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、以下の資質・能力を育成することを目指す。 (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。 (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。 (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。
----	--

	学習指導要領における内容	実施計画
4月	ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決 ホームルーム内の組織づくりへの参画 学校における多様な集団の生活の向上	「(1)ア」 「(1)イ」 「(1)ウ」 ・新入生オリエンテーション ・学級目標 ・1年間の目標 ・学級委員選出
5月	学校における多様な集団の生活の向上 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成	「(1)ウ」 「(1)ア」 ・新入生歓迎会 ・校外学習計画
6月	学校生活と社会的・職業的自立の意義と理解 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成	「(3)ア」 「(3)ウ」 ・体育祭計画 ・進路ガイダンス
7月	主体的な進路の選択決定と将来設計 国際理解と国際交流の推進	「(3)エ」 「(2)ウ」 ・進路調べ、進路希望調査 ・文化祭計画 ・1学期を振り返って
9月	ホームルーム内の組織づくりへの参画 生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立	「(1)イ」 「(2)オ」 ・学級委員選出 ・防災訓練
10月	自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成	「(2)ア」 ・校外学習計画
11月	社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成	「(3)ウ」 ・消費生活について
12月	生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立 学校生活と社会的・職業的自立の意義の理解	「(3)ア」 ・薬物乱用について ・交通安全 ・2学期を振り返って
1月	ホームルーム内の組織づくりへの参画	「(1)イ」 ・学級員選出
2月	学校における多様な集団の生活の向上 主体的な進路の選択決定と将来設計	「(1)ウ」 「(3)ア」 ・卒業生を送る会計画 ・進路希望調査
3月	学校生活と社会的・職業的自立の意義の理解	「(3)ア」 ・1年を振り返って

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	(1) 自他の違いを認めよりよい交流ができる。 (2) 心や体に関する正しい理解を基に、適切な行動をとり、悩みや不安に向き合い乗り越えようとする姿勢が身につく。
②思考・判断・表現	(1) 集団における生活を向上・充実させるための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成をはかり、実践すること。 (2) 社会の一員として自覚や責任を持ち、社会生活を営む上で必要なマナーやルール、働くことや社会に貢献することについて考えて行動することができる。
③主体的に学習に取り組む態度	(1) 集団の中で自分の役割を主体的に実践し、他と協同して活動に取り組むことができる。 (2) 将来に対する目標を実現するために必要な知識や技能を身に付け、情報を収集、整理することができる。
評価方法	
①知識・技能	ワークシート、発表の内容
②思考・判断・表現	ワークシート、発表の内容
③主体的に学習に取り組む態度	グループ活動への取り組み状況、振り返りシ

教科名	特別活動(学校行事)	学年	全学年
-----	------------	----	-----

目標	全校若しくは学年又はそれらに準ずる集団で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養いながら、以下の資質・能力を育成することを目指す。 (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。 (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。 (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。
----	--

	回	内容	学年 時数	1年生			2年生			3年生		
				コース			コース			コース		
				通学	通信	在宅	通学	通信	在宅	通学	通信	在宅
1学期	1	始業式	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2	入学式	1	○	○	○	△	△	△	△	△	△
	3	新入生歓迎会	2	○	※	※	○	※	※	○	※	※
	4	校外学習1	6	○	※	※	○	※	※	○	※	※
	5	合気道尾崎師範来訪	1	○	※	※	○	※	※	○	※	※
	6	体育祭	3	○	※	※	○	※	※	○	※	※
	7	終業式	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2学期	8	登校日1(文化祭準備)	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	9	登校日2(文化祭準備)	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	10	始業式	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	11	文化祭	6	○	※	※	○	※	※	○	※	※
	12	校外学習2	6	○	※	※	△	△	△	○	※	※
	13	修学旅行	18	△	△	△	○	※	※	△	△	△
	14	終業式	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3学期	15	始業式	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	16	3年生を送る会	2	○	※	※	○	※	※	○	※	※
	17	卒業式	2	△	△	△	△	△	△	○	○	○
	18	終業式	1	○	○	○	○	○	○	△	△	△
合計				39	13	13	50	12	12	39	12	12

○必須 ※選択

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	(1) 儀式行事における礼法やマナーを理解している。 (2) インターネットや書籍などから必要な情報を収集し、整理・分析できる。
②思考・判断・表現	(1) 集団活動を通して、円滑なコミュニケーション方法を理解し、言動の選択ができる。 (2) 調べたことや自ら考えたことを論理的にまとめ、スライドなどを使用して効果的に伝えることができる。
③主体的に学習に取り組む態度	(1) 文化的行事・体育的行事に積極的・協力的に参加している。 (2) 行事の計画や企画において、集団のために何ができるかを考え活動できる。
評価方法	
①知識・技能	ワークシート、発表の内容
②思考・判断・表現	ワークシート、発表の内容
③主体的に学習に取り組む態度	グループ活動への取り組み状況、振り返りシート

教科名	特別活動(LHR)	学年	2年生
-----	-----------	----	-----

目標	ホームルームや学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、ホームルームでの話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、以下の資質・能力を育成することを目指す。 (1)多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。 (2)集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。 (3)自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。
----	---

	学習指導要領における内容	実施計画
4月	ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決 ホームルーム内の組織づくりへの参画 学校における多様な集団の生活の向上	「(1)ア」 「(1)イ」 「(1)ウ」 ・学級目標 ・1年間の目標 ・学級委員選出
5月	学校における多様な集団の生活の向上 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成	「(1)ウ」 「(2)ア」 ・新入生歓迎会 ・校外学習計画
6月	学校生活と社会的・職業的自立の意義と理解 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成	「(3)ア」 「(3)ウ」 ・体育祭計画 ・進路ガイダンス
7月	主体的な進路の選択決定と将来設計 国際理解と国際交流の推進	「(3)エ」 「(2)ウ」 ・進路調べ、進路希望調査 ・文化祭計画 ・1学期を振り返って
9月	ホームルーム内の組織づくりへの参画 生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立	「(1)イ」 「(2)オ」 ・学級委員選出 ・防災訓練
10月	自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成	「(2)ア」 ・修学旅行計画
11月	社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成	「(3)ウ」 ・消費生活について
12月	生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立 学校生活と社会的・職業的自立の意義の理解	「(2)オ」 「(3)ア」 ・薬物乱用について ・交通安全 ・2学期を振り返って
1月	ホームルーム内の組織づくりへの参画	「(1)」 ・学級員選出
2月	学校における多様な集団の生活の向上 主体的な進路の選択決定と将来設計	「(1)ウ」 「(3)ア」 ・卒業生を送る会計画 ・進路希望調査
3月	学校生活と社会的・職業的自立の意義と理解	「(3)ア」 ・1年間を振り返って

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	(1)自他の違いを認めよりよい交流ができる。 (2)心や体に関する正しい理解を基に、適切な行動をとり、悩みや不安に向き合い乗り越えようとする姿勢が身につく。
②思考・判断・表現	(1)集団における生活を向上・充実させるための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成をはかり、実践すること。 (2)社会の一員として自覚や責任を持ち、社会生活を営む上で必要なマナーやルール、働くことや社会に貢献することについて考えて行動することができる。
③主体的に学習に取り組む態度	(1)集団の中で自分の役割を主体的に実践し、他と協同して活動に取り組むことができる。 (2)将来に対する目標を実現するために必要な知識や技能を身につけ、情報を収集、整理することができる。
評価方法	
①知識・技能	ワークシート、発表の内容
②思考・判断・表現	ワークシート、発表の内容
③主体的に学習に取り組む態度	グループ活動への取り組み状況、振り返りシート

教科名	特別活動(LHR)	学年	3年生
-----	-----------	----	-----

目標	ホームルームや学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、ホームルームでの話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、以下の資質・能力を育成することを目指す。 (1)多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。 (2)集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。 (3)自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。
----	---

	学習指導要領における内容	実施計画
4月	ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決 ホームルーム内の組織づくりへの参画 学校における多様な集団の生活の向上	「(1)ア」 「(1)イ」 「(1)ウ」 ・学級目標 ・1年間の目標 ・学級委員選出
5月	学校における多様な集団の生活の向上 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成	「(1)ウ」 「(2)ア」 ・新入生歓迎会 ・校外学習計画
6月	学校生活と社会的・職業的自立の意義と理解 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成	「(3)ア」 「(3)ウ」 ・体育祭計画 ・進路ガイダンス
7月	主体的な進路の選択決定と将来設計 国際理解と国際交流の推進	「(3)エ」 「(2)ウ」 ・進路調べ、進路希望調査 ・文化祭計画 ・1学期を振り返って
9月	ホームルーム内の組織づくりへの参画 生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立	「(1)イ」 「(2)オ」 ・学級委員選出 ・防災訓練
10月	自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成	「(2)ア」 ・校外学習計画
11月	社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成	「(3)ウ」 ・消費生活について
12月	生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立 学校生活と社会的・職業的自立の意義の理解	「(3)ア」 ・薬物乱用について ・交通安全 ・2学期を振り返って
1月	学校生活と社会的・職業的自立の意義の理解	「(3)ア」 ・3年間を振り返って
2月		
3月		

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	(1)自他の違いを認めよりよい交流ができる。 (2)心や体に関する正しい理解を基に、適切な行動をとり、悩みや不安に向き合い乗り越えようとする姿勢が身につく。
②思考・判断・表現	(1)集団における生活を向上・充実させるための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成をはかり、実践すること。 (2)社会の一員として自覚や責任を持ち、社会生活を営む上で必要なマナーやルール、働くことや社会に貢献することについて考えて行動することができる。
③主体的に学習に取り組む態度	(1)集団の中で自分の役割を主体的に実践し、他と協同して活動に取り組むことができる。 (2)将来に対する目標を実現するために必要な知識や技能を身につけ、情報を収集、整理することができる。
評価方法	
①知識・技能	ワークシート、発表の内容
②思考・判断・表現	ワークシート、発表の内容
③主体的に学習に取り組む態度	グループ活動への取り組み状況、振り返りシート

教科名	特別活動(学校行事)	学年	全学年
-----	------------	----	-----

目標	全校若しくは学年又はそれらに準ずる集団で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養いながら、以下の資質・能力を育成することを目指す。 (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。 (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。 (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。
----	--

	回	内容	学年 時数	1年生			2年生			3年生		
				コース			コース			コース		
				通学	通信	在宅	通学	通信	在宅	通学	通信	在宅
1学期	1	始業式	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2	入学式	1	○	○	○	△	△	△	△	△	△
	3	新入生歓迎会	2	○	※	※	○	※	※	○	※	※
	4	校外学習1	6	○	※	※	○	※	※	○	※	※
	5	合気道尾崎師範来訪	1	○	※	※	○	※	※	○	※	※
	6	体育祭	3	○	※	※	○	※	※	○	※	※
	7	終業式	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2学期	8	登校日1(文化祭準備)	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	9	登校日2(文化祭準備)	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	10	始業式	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	11	文化祭	6	○	※	※	○	※	※	○	※	※
	12	校外学習2	6	○	※	※	△	△	△	○	※	※
	13	修学旅行	18	△	△	△	○	※	※	△	△	△
	14	終業式	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3学期	15	始業式	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	16	3年生を送る会	2	○	※	※	○	※	※	○	※	※
	17	卒業式	2	△	△	△	△	△	△	○	○	○
	18	終業式	1	○	○	○	○	○	○	△	△	△
合計				39	13	13	50	12	12	39	12	12

○必須 ※選択

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	(1) 儀式行事における礼法やマナーを理解している。 (2) インターネットや書籍などから必要な情報を収集し、整理・分析できる。
②思考・判断・表現	(1) 集団活動を通して、円滑なコミュニケーション方法を理解し、言動の選択ができる。 (2) 調べたことや自ら考えたことを論理的にまとめ、スライドなどを使用して効果的に伝えることができる。
③主体的に学習に取り組む態度	(1) 文化的行事・体育的行事に積極的・協力的に参加している。 (2) 行事の計画や企画において、集団のために何ができるかを考え活動できる。
評価方法	
①知識・技能	ワークシート、発表の内容
②思考・判断・表現	ワークシート、発表の内容
③主体的に学習に取り組む態度	グループ活動への取り組み状況、振り返りシート